



## show vdev ~ show voice statistics memory-usage

---

- [show vdev](#) (3 ページ)
- [show vfc](#) (6 ページ)
- [show vfc cap-list](#) (7 ページ)
- [show vfc default-file](#) (8 ページ)
- [show vfc directory](#) (9 ページ)
- [show vfc version](#) (11 ページ)
- [show video call summary](#) (15 ページ)
- [show voice accounting method](#) (16 ページ)
- [show voice accounting response pending](#) (19 ページ)
- [show voice busyout](#) (20 ページ)
- [show voice cable-status](#) (22 ページ)
- [show voice call](#) (24 ページ)
- [show voice call rate](#) (36 ページ)
- [show voice cause-code](#) (38 ページ)
- [show voice class called-number](#) (40 ページ)
- [show voice class called-number-pool](#) (41 ページ)
- [show voice class e164-pattern-map](#) (43 ページ)
- [show voice class e164-translation](#) (45 ページ)
- [show voice class phone-proxy](#) (47 ページ)
- [show voice class resource-group](#) (49 ページ)
- [show voice class server-group](#) (51 ページ)
- [show voice class sip-options-keepalive](#) (53 ページ)
- [show voice class sip-predefined-profiles](#) (54 ページ)
- [show voice class uri](#) (55 ページ)
- [show voice connectivity summary](#) (58 ページ)
- [show voice data](#) (59 ページ)
- [show voice dnis-map](#) (61 ページ)
- [show voice dsmp stream](#) (64 ページ)

- [show voice dsp](#) (71 ページ)
- [show voice dsp channel](#) (79 ページ)
- [show voice dsp crash-dump](#) (82 ページ)
- [show voice dsp summary](#) (84 ページ)
- [show voice eddri prefix](#) (86 ページ)
- [show voice emergency locations](#) (87 ページ)
- [show voice enum-match-table](#) (88 ページ)
- [show voice hpi capture](#) (90 ページ)
- [show voice iec description](#) (92 ページ)
- [show voice lmr](#) (94 ページ)
- [show voice pcm capture](#) (100 ページ)
- [show voice port](#) (101 ページ)
- [show voice sip license](#) (114 ページ)
- [show voice source-group](#) (149 ページ)
- [show voice statistics csr interval accounting](#) (152 ページ)
- [show voice statistics csr interval aggregation](#) (155 ページ)
- [show voice statistics csr since-reset accounting](#) (160 ページ)
- [show voice statistics csr since-reset aggregation-level](#) (163 ページ)
- [show voice statistics csr since-reset all](#) (169 ページ)
- [show voice statistics iec](#) (174 ページ)
- [show voice statistics interval-tag](#) (176 ページ)
- [show voice statistics memory-usage](#) (178 ページ)

## show vdev

デジタルシグナルプロセッサ（DSP）に関する情報を表示するには、特権EXECモードでshow vdev コマンドを使用します。

**show vdev** {slot/port}

### 構文の説明

<i>slot</i>	音声カードが取り付けられているスロット。
<i>port</i>	音声カード上のポート。

### コマンドデフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

### コマンドモード

特権 EXEC (#)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.3(2)T	このコマンドが Cisco AS5850 に導入されました。

### 使用上のガイドライン

このコマンドをスタンバイ状態またはアクティブ状態のルートスイッチコントローラ（RSC）で使用すると、指定したポートで動的同期およびバルク同期が正しく実行されているかを確認できます。

### 例

次の例は、324ユニバーサルポートカードの最後のポートに関するコマンド出力です。

```
Router# show vdev 2/323
flags = 0x0000
dev_status = 0x0000
service = 0x0000
service_type = 0x0
min_speed = 0, max_speed = 0
modulation = 0, err_correction = 0, compression = 0
csm_call_info = 0x0, csm_session = Invalid
vdev_p set to modem_info
DSPLIB information:
dsplib_state = 0x0
dsplib_next_action = 0x0
HDLC information:
call_id = 0x0
called_number =
speed = 0
ces = 0x0
spc = FALSE
d_idb = 0x0
Bulk sync reference = 2, Global bulk syncs = 2
```

下の表に、このコマンド出力で表示される重要なフィールドを示します。

表 1: show vdev のフィールドの説明

フィールド	説明
flags	内部 vdev フラグ
dev_status	当該リソースのステータスを示す追加フラグ
service	この DSP で現在実行中のサービス
service_type	RPM から渡されたサービスタイプ
min_speed	設定された最小モデム速度
max_speed	設定された最大モデム速度
modulation	ネゴシエートする最大変調
err_correction	ネゴシエートするエラー訂正
compression	ネゴシエートする圧縮
csm_call_info	関連する csm_call_info 構造のアドレス
csm_session	CSM で維持されたセッション ID
vdev_p	関連するリソース構造のアドレス
dsplib_state	DSPLIB で認識された当該リソースの状態
dsplib_next_action	このリソースで実行する必要がある次の DSPLIB アクション
call_id	このリソースに HDLC コールがある場合、そのコール ID
called_number	このリソースに HDLC コールがある場合、その着信番号
speed	このリソースに HDLC コールがある場合、その接続速度
ces	回線エミュレーションサービスの情報
spc	半永久的なコールリンクの場合、True と表示されます
d_idb	このリソースに HDLC コールがある場合、関連付けられた D チャネル idb のアドレス
Bulk sync reference	このリソースがバルク同期された回数
Global bulk syncs	VDEV 高可用性クライアントによって実行されたバルク同期の回数

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>debug vdev</b>	音声デバイスのデバッグをオンにします。
<b>show redundancy</b>	冗長 RSC に関する、現在のステータスまたは履歴ステータスおよび関連情報を表示します。

## show vfc

host-name-and-address キャッシュ内のエントリを表示するには、特権 EXEC モードで **show vfc** コマンドを使用します。

**show vfc slot-number [technology]**

構文の説明	<i>slot-number</i>	VFC スロット番号。
	<b>technology</b>	(任意) VFC のテクノロジータイプを表示します。

コマンドモード 特権 EXEC (#)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	11.3 NA	このコマンドが Cisco AS5300 に導入されました。
	12.0(2)XH	<b>technology</b> キーワードが追加されました。

### 例

次に示すこのコマンドの出力例では、スロット 1 にあるカードが C549 DSPM であることが示されています。

```
Router# show vfc 1 technology
Technology in VFC slot 1 is C549
```

フィールドの説明は自明のため省略します。

関連コマンド	<b>Command</b>	<b>Description</b>
	<b>voice-card</b>	音声カードを設定し、音声カードコンフィギュレーションモードを開始します。

## show vfc cap-list

この音声フィーチャカード（VFC）の機能リスト上に現在あるファイルを一覧表示するには、ユーザー EXEC モードで **show vfc cap-list** コマンドを使用します。

### show vfc slot cap-list

#### 構文の説明

slot	VFC が設置されているスロット。範囲は 0～2 です。
------	------------------------------

#### コマンドモード

ユーザー EXEC (>)

#### コマンド履歴

リリース	変更内容
11.3 NA	このコマンドが Cisco AS5300 に導入されました。

#### 例

次に、このコマンドの出力例を示します。

```
Router# show vfc 1 cap-list
Capability List for VFC in slot 1:
1. fax-vfc-1.0.1.bin
2. bas-vfc-1.0.1.bin
3. cdc-g729-1.0.1.bin
4. cdc-g711-1.0.1.bin
5. cdc-g726-1.0.1.bin
6. cdc-g728-1.0.1.bin
7. cdc-gsmfr-1.0.1.bin
```

この出力の 1 行目は、これがスロット 1 に常駐している VFC の機能リストであることを示す全般的な説明です。その下には番号付きリストで、現在サービス中のファイルが 1 行につき 1 つ表示されています。

#### 関連コマンド

Command	Description
<b>show vfc default -file</b>	この VFC のデフォルトファイルリストに含まれているデフォルトファイルを表示します。
<b>show vfc directory</b>	この VFC にあるすべてのファイルを一覧表示します。
<b>show vfc version</b>	この VFC に常駐するソフトウェアのバージョンを表示します。

## show vfc default-file

音声機能カード（VFC）のデフォルトファイルリストに含まれている各種デフォルトファイルを表示するには、ユーザー EXEC モードで **show vfc default-file** コマンドを使用します。

### show vfc slot default-file

構文の説明	<i>slot</i> VFC が設置されているスロット。範囲は 0 ~ 2 です。
-------	--

コマンドモード ユーザー EXEC (>)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	11.3 NA	このコマンドが Cisco AS5300 に導入されました。

### 例

次に、このコマンドの出力例を示します。

```
Router# show vfc 1 default-file
Default List for VFC in slot 1:
1. btl-vfc-1.0.13.0.bin
2. cor-vfc-1.0.1.bin
3. bas-vfc-1.0.1.bin
4. cdc-g729-1.0.1.bin
5. fax-vfc-1.0.1.bin
6. jbc-vfc-1.0.13.0.bin
```

この出力の 1 行目は、これがスロット 1 に常駐している VFC のデフォルトリストであることを示す全般的な説明です。その下には番号付きリストで、1 行につき 1 つのデフォルトファイルが表示されています。

関連コマンド	Command	Description
	<b>show vfc cap -list</b>	当該 VFC の機能リストに現在あるファイルを一覧表示します。
	<b>show vfc directory</b>	この VFC にあるすべてのファイルを一覧表示します。
	<b>show vfc version</b>	この VFC に常駐するソフトウェアのバージョンを表示します。

# show vfc directory

音声フィーチャカード（VFC）上に常駐するすべてのファイルを一覧表示するには、ユーザー EXEC モードで **show vfc directory** コマンドを使用します。

## show vfc slot directory

### 構文の説明

<i>slot</i>	VFC が設置されているスロット。範囲は 0 ~ 2 です。
-------------	--------------------------------

### コマンドモード

ユーザー EXEC (>)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
11.3 NA	このコマンドが Cisco AS5300 に導入されました。

### 使用上のガイドライン

このコマンドを使用すると、特定の VFC のフラッシュメモリに現在保存されているすべてのファイルを一覧表示できます。

### 例

次に、このコマンドの出力例を示します。

```
Router# show vfc 1 directory
Files in slot 1 VFC flash:
  File Name                               Size (Bytes)
1 . vcw-vfc-mz.gsm.VCW                    292628
2 . btl-vfc-1.0.13.0.bin                   4174
3 . cor-vfc-1.0.1.bin                      54560
4 . jbc-vfc-1.0.13.0.bin                   16760
5 . fax-vfc-1.0.1.bin                      64290
6 . bas-vfc-1.0.1.bin                      54452
7 . cdc-g711-1.0.1.bin                     190
8 . cdc-g729-1.0.1.bin                     21002
9 . cdc-g726-1.0.1.bin                     190
10. cdc-g728-1.0.1.bin                     22270
11. cdc-gsmfr-1.0.1.bin                    190
```

下の表に、このコマンド出力で表示される重要なフィールドの説明を示します。

表 2: show vfc directory のフィールドの説明

フィールド	説明
File Name	フラッシュメモリに保存されているファイルの名前。
Size (Bytes)	ファイルのサイズ（バイト単位）。

### 関連コマンド

Command	Description
<b>show vfc cap -list</b>	当該 VFC の機能リストに現在あるファイルを一覧表示します。

Command	Description
<b>show vfc default -file</b>	この VFC のデフォルトファイルリストに含まれているデフォルトファイルを表示します。
<b>show vfc version</b>	この VFC に常駐するソフトウェアのバージョンを表示します。

## show vfc version

音声フィーチャカード（VFC）上に常駐するソフトウェアのバージョンを表示するには、ユーザー EXEC モードで **show vfc version** コマンドを使用します。

**show vfc slot version {dspware | veware}**

構文の説明	
<i>slot</i>	VFC が設置されているスロット。範囲は 0 ~ 2 です。
<b>dspware</b>	表示したい DSPWare ソフトウェア。
<b>veware</b>	表示したい VCWare ソフトウェア。

コマンドモード 特権 EXEC (#) ユーザー EXEC (>)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	11.3 NA	このコマンドが Cisco AS5300 に導入されました。
	12.2(11)T	このコマンドの出力が変更され、Cisco IOS リリース 12.2(11)T に統合されました。

使用上のガイドライン このコマンドを使用すると、VFC のフラッシュメモリに現在インストールされているソフトウェアのバージョンを表示できます。

### 例

次に、このコマンドの出力例を示します。

```
Router# show vfc 0 version dspware
Version of Dspware in VFC slot 0 is 0.10
```

このコマンドの出力では、簡単な宣言文で、選択したスロット番号（この例ではスロット 0）に設置されている VFC の選択したタイプのソフトウェア（この例では DSPWare）のバージョン番号が表示されます。

Cisco IOS リリース 12.2(13)T では、**show vfc slot version veware** コマンドおよび **show vfc slot version dspware** コマンドの出力に新しい情報が追加されています。Cisco VCWare または Cisco DSPWare に Cisco IOS イメージとの互換性がない場合は、メッセージが出力されます。この新しい情報はあくまでアドバイスであるため、ソフトウェアに互換性がある場合もない場合も、実行されるアクションはありません。

検出されたバージョンが定義された基準に適合し、かつ互換性がある場合、起動時には何も出力されません。**show vfc version veware** コマンドと **show vfc version dspware** コマンドを使用すると、確認の行が出力されます。

```
Router# show vfc 1 version veware
Voice Feature Card in Slot 1:
VCWare Version      : 7.35
ROM Monitor Version: 1.3
```

```
DSPWare Version    : 3.4.46L
Technology         : C549
VCWare/DSPWare version compatibility OK
```

次の表では、互換性のあるファームウェアに対して `show vfc version veware` コマンドを使用した場合の出力フィールドの説明を示します。

表 3: `show vfc version veware` のフィールドの説明

フィールド	説明
Voice Feature Card in Slot	VFC が設置されているスロット。
VCWare Version	Cisco VCWare のバージョン。Cisco IOS リリース 12.2(11)T 以降では、バージョン 7.35 以上が必要です。
ROM	ROM モニターのバージョンとして 1.3 が表示されています。
DSPWare Version	DSPWare バージョンとして 3.4.46L が表示されています。Cisco IOS リリース 12.2(11)T 以降ではバージョン 3.4.46L 以上が必要です。
Technology	technology には C549 が表示されています。C549 テクノロジーでは、中複雑度または高複雑度のコーデックがサポートされています。
VCWare/DSPWare version compatibility	この Cisco VCWare および DSPWare のバージョンに、Cisco IOS ソフトウェアとの互換性があることが示されています。 VCWare/DSPWare version compatibility には、「OK」または不一致が表示されます。  (注) このオプションは、Cisco IOS リリース 12.2(10) メインライン以降のリリース、または Cisco IOS リリース 12.2(11)T 以降でのみ使用できます。

次に、このコマンドの出力例を示します。

```
Router# show vfc 1 version dspware
DSPWare version in VFC slot 1 is 3.4.46L
VCWare/DSPWare version compatibility OK
```

次の表では、互換性のあるファームウェアに対して `show vfc version dspware` コマンドを使用した場合の出力フィールドの説明を示します。

表 4: `show vfc version dspware` のフィールドの説明

フィールド	説明
Voice Feature Card in Slot	VFC が設置されているスロット。

フィールド	説明
DSPWare Version	DSPWare バージョンとして 3.4.46L が表示されています。Cisco IOS リリース 12.2(10)T 以降ではバージョン 3.4.46L 以上が必要です。
VCWare/DSPWare version compatibility	この Cisco VCWare および DSPWare のバージョンに、Cisco IOS ソフトウェアとの互換性があることが示されています。 VCWare/DSPWare version compatibility には、「OK」または不一致が表示されます。  (注) このオプションは、Cisco IOS リリース 12.2(10) メインライン以降、または 12.2(11)T 以降でのみ使用できます。

見つかったバージョンが範囲外であるかその他の不一致がある場合は、その旨を示すメッセージがルータ起動時に出力されるか、`show vfc version vware` コマンド出力および `show vfc version dspware` コマンド出力に追加されます。これらのメッセージが出力されること以外には、バージョンチェックによる影響は他になく、ソフトウェアは正常に機能します。以下は、見つかったバージョンが起動時に範囲外または不一致である場合の例です。

```
...
Firmware version mismatch for bundle AS5300 VCWare
- version found (6.04) is lower than minimum required (7.35)
Firmware version mismatch for bundle AS5300 C549
- version found (3.3.10L) is lower than minimum required (3.4.46L)
```

明示的な要求を入力した際にソフトウェアに互換性がない場合は、次のような出力が表示されます。

```
Router# show vfc 1 version vware
Voice Feature Card in Slot 1:
VCWare Version      : 6.04
ROM Monitor Version: 1.3
  DSPWare Version   : 3.3.10L
  Technology        : C549
Firmware version mismatch for bundle AS5300 VCWare
- version found (6.04) is lower than minimum required (7.14)
Firmware version mismatch for bundle AS5300 C549
- version found (3.3.10L) is lower than minimum required (3.4.26L)
Router# show vfc 1 version dspware
DSPWare version in VFC slot 1 is 3.3.10L
Firmware version mismatch for bundle AS5300 VCWare
- version found (6.04) is lower than minimum required (7.14)
Firmware version mismatch for bundle AS5300 C549
- version found (3.3.10L) is lower than minimum required (3.4.26L)
```

## 関連コマンド

Command	Description
<code>show vfc cap -list</code>	当該 VFC の機能リストに現在あるファイルを一覧表示します。

Command	Description
show vfc default -file	この VFC のデフォルトファイルリストに含まれているデフォルトファイルを表示します。
show vfc directory	この VFC にあるすべてのファイルを一覧表示します。

# show video call summary

ビデオコールに関する要約情報と Video CallManager (ViCM) の現在のステータスを表示するには、特権 EXEC モードで **show video call summary** コマンドを使用します。

## show video call summary

### 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

### コマンドモード

特権 EXEC (#)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.0(5)XK	このコマンドが Cisco MC3810 に追加されました。
12.0(7)T	このコマンドが Cisco IOS リリース 12.0(7)T に統合されました。

### 使用上のガイドライン

このコマンドを使用すると、現在のビデオコールのステータスをすばやく確認できます。Cisco IOS リリース 12.0(5)XK およびリリース 12.0(7)T では、表示できる進行中のビデオコールは 1 つのみです。

### 例

次の例では、ローカルビデオコーデックに接続するシリアルインターフェイスで進行中のコールがない場合の ViCM 情報が表示されています。

```
Router# show video call summary
Serial0:ViCM =
Idle, Codec Ready
```

次の出力には、開始中のコールが表示されています。

```
Router# show video call summary
Serial0:ViCM = Call Connected
```

次の出力には、接続解除中のコールが表示されています。

```
Router# show video call summary
Serial0:ViCM = Idle
```

### 関連コマンド

Command	Description
<b>show call history video record</b>	ビデオコールに関する情報を表示します。

# show voice accounting method

アカウントリングメソッドリストの接続ステータス情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show voice accounting method** コマンドを使用します。

**show voice accounting method** [*method-list-name*]

構文の説明	<i>method-list-name</i>	(任意) 特定のメソッドリストの名前。このオプションは、この引数で識別される単一のメソッドリストの接続ステータス情報を表示します。
-------	-------------------------	---

**コマンド デフォルト** 引数を指定しなかった場合、すべてのアカウントリングメソッドリストの接続ステータス情報が表示されます。

**コマンドモード** 特権 EXEC (#)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.3(4)T	このコマンドが導入されました。

**使用上のガイドライン** **show voice accounting method** コマンドを使用すると、指定したアカウントリングメソッドリストまたはすべてのアカウントリングメソッドリストのステータス履歴（到達可能もしくは到達不能）、ステータスランジション時間、およびアカウントリングステータスの統計が表示されます。ステータス履歴は最大 10 件表示されます。

## 例

次に、特定のメソッドリストを指定した **show voice accounting method** コマンドの出力例を示します。

```
Router# show voice accounting method m11
Accounting Method List [m11]
=====
Current Status:
-----
unreachable                [21:52:39 gmt Dec 4 2002]
last record sent time     [23:14:59 gmt Dec 4 2002]
total probe sent out      [84]
Status History:
-----
(2) unreachable           [21:52:39 gmt Dec 4 2002]
(1) reachable             [21:46:19 gmt Dec 4 2002]
          SUCCESS                                FAILURE
Record  [Received   | Notified ] [Received   | Notified | Reported ]
Type    [from server| to client] [from server| to client | to call ]
----- [-----] [-----] [-----]
START  [  0   |  0   ] [  0   |  0   |  0   ]
UPDATE [  0   |  0   ] [  0   |  0   |  0   ]
STOP   [  0   |  0   ] [  84  |  84  |  0   ]
ACCT_ON [  0   |  0   ] [  0   |  0   |  0   ]
----- [-----] [-----] [-----]
TOTAL  [  0   |  0   ] [  84  |  84  |  0   ]
```

ステータス履歴がない場合は、次の例のように、ステータス履歴は表示されません。

```
Router# show voice accounting method
Accounting Method List [ml1]
=====
Current Status:
-----
reachable                               [21:52:39 gmt Dec 4 2002]
last record sent time                   [23:14:59 gmt Dec 4 2002]
total probe sent out                    [2]

                SUCCESS                                FAILURE
Record [Received | Notified ] [Received | Notified | Reported ]
Type   [from server| to client] [from server| to client | to call ]
----- [-----] [-----] [-----]
START  [ 0 | 0 ] [ 0 | 0 | 0 ]
UPDATE [ 0 | 0 ] [ 0 | 0 | 0 ]
STOP   [ 0 | 0 ] [ 2 | 2 | 0 ]
ACCT_ON [ 0 | 0 ] [ 0 | 0 | 0 ]
----- [-----] [-----]
TOTAL  [ 0 | 0 ] [ 2 | 2 | 0 ]
```

次の表で、この出力に表示される重要なフィールドを説明します。

表 5: show voice accounting method のフィールドの説明

フィールド	説明
Current Status : reachable または unreachable	メソッドリストの現在のステータス : reachable (到達可能) または unreachable (到達不能)、およびメソッドリストがこのステータスに達した時刻 (hh:mm:ss) と日付。
last record sent time	最後のアカウントングレコードがメソッドリストに送信された時刻 (hh:mm:ss) と日付。
total probe sent out	show コマンド実行時点までに送信されたプローブレコードの数。
SUCCESS: Received from server	メソッドリストから受信した、このタイプのアカウンティングレコードの成功ステータスの数。
SUCCESS: Notified to client	GAS に通知送信された、このタイプのアカウンティングレコードの成功ステータスの数。
FAILURE: Received from server	メソッドリストから受信した、このタイプのアカウンティングレコードの失敗ステータスの数。
FAILURE: Notified to client	GAS に通知送信された、このタイプのアカウンティングレコードの失敗ステータスの数。
FAILURE: Reported to call	コールアプリケーションに報告された、このタイプのアカウンティングレコードの失敗ステータスの数。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>clear voice accounting method</b>	特定のアカウントリングメソッドリストまたはすべてのアカウントリングメソッドリストのアカウントリングステータス統計をクリアします。

## show voice accounting response pending

保留中の VoIP AAA アカウンティング応答に関する情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show voice accounting response pending** コマンドを使用します。

### show voice accounting response pending

#### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

#### コマンドモード

特権 EXEC (#)

#### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.3(4)T	このコマンドが導入されました。

#### 例

次の例では、保留中の VoIP AAA アカウンティング応答に関する情報が表示されています。

```
Router# show voice accounting response pending
Total num of acct sessions waiting for acct responses: 0
Total num of acct start responses pending:           0
Total num of acct interim update responses pending:  0
Total num of acct stop responses pending:            0
```

下の表に、重要な出力フィールドの一覧とその説明を示します。

表 6 : *show voice accounting response pending* のフィールドの説明

フィールド	説明
Total num of acct sessions waiting for acct responses	アカウンティング応答を待機しているアカウンティングセッション数。
Total num of acct start responses pending	保留中のアカウンティング開始応答の数。
Total num of acct interim update responses pending	保留中の中間アカウンティングアップデート応答の数。
Total num of acct stop responses pending	保留中のアカウンティング終了応答の数。

## show voice busyout

音声ビジーアウトの状態に関する情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show voice busyout** コマンドを使用します。

### show voice busyout

#### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

#### コマンドモード

特権 EXEC

#### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.0(3)T	このコマンドが Cisco MC3810 に追加されました。
12.0(7)XK	このコマンドが Cisco 2600 シリーズおよび Cisco 3600 シリーズに導入されました。
12.1(2)T	このコマンドが Cisco IOS リリース 12.1(2)T に統合されました。

#### 使用上のガイドライン

このコマンドにより、以下の情報が表示されます。

- ビジーアウトイベントのモニタリング対象であるインターフェイス
- 現在ビジーアウト状態である音声ポートとその理由

#### 例

次に、このコマンドの出力例を示します。

```
Router# show voice busyout
If following network interfaces are down, voice port will be put into busyout state
ATM0
Serial0
The following voice ports are in busyout state
1/1      is forced into busyout state
1/2      is in busyout state caused by network interfaces
1/3      is in busyout state caused by ATM0
1/4      is in busyout state caused by network interfaces
1/5      is in busyout state caused by Serial0
```

フィールドの説明は自明のため省略します。

#### 関連コマンド

Command	Description
<b>busyout forced</b>	音声ポートを強制的にビジーアウト状態にします。
<b>busyout monitor</b>	音声ポートをビジーアウトモニター状態にします。
<b>busyout seize</b>	音声ポートからのビジーアウト捕捉手順を変更します。

Command	Description
<b>voice-port busyout</b>	シリアルまたは ATM インターフェイスに関連付けられたすべての音声ポートをビジーアウト状態にします。

## show voice cable-status

特定のアナログ音声ポート、もしくはアイドル状態にあるすべてのアナログ音声ポートの現在のケーブルステータスまたは最後のケーブルステータスを表示するには、特権 EXEC モードで **show voice cable-status** コマンドを使用します。

**show voice cable-status** {all | summary *x/y/zx/y/z-z1*}

構文の説明		
	<b>all</b>	ケーブルポーリングが有効になっているすべてのアナログ音声ポートの現在のケーブルステータスを表示します。
	<b>summary</b>	ケーブルポーリングが有効になっているすべてのアナログ音声ポートの最後のケーブルステータスを表示します。
	<i>x/y/z</i>	音声ポート番号。
	<i>x/y/z-z1</i>	音声ポート番号の範囲。範囲は 0 ~ 71 です。例：2/0/0-71。

### コマンドモード

特権 EXEC (#)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
15.2(4)M	このコマンドが導入されました。

### 使用上のガイドライン

**show voice cable-status** コマンドを使用する前に、**cable-detect-poll-timer** コマンドを無効にしておく必要があります。

### 例

次に、**show voice cable-status all** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show voice cable-status all

Warning:This may take time to perform and cause call disruption!

PORT          cable-status
=====
0/2/0         cable-detect not configured
0/2/1         connected
0/2/2         connected
0/2/3         busy out
0/3/0         administrative down
0/3/1         in busy state
0/3/2         connected
0/3/3         connected
1/0/16        not connected
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>cable-detect</b>	FXOGS、FXOLS、FXSGS および FXSLS の各アナログ音声ポートでケーブルポーリングを有効にします。
<b>cable-detect-poll-timer</b>	アナログ音声ポートでのバックグラウンドポーリング処理のためのケーブルポーリングタイマー値を設定します。

## show voice call

Cisco ルータ上にある音声ポートのコールステータスを表示するには、ユーザー EXEC モードまたは特権 EXEC モードで **show voice call** コマンドを使用します。

アナログ音声ポート搭載の Cisco 827、Cisco 1700 シリーズおよび Cisco 7750  
**show voice call** [*slot/port* | **status** [*call-id*] [**sample** *seconds*] | **summary**}]

アナログ音声ポート搭載の Cisco 2600、Cisco 3600、Cisco 3700 シリーズ  
**show voice call** [*slot/stubunit/port* | **status** [*call-id*] [**sample** *seconds*] | **summary**}]

デジタル音声ポート搭載の Cisco 2600、Cisco 3600 および Cisco 3700 シリーズ (T1 パケット音声トランク ネットワーク モジュール搭載)  
**show voice call** [*slot/port:ds0-group* | **status** [*call-id*] [**sample** *seconds*] | **summary**}]

デジタル音声ポート搭載の Cisco AS5300、Cisco AS5350、Cisco AS5400、Cisco AS5850、Cisco 7200 シリーズ、および Cisco 7500 シリーズ  
**show voice call** [*slot/port:ds0-group* | **status** [*call-id*] [**sample** *seconds*] | **summary**}]

### 構文の説明

アナログ音声ポート搭載の Cisco 827、Cisco 1700 シリーズおよび Cisco 7750	
<i>slot/port</i>	(任意) 特定のアナログ音声ポート： <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>slot</i>-- アナログ音声モジュール (AVM) が取り付けられている物理スロット。</li> <li>• <i>/ port</i>-- アナログ音声ポート番号。範囲は 1 ~ 6 です。スラッシュ記号が必要です。</li> </ul>
<b>status</b> [ <i>call-id</i> ]	(任意) アクティブコールのステータスを表示します。 <i>call-id</i> を指定した場合、このコマンドは特定コールのステータスを表示します。
<b>sample</b> <i>seconds</i>	(任意) 指定したサンプリング間隔中 (秒単位) のステータスを表示します。範囲は 1 ~ 30 です。デフォルト値は 10 です。
<b>summary</b>	(任意) ポートのアクティビティにかかわらず、音声ポートの現在の設定および状態を表示します。

アナログ音声ポート搭載の Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、Cisco 3700 シリーズ	
<i>slot / subunit / port</i>	<p>(任意) 特定のアナログ音声ポート :</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>slot</i>-- 音声ネットワークモジュール (NM) が取り付けられているルータスロット。有効なエントリは、特定プラットフォームのルータスロット番号です。</li> <li>• <i>/ subunit</i> -- 音声ポートが配置されている音声インターフェイスカード (VIC) 。有効なエントリは 0 および 1 です。(VIC は音声ネットワークモジュールに設置します) 。スラッシュ記号が必要です。</li> <li>• <i>/ port</i> -- アナログ音声ポート番号。有効なエントリは 0 および 1 です。スラッシュ記号が必要です。</li> </ul>
<b>status</b> [ <i>call-id</i> ]	(任意) アクティブコールのステータスを表示します。 <i>call-id</i> を指定した場合、このコマンドは特定コールのステータスを表示します。
<b>sample</b> <i>seconds</i>	(任意) 指定したサンプリング間隔中 (秒単位) のステータスを表示します。範囲は 1 ~ 30 です。デフォルト値は 10 です。
<b>summary</b>	(任意) ポートのアクティビティにかかわらず、音声ポートの現在の設定および状態を表示します。

デジタル音声ポート搭載の Cisco 2600、Cisco 3600 および Cisco 3700 シリーズ (T1 パケット音声トランク ネットワーク モジュール搭載)	
<i>slot / port : ds0-group</i>	<p>(任意) 特定のデジタル音声ポート :</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>slot</i> -- パケット音声トランク ネットワーク モジュール (NM) が取り付けられているルータスロット。有効なエントリは、特定プラットフォームのルータスロット番号です。</li> <li>• <i>/ port</i> -- 音声 WAN インターフェイスカード (VVIC) の T1 または E1 物理ポート。有効なエントリは 0 および 1 です。(NM 1 つにつき 1 つの VVIC を設置できます。) スラッシュ記号が必要です。</li> <li>• <i>: ds0-group</i>-- T1 または E1 論理ポート番号。範囲は、T1 の場合は 0 ~ 23、E1 の場合は 0 ~ 30 です。コロン記号は必須です。</li> </ul>
<b>status</b> [ <i>call-id</i> ]	(任意) アクティブコールのステータスを表示します。 <i>call-id</i> を指定した場合、このコマンドは特定コールのステータスを表示します。
<b>sample</b> <i>seconds</i>	(任意) 指定したサンプリング間隔中 (秒単位) のステータスを表示します。範囲は 1 ~ 30 です。デフォルト値は 10 です。
<b>summary</b>	(任意) ポートのアクティビティにかかわらず、DSP ポートの現在の設定および状態を表示します。

デジタル音声ポート搭載の <b>Cisco AS5300、Cisco AS5350、 Cisco AS5400、Cisco AS5850、 Cisco 7200</b> シリーズ、および <b>Cisco 7500</b> シリーズ	
<i>slot / port : ds0-group</i>	(任意) 特定のデジタル音声ポート：  <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>slot</i>-- パケット音声トランク ネットワーク モジュール (NM) が取り付けられているルータスロット。有効なエントリは、特定プラットフォームのルータスロット番号です。</li> <li>• <i>/ port</i>-- VWIC の T1 または E1 物理ポート。有効なエントリは 0 および 1 です。(NM 1 つにつき 1 つの VWIC を設置できます。) スラッシュ記号が必要です。</li> <li>• <i>: ds0-group</i>-- T1 または E1 論理ポート番号。範囲は、T1 の場合は 0 ~ 23、E1 の場合は 0 ~ 30 です。コロン記号は必須です。</li> </ul>
<b>status</b> [ <i>call-id</i> ]	(任意) アクティブコールのステータスを表示します。 <i>call-id</i> を指定した場合、このコマンドは特定コールのステータスを表示します。
<b>sample</b> <i>seconds</i>	(任意) 指定したサンプリング間隔中 (秒単位) のステータスを表示します。範囲は 1 ~ 30 です。デフォルト値は 10 です。
<b>summary</b>	(任意) ポートのアクティビティにかかわらず、音声ポートの現在の設定および状態を表示します。

## コマンドモード

ユーザー EXEC (#) 特権 EXEC (&gt;)

## コマンド履歴

リリース	変更内容
11.3(1)MA	このコマンドが Cisco MC3810 に追加されました。
12.0(7)XK	このコマンドが Cisco 2600 シリーズおよび Cisco 3600 シリーズに導入されました。
12.1(2)T	このコマンドが Cisco IOS リリース 12.1(2)T に統合されました。
12.2(13)T	このコマンドに、各コマンドオプション <b>status</b> 、 <i>call-id</i> 、および <b>sample seconds</b> が追加されました。このコマンドは、すべての音声プラットフォームで使用できます。

リリース	変更内容
12.4(3d)	このコマンドが変更され、Cisco AS5350、Cisco AS5400 および Cisco AS5850 の各プラットフォームにおける Non-Facility Associated Signaling (NFAS) 設定をサポートするようになりました。コマンド出力が変更され、当該各プラットフォームにおける NFAS 設定の正確なポート情報が表示されるようになりました。
15.1(3)T	このコマンドが変更されました。このコマンドの出力内容が拡張され、Foreign Exchange Office (FXO) ポートの接続ステータスが表示されるようになりました。

### 使用上のガイドライン

このコマンドは Voice over Frame Relay、Voice over ATM および Voice over IP で機能し、次のレベルにおけるコール処理モジュールのステータスが表示されます。

- コール処理ステートマシン
- エンドツーエンド CallManager
- プロトコルステートマシン
- タンデムスイッチ



- (注) このコマンドは、Cisco AS5350、Cisco AS5400 および Cisco AS5850 の各プラットフォームにおける Cisco IOS リリース 12.4(3d) より前の Non-Facility Associated Signaling (NFAS) 設定ではサポートされていません。

このコマンドを使用すると、音声ポートに関するコール処理情報およびプロトコルステートマシン情報を（当該情報が利用可能な場合に）表示します。またこのコマンドは、当該音声ポートに関連付けられた DSP チャンネルの情報も（当該情報が利用可能な場合に）表示します。ジッターやバッファオーバーランなど、DSP チャンネル内のリアルタイム情報はすべて DSP チャンネルに照会され、ホスト側に対して非同期応答が返されます。

音声ポートでアクティブなコールがない場合、**show voice call summary** コマンドは VPM（シャットダウン）状態のみを表示します。音声ポートでアクティブなコールがある場合、**show voice call summary** コマンドは音声テレフォニー サービス プロバイダー（VTSP）の状態を表示します。オンネットコール、またはローカルバイパスを介さない（クロスコネクトを使用していない）ローカルコールの場合は、コーデックフィールドおよび音声アクティビティ検出（VAD）フィールドが表示されます。オフネットコールまたはローカルバイパスを介したローカルコールの場合、コーデックフィールドおよび VAD フィールドは表示されません。

音声ポートでアクティブなコールがある場合、**show voice call summary** コマンドは VPM 状態のみを表示します。コールタイプ（音声コールかファクスコールか）にかかわらず、VTSP 状態には常に VTSP シグナリング状態が表示されます。ファクスコールでは、S\_Fax と表示されません。次の出力が表示されます。

```

PORT          CODEC      VAD  VTSP STATE          VPM STATE
=====
1/0:1.1      1          y   S_CONNECT          EM_CONNECT

```



- (注) 音声 Distributed Stream Media Processor (DSMP) メディアストリームおよびその関連アプリケーションの現在のセッションを表示するには、**show voice dsmp stream** コマンドを使用します。

**show voice call** コマンドでは、コーデックフィールドおよび VAD フィールドは表示されません（この情報は要約表示で表示されます）。**show voice call status** コマンドを単独で使用すると、すべてのアクティブコールの即時リストが表示されます。引数 *call-id* を使用すると、当該 *call-id* に関連付けられている DSP に対して実行時統計を 2 回（1 回目は即時、2 回目は **sample seconds** で指定した秒数後に）照会するよう要求できます。

**sample seconds** は、ステータスを判定する秒数を指します。その後実行時間の統計クエリ結果が分析され、1 行の要約形式で表示されます。

指定されたサンプル期間中にコールが終了すると、次の出力メッセージが返されます。

```
CallID call id cannot be queried
CallID call id second sample responses unavailable
```



- (注) Cisco AS5300 では、音声コールチューニング機能はサポートされていません。

## 例

次に、**show voice call summary** コマンドで、ローカルバイパスなしで接続された 2 つのローカルコールを表示した出力例を示します。

```
Router# show voice call summary
PORT    CODEC    VAD VTSP STATE          VPM STATE
=====
0:17.18
0:18.19 g729ar8  n  S_CONNECT        FXOLS_OFFHOOK
0:19.20
0:20.21
0:21.22
0:22.23
0:23.24
1/1
1/2
1/3
1/4
1/5
1/6      g729ar8  n  S_CONNECT        FXOLS_CONNECT
```

次に、**show voice call summary** コマンドで、ローカルバイパスありで接続された 2 つのローカルコールを表示した出力例を示します。

```
Router# show voice call summary
PORT    CODEC    VAD VTSP STATE          VPM STATE
=====
0:17.18
0:18.19
0:19.20
0:20.21
0:21.22
```

```

0:22.23                FXOLS_ONHOOK
0:23.24                EM_ONHOOK
1/1                    FXSLS_ONHOOK
1/2                    FXSLS_ONHOOK
1/3                    EM_ONHOOK
1/4                    EM_ONHOOK
1/5                    FXOLS_ONHOOK
1/6                    S_CONNECT      FXOLS_CONNECT

```

次に示す **show voice call summary** コマンドの出力例では、接続済みの FXO ポート 0/2/0 には「FXOLS\_ONHOOK」ステータスが表示されている一方で、接続解除済みの FXO ポート 0/2/1 には「FXOLS\_BUSYOUT」ステータスが表示されています。

```

Router# show voice call summary
PORT          CODEC      VAD  VTSP  STATE          VPM STATE
=====
0/0/0         -          -   -   -             FXSLS_ONHOOK
0/0/1         -          -   -   -             FXSLS_ONHOOK
0/3/0:23.1   -          -   -   -
0/3/0:23.2   -          -   -   -
.
.
.
0/3/0:23.23  -          -   -   -
0/1/0         -          -   -   -             DID_ONHOOK
0/1/1         -          -   -   -             DID_ONHOOK
0/2/0         -          -   -   -             FXOLS_ONHOOK
0/2/1         -          -   -   -             FXOLS_BUSYOUT
2/0/0         -          -   -   -             FXSLS_ONHOOK
2/0/1         -          -   -   -             FXSLS_ONHOOK
2/0/2         -          -   -   -             FXSLS_ONHOOK
2/0/3         -          -   -   -             FXSLS_ONHOOK
2/0/4         -          -   -   -             FXSLS_ONHOOK
2/0/5         -          -   -   -             FXSLS_ONHOOK
2/0/6         -          -   -   -             FXSLS_ONHOOK
2/0/7         -          -   -   -             FXSLS_ONHOOK

```



- (注) Cisco IOS リリース 15.1(3)T 以降 FXO ポートステータスのモニタリングが改善され、FXO ポートが接続または接続解除されるたびにステータスの変化を示すメッセージが表示されるようになりました。たとえば、ケーブルが接続されたことを報告するメッセージ（「000118: Jul 14 18:06:05.122 EST: %LINK-3 -UPDOWN: インターフェイス Foreign Exchange Office 0/2/0、ケーブル再接続により動作ステータス状態を変更しました」）が表示されるとともに、FXO ポート 0/2/0 のステータスが「up」に変更されます。

次に示す **show voice call summary** コマンドの出力例では、Cisco AS5350、Cisco AS5400 または Cisco AS5850 プラットフォーム上にある通常の PRI ポート 1 つと NFAS PRI ポート 1 つが表示されています。ポート 3/2:D は、通常の PRI 音声ポート（タイムスロット 0 および 22）に属しています。ポート Se3/1 は、NFAS グループ内メンバーである T1 コントローラ 3/1 の NFAS PRI 音声ポート（タイムスロット 0、1、および 2）に属しています。

Cisco AS5350、Cisco AS5400 および Cisco AS5850 の各種プラットフォームを使用した NFAS の場合、各ポートには T1 コントローラに関連付けられたシリアルインターフェイスの情報が出力され、タイムスロットは 0 からカウントされます（たとえば 0、1、2、3）。

```
Router# show voice call summary
PORT          CODEC    VAD  VTSP STATE          VPM STATE
-----
3/2:D.0       None    y   S_ALERTING     S_TSP_INCALL
3/2:D.22      None    y   S_ALERTING     S_TSP_INCALL
Se3/1:0       None    y   S_CONNECT      S_TSP_CONNECT
Se3/1:1       None    y   S_CONNECT      S_TSP_CONNECT
Se3/1:2       None    y   S_CONNECT      S_TSP_CONNECT
```



- (注) Cisco AS5350、Cisco AS5400、および Cisco AS5850 以外の各種プラットフォームの場合、**show voice call summary** コマンドで出力される PORT フィールドがわずかに異なります。各プラットフォームタイプ間の対比は次のとおりです：Platform Regular PRI (T1) NFAS PRI (T1)\*-----non-AS5xxx 3/0:23.TS 3/1:23.TS AS5xxx 3/0:D.TS Ser3/1:(TS-1) \* T1 3/1 が NFAS グループのメンバー、T1 3/0 がプライマリ NFAS メンバーとして想定され、TS が 1 からカウントされるタイムスロットを指します（たとえば 1、2、3）。

次に、複数のアナログ音声ポートを指定して **show voice call** コマンドを実行した場合の出力例を示します。

```
Router# show voice call
1/1 vpm level 1 state = FXSLS_ONHOOK
vpm level 0 state = S_UP
1/2 vpm level 1 state = FXSLS_ONHOOK
vpm level 0 state = S_UP
1/3 is shutdown
1/4 vtsp level 0 state = S_CONNECT
vpm level 1 state = S_TRUNKED
vpm level 0 state = S_UP
1/5 vpm level 1 state = EM_ONHOOK
vpm level 0 state = S_UP
1/6 vpm level 1 state = EM_ONHOOK
vpm level 0 state = S_UP
Router# show voice call 1/4
1/4 vtsp level 0 state = S_CONNECT
vpm level 1 state = S_TRUNKED
vpm level 0 state = S_UP
router# ***DSP VOICE VP_DELAY STATISTICS***
Clk Offset(ms): 1445779863, Rx Delay Est(ms): 95
Rx Delay Lo Water Mark(ms): 95, Rx Delay Hi Water Mark(ms): 125
***DSP VOICE VP_ERROR STATISTICS***
Predict Conceal(ms): 10, Interpolate Conceal(ms): 0
Silence Conceal(ms): 0, Retroact Mem Update(ms): 0
Buf Overflow Discard(ms): 20, Talkspurt Endpoint Detect Err: 0
***DSP VOICE RX STATISTICS***
Rx Vox/Fax Pkts: 537, Rx Signal Pkts: 0, Rx Comfort Pkts: 0
Rx Dur(ms): 50304730, Rx Vox Dur(ms): 16090, Rx Fax Dur(ms): 0
Rx Non-seq Pkts: 0, Rx Bad Hdr Pkts: 0
Rx Early Pkts: 0, Rx Late Pkts: 0
***DSP VOICE TX STATISTICS***
```

```

Tx Vox/Fax Pkts: 567, Tx Sig Pkts: 0, Tx Comfort Pkts: 0
Tx Dur(ms): 50304730, Tx Vox Dur(ms): 17010, Tx Fax Dur(ms): 0
***DSP VOICE ERROR STATISTICS***
Rx Pkt Drops(Invalid Header): 0, Tx Pkt Drops(HPI SAM Overflow): 0
***DSP LEVELS***
TDM Bus Levels(dBm0): Rx -70.3 from PBX/Phone, Tx -68.0 to PBX/Phone
TDM ACOM Levels(dBm0): +2.0, TDM ERL Level(dBm0): +5.6
TDM Bgd Levels(dBm0): -71.4, with activity being voice

```

次に、Cisco 7200 シリーズ上の複数のアナログ音声ポートを指定して **show voice call** コマンドを実行した場合の出力例を示します。出力には、DSPfarm、T1 インターフェイス、および DS0 スロットまたは TLM スロットの設定が含まれています。

```

Router# show voice call 6/0:0
6/0:0 1 - - -          vpm level 1 state = FXOGS_ONHOOK
vpm level 0 state = S_UP
6/0:0 2 - - -          vpm level 1 state = FXOGS_ONHOOK
vpm level 0 state = S_UP
6/0:0 3 - - -          vpm level 1 state = FXOGS_ONHOOK
vpm level 0 state = S_UP
6/0:0 4 - - -          vpm level 1 state = FXOGS_ONHOOK
vpm level 0 state = S_UP
6/0:0 5 - - -          vpm level 1 state = FXOGS_ONHOOK
vpm level 0 state = S_UP
6/0:0 6 - - -          vpm level 1 state = FXOGS_ONHOOK
vpm level 0 state = S_UP
6/0:0 7 - - -          vpm level 1 state = FXOGS_ONHOOK
vpm level 0 state = S_UP
6/0:0 8 - - -          vpm level 1 state = FXOGS_ONHOOK
vpm level 0 state = S_UP
6/0:0 9 - - -          vpm level 1 state = FXOGS_ONHOOK
vpm level 0 state = S_UP
6/0:0 10- - -          vpm level 1 state = FXOGS_ONHOOK
vpm level 0 state = S_UP
6/0:0 11- - -          vpm level 1 state = FXOGS_ONHOOK
vpm level 0 state = S_UP
6/0:0 12- - -          vpm level 1 state = FXOGS_ONHOOK
vpm level 0 state = S_UP

```

次に、Cisco 2600 シリーズで **show voice call status** コマンドを実行した場合の出力例を示します。発信者 ID を取得するには、**show call active brief** コマンドではなくこのコマンドを使用します。**showvoice call status** コマンドで出力される発信者 ID は、すでに 16 進数形式に変換されています。

```

Router# show voice call status
CallID      CID      ccVdb      Port      DSP/Ch  Called #  Codec      Dial-peers
0x1         11CE    0x02407B20 1:0.1     1/1     1000     g711ulaw  2000/1000
1 active call found

```

引数 *call-id* は、アクティブコールを識別するための一般的な手段として使用できます。*call-id* を省略した場合、クエリによってアクティブな音声コールがすべて表示されます。次の例では、すべてのアクティブコールおよび各コールに関連する識別情報が一覧表示されています。

```

Router# show voice call status
CallID      CID      ccVdb      Port      DSP/Ch  Called #  Codec      Dial-peers
0x3         11D4    0x62972834 1/0/0     1/1     10001    g711ulaw  1/2
0x4         11D4    0x62973AD0 1/0/1     2/1     *10001    g711ulaw  2/1

```

```
0xA      11DB  0x62FE9D68  1/1/0    3/1    *2692      g729r8    0/2692
2 active calls found
```



- (注) 一度にクエリで照会できるのは1つのコールのみです。異なる複数のポート（コンソールと Telnet）でクエリを試行し、クエリが別のポートで進行中の場合、そのクエリが完了するまで待つよう求められます。すでに進行中のクエリで指定されたサンプル間隔中を除いて、いつでもどこからでも任意のコールに関するクエリを照会できます。これにより運用を大幅に簡素化でき、このコマンドの有用性は低減しません。

次の例は、コールIDを3、サンプル期間を10秒に指定して、エコー反射減衰量（ERL）リフレクタに関する情報を表示したものです。

```
Router# show voice call status 3 sample 10
Gathering information (10 seconds)...
CallID  Port    DSP/Ch  Codec  Rx/Tx    ERL        Jitter
0x3     1/0/0   1/1     g711ulaw 742/154  5.6        50/15
```

この例では、ERL フィールドに DSP から報告されたエコー反射減衰量（dB 単位）が表示されています。Jitter の各値は、現在の遅延、およびその遅延前後の packets ジッターを示します。

ルータが拡張エコーキャンセラを実行中の状態で同じコマンドを入力すると、出力は次のようになります。出力には、新たに ERL/Reflectr 値が表示されます。この値は、エコーキャンセラによって検出された元の信号と、最大音量エコー（ピークリフレクタ）との間の時間差（ミリ秒単位）を示しています。

```
Router# show voice call status 3 sample 10
Gathering information (10 seconds)...
CallID  Port    DSP/Ch  Codec  Rx/Tx    ERL/Reflectr Jitter
0x3     1/0/0   1/1     g711ulaw 742/154  5.6/12     50/15
```

次の例は、標準エコーキャンセラの NextPort バージョンを使用している場合の出力です。（デジタルポートの場合、出力にはタイムスロット情報も含まれます。）

```
Router# show voice call status
CallID  CID  ccVdb  Port    DSP/Ch  Called #  Codec  Dial-peers
0x97    12BB 0x641B0F68 3/0:D.1 1012/2  31001    g711ulaw 3/31000
0x99    12BE 0x641B0F68 3/0:D.2 1012/3  31002    g711ulaw 3/31000
2 active calls found
Router# show voice call status
CallID  CID  ccVdb  Port    DSP/Ch  Called #  Codec  Dial-peers
0x2     11D1 0x62FE6478 1/0/0   1/1     10001    g711ulaw 1/2
0x3     11D1 0x62FE80F0 1/0/1   2/1     *10001   g711ulaw 2/1
1 active call found
```

**test call id** コマンドを使用する場合は、コールIDを指定する必要があります。このコールIDは、**show voice call status** コマンドを使用して取得できます。次の例で、*call-id* 引数として使用できるコールIDの取得方法を示します。出力の先頭に表示されたパラメータが、コールIDです。



(注) 取得したコール ID を **test call status** コマンドで入力する場合は、*call-id* 引数に 0x プレフィックスを使用しないでください。

次の例では、任意の | (パイプ記号) を付けて **show voice call** コマンドを使用する場合に、キーワードとして指定できる選択肢が表示されています。

```
Router# show voice call | ?
  append    Append redirected output to URL (URLs supporting append operation
            only)
  begin     Begin with the line that matches
  exclude   Exclude lines that match
  include   Include lines that match
  redirect  Redirect output to a URL
  tee      Copy output to a URL
```

下の表は、前述のコマンド出力で表示される重要なフィールドについて説明したものです。

表 7: **show voice call** のフィールドの説明

フィールド (アルファベット順)	説明
Called #	着信番号。 <ul style="list-style-type: none"> <li>番号の前に「*」がない場合は、発信元コールレグであることを示します。この例に表示されている 2 つのコールレグのうち、1 つはローカルスイッチングコールでありもう 1 つはネットワークコールであるため、これらのコールレグは 2 つの異なるアクティブコールを指しています。</li> <li>番号の前に「*」がある場合は、宛先コールレグであることを示します (たとえば、Called # でこの番号が呼び出された場合など)。</li> </ul>
CallID	この 16 進数はさらなるクエリ用途に使用され、呼制御で各コールレグ (ccCallID_t) につき保持される単調増加する数値を指します。
ccVdb	他の多くのデバッグで表示される、コールレグの識別値。
CID	<b>show call active brief</b> コマンドで表示される GUID から導出された集合値。
Codec	コーデック。
Dial-peers	ダイヤルピア。

フィールド (アルファベット順)	説明
DSP/Ch	このコールレグに割り当てられたDSPおよびチャンネル。この各値の形式はプラットフォームに依存します (特に Cisco AS5300 では、DSP 番号が 3 桁の数字で <VFC#><DSPM#><DSP#> と表示されます)。 デジタルポートの場合、出力にはタイムスロット情報も含まれます。たとえばデジタルポートを使用している場合は、「dsp/ch/タイムスロット」形式でタイムスロット情報も返されます。
ERL	エコー反射減衰量 (dB 単位)。
ERL/Reflctr	エコーキャンセラによって検出された元の信号と、最大音量エコー (ピークリフレクタ) との間の時間差 (ミリ秒単位)。
Jitter	遅延の現在値、およびその遅延前後の packets ジッターの現在値を示します。
Port	音声ポート。
Rx/Tx	当該接続の送受信レート。
VAD	音声アクティビティ検出 (y または n)。
VPM STATE	音声ポートモジュール (VPM) の状態。
VTSP STATE	音声テレフォニー サービス プロバイダー (VTSP) の状態。

拡張エコーキャンセラの詳細情報については、『*Extended ITU-T G.168 Echo Cancellation*』を参照してください。

#### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show call active brief</b>	アクティブコールの要約情報を表示します。
<b>show dial-peer voice</b>	ルータに設定されているすべての VoIP ダイアルピアおよび POTS ダイアルピアの設定を表示します。
<b>show voice dsmp stream</b>	音声 DSPM メディアストリームの現在のセッションを表示します。
<b>show voice dsp</b>	すべての DSP 音声チャンネルの現状ステータスを表示します。
<b>show voice port</b>	特定の音声ポートの設定情報を表示します。
<b>test call id</b>	エコーキャンセラとジッターバッファのパラメータをリアルタイムで操作します。

# show voice call rate



(注) CSCuc53349 では、**show voice call rate** コマンドは **show call history stats cps** コマンドに置き換えられました。詳細については、**show call history stats cps** コマンドを参照してください。

音声コールレート情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show voice call rate** コマンドを使用します。

**show voice call rate** [{table}]

## 構文の説明

<b>table</b>	(任意) 音声コールレート情報を表形式で表示します。
--------------	----------------------------

## コマンド デフォルト

音声コールレート情報をヒストグラム形式で表示します。

## コマンド モード

特権 EXEC (#)

## コマンド履歴

リリース	変更内容
15.2(2)T	このコマンドが導入されました。
15.3(2)T	このコマンドは、 <b>show call history stats cps</b> コマンドに置き換えられました。
Cisco IOS XE リリース 3.9S	このコマンドは、 <b>show call history stats cps</b> コマンドに置き換えられました。

## 使用上のガイドライン

**show voice call rate** コマンドを使用すると、音声コールレート情報をヒストグラム形式で表示できます。**show voice call rate table** コマンドを使用すると、音声コールレート情報を表形式で表示できます。

## 例

次に、**show voice call rate** コマンドの出力例を示します。この出力では、x 軸は測定時間を秒単位で表し (1 単位 = 1 秒)、y 軸は 1 秒あたりのコールレグ (cps) (1 単位 = 1 cps) を表しています。

```
Router# show voice call rate
3845-1 04:35:57 AM Wednesday Sep 7 2011 UTC
      122          11
      5009          2          40          42          64
100
 90
 80
 70
 60
 50
```

```

40
30
20   ***
10   ****                **                *
0...5...1...1...2...2...3...3...4...4...5...5...6
      0  5  0  5  0  5  0  5  0  5  0  5  0
VoIP Call switching rate per second (last 60 seconds)
# = calls entering the module per second
    
```

次に、**show voice call rate table** コマンドの出力例を示します。

```

Router# show voice call rate table

3845-1  04:35:57 AM Wednesday Sep 7 2011 UTC
        Voice Call switching rate per second (last 60 seconds)
-----
Period   Actual   Average
-----
1-5      0         0
6-10     64        13
11-15    0         0
16-20    0         0
21-25    2         0
26-30    0         0
31-35    24        5
36-40    0         0
41-45    6         1
46-50    10        2
51-55    0         0
56-60    0         0
    
```

次の表に、この出力で表示される重要なフィールドの説明を示します。

表 8 : show voice call rate table のフィールドの説明

フィールド	説明
Period	5 秒間。
Actual	5 秒間に作成されたコールレグの数。
Average	5 秒間に作成されたコールレグ数の平均値。

関連コマンド

コマンド	説明
<b>voice call rate monitoring</b>	音声コールレートのモニタリングを有効にします。

## show voice cause-code

エラーカテゴリと Q.850 原因コードのマッピングを表示するには、ユーザー EXEC モードで `show voice cause-code` コマンドを使用します。

### show voice cause-code category-q850

構文の説明	<b>category q850</b> 内部エラーカテゴリと Q.850 原因コードとのマッピングを表示します。
-------	---

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード ユーザー EXEC (>)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.3(4)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドを使用すると、内部エラーカテゴリと Q.850 原因コードとのマッピング表、設定値とデフォルト値、およびカテゴリの説明を表示できます。

### 例

次の例は、Q.850 原因コードのマッピングを表示したものです。

```
Router# show voice cause-code category-q850
The Internal Error Category to Q850 cause code mapping table:-
  Error Configured Default  Description
Category Q850      Q850
  128      27          3  Destination address resolution failure
  129      38         102 Call setup timeout
  178      41          41  Internal Communication Error
  179      41          41  External communication Error
  180      47          47  Software Error
  181      47          47  Software Resources Unavailable
  182      47          47  Hardware Resources Unavailable
  183      41          41  Capability Exchange Failure
  184      49          49  QoS Error
  185      41          41  RTP/RTCP receive timer expired or bearer layer failure
  186      38          38  Signaling socket failure
  187      38          38  Gateway or signaling interface taken out of service
  228      50          50  User is denied access to this service
  278      65          65  Media Negotiation Failure due to non-existing Codec
```

次の表で、この出力に表示される重要なフィールドを説明します。

表 9: show voice cause-code のフィールドの説明

フィールド	説明
128	Destination Address Resolution Failure (宛先アドレス解決障害)
129	Call setup timeout (コールセットアップのタイムアウト)

フィールド	説明
178	Internal communication error (内部通信エラー)
179	External communication Error (外部通信エラー)
180	Software error (ソフトウェアエラー)
181	Software resources unavailable (ソフトウェアリソースが使用不可能)
182	Hardware resources unavailable (ハードウェアリソースが使用不可能)
183	Capability exchange failure (機能交換に失敗しました)
184	QoS error (QoS エラー)
185	RTP/RTCP receive timer expired or bearer layer failure (RTP/RTCP 受信タイマーが期限切れになったか、ベアラー層に障害が発生しました)
186	Signaling socket failure (シグナリングソケットの障害)
187	Gateway or signaling interface taken out of service (ゲートウェイまたはシグナリング インターフェイスがサービスを停止しました)
228	User denied access to this service (ユーザーによるこのサービスへのアクセスが拒否されました)
278	Media negotiation failure due to non existing codec (存在していないコーデックが原因でメディアネゴシエーションに失敗しました)

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>error-category q850-cause</b>	Q.850 原因コードのマッピングを指定します。

## show voice class called-number

特定の音声クラス着信番号を表示するには、特権 EXEC モードで **show voice class called-number** コマンドを使用します。

**show voice class called-number** [{inbound | outbound}] tag

構文の説明	<b>inbound</b>	指定したインバウンドの音声クラス着信番号を表示します。
	<b>outbound</b>	指定したアウトバウンドの音声クラス着信番号を表示します。
	<i>tag</i>	表示したい音声クラス着信番号を識別する数字。

コマンドモード 特権 EXEC (#)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.4(11)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドを使用すると、特定のインバウンドまたはアウトバウンドの音声クラス着信番号を表示できます。

例 次に、このコマンドの出力例を示します。

```
Router# show voice class called-number outbound 200
Called Number Outbound: 200
  index 1      4085550100
  index 2      4085550102
  index 3      4085550103
  index 4      4085550104
```

下の表は、このコマンド出力で表示される重要なフィールドについて説明したものです。

表 10: *show voice class called-number* のフィールドの説明

フィールド	説明
Called Number Inbound/Outbound	指定したインバウンドまたはアウトバウンドの音声クラス着信番号のタグ。
<i>index number</i>	この音声クラス着信番号の番号、または番号の範囲。

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>show voice class called-number-pool</b>	音声クラス着信番号プールの設定情報を表示します。

# show voice class called-number-pool

音声クラス着信番号プールを表示するには、特権 EXEC モードで **show voice class called-number-pool** コマンドを使用します。

**show voice class called-number-pool tag [detail]**

構文の説明	<i>tag</i>	表示したい音声クラス着信番号プールを識別する数字。指定できる範囲は、1～10000です。
	<b>detail</b>	アイドル状態の着信番号および割り当て済み着信番号に関する情報を表示します。

コマンドモード 特権 EXEC (#)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.4(11)T	このコマンドが導入されました。

**使用上のガイドライン** このコマンドを使用すると、音声クラス着信番号プールの設定情報を表示できます。キーワード **detail** を指定すると、割り当て済み要求 1 つにつき最大 16 件のアイドル状態の着信番号および最大 4 件の割り当て済み着信番号を表示できます。

## 例

次の出力例は、音声クラス着信番号プール 100 の設定情報（アイドル状態の着信番号および割り当て済み着信番号を含む）を表示したものです。

```
Router(config)# show voice class called-number-pool 100 detail
Called Number Pool: 100
index 1 100A11 - 100A20
index 2 200#55 - 200#77
index 3 55511111 - 6662333
index 99 123C11 - 123C99
All called numbers are generated from table: FALSE
No of idle called numbers: 16
List of idle called numbers:
100A11 100A12 .. Display up to 16 idle called number from the pool
100A13 100A14
100A15 100A16
100A17 100A18
100A19 100A20
200#55 200#56
200#57 200#58
200#59 200#60
No of alloc requests : 1
Ref Id Alloc PC Size
2 41F84190 16
List of alloc called numbers: .. Display the first 4 allocated called number for RefId
2
200#61 200#62
200#63 200#64
```

下の表は、このコマンド出力で表示される重要なフィールドについて説明したものです。

表 11 : *show voice class called-number-pool* のフィールドの説明

フィールド	説明
Called Number Pool	着信番号プールを識別するタグ。
index	この着信番号プールの番号、または番号の範囲。
All called numbers are generated from table	<ul style="list-style-type: none"> <li>• FALSE -- 表示されている各番号は着信番号テーブルから生成されたものではありません。</li> <li>• TRUE -- 表示されている番号は、着信番号テーブルから生成されたものです。</li> </ul>
No. of idle called numbers	この着信番号プール内にあるアイドル状態の着信番号の数。
List of idle called numbers	この着信番号プール内にあるアイドル状態の着信番号の一覧。
No. of alloc requests	この着信番号プール内の番号に対する要求の数。
Ref Id Alloc PC Size	割り当て済み番号の特定リストの参照 ID。
List of alloc called numbers	この着信番号プール内で最初に割り当てられた4つの番号の一覧。

#### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show voice class called-number</b>	特定の音声クラス着信番号を表示します。

## show voice class e164-pattern-map

音声クラス E.164 パターンマップの設定を表示するには、特権 EXEC モードで **show voice class e164-pattern-map** コマンドを使用します。

```
show voice class e164-pattern-map [{summarytag}]
```

### 構文の説明

<b>summary</b>	(任意) 設定の要約情報を表示します。
<b>tag</b>	(任意) E.164 パターンマップのステータスおよび内容を表示します。

### コマンドモード

ユーザー EXEC (>)

特権 EXEC (#)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
15.2(4)M	このコマンドが導入されました。

### 使用上のガイドライン

**show voice class e164-pattern-map** コマンドを使用すると、マップのステータスと当該マップ内のすべての E.164 パターンを表示できます。このコマンドを使用すると、テキストファイル内の E.164 パターンだけでなく、CLI を介して設定された E.164 パターンも表示されます。ただし解析エラーの場合は、このコマンドが適用されるのはテキストファイルのみです。

### 例

次に、**show voice class e164-pattern map** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show voice class e164-pattern-map summary

e164-pattern-map 1
-----
It has 100 entries
It is populated from url http://http-host/config-files/destination-pattern-map.cfg

e164-pattern-map 2
-----
It has 23 entries

e164-pattern-map 3
-----
Loading failed on url http://http-host/config-files/destination-pattern-map-1.cfg

e164-pattern-map 4
-----
Parsing error on patterns: "123gh" "1*g"
It is populated from url http://http-host/config-files/destination-pattern-map-2.cfg
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>destination e164-pattern-map</b>	宛先 E.164 パターンマップをダイヤルピアにリンクします。
<b>url</b>	E.164 パターンマップに E.164 パターンが設定されているテキストファイルの URL を指定します。

## show voice class e164-translation

音声クラス E.164 変換表の設定を表示するには、特権 EXEC モードで **show voice class e164-translation** コマンドを使用します。

**show voice class e164-translation tag**

### 構文の説明

**tag** 音声クラス E.164 変換表のステータスおよび内容を表示します。範囲は 1 ~ 10000 です。

### コマンドモード

特権 EXEC (#)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
IOS XE Fuji リリース 16.8.1	このコマンドが導入されました。

### 例

次の例は、E.164 変換表を表示したものです。着信番号 +41993000000 および +41993000001 がトランスレートされ、それぞれ +418893000000 および +418893000001 に置き換えられています。

```
Router#show voice class e164-translation
Voice class e164-translation: 1          AdminStat: Up
Description:
URL: ftp://test:test123@8.0.0.200/test_e164.cfg
   (Loaded:TRUE Valid: TRUE)

Duplicate error count:    0
Syntax error count:      0
Error count:              0

Total Translation Rules: 2

Rule#  Match Call Number                Replace Call Number
-----  -
1      +41993000000                        +418893000000
2      +41993000001                        +418893000001

Total Rules from Internal Sorted list: 2

Match Reverse Call Number                Match Call Number
-----  -
00000039914+                            +41993000000
10000039914+                            +41993000001

Lookup Array Setup:

Offset  Match Reverse Number                Match Call Number
-----  -
12      00000039914+                        +41993000000
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show voice class e164-pattern-map</b>	マップのステータスと、マップ内のすべての E.164 パターンを表示します。

## show voice class phone-proxy

すべての電話プロキシを介して実行中のセッションおよびファイルバッファ機能に関する詳細情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show voice class phone-proxy** コマンドを使用します。

**show voice class phone-proxy** [**file-buffer** [**detail**] | **sessions**]

### 構文の説明

**file-buffer** (任意) 電話プロキシのファイルバッファ機能動作ステータスに関する要約を表示します。

**detail** (任意) 電話プロキシのファイルバッファに関する詳細情報を表示します。

**sessions** (任意) 電話プロキシの電話機とダイヤルピア信号アドレス間のインスタンスマッピングステータス、およびプロトコルステータスを表示します。

### コマンドモード

特権 EXEC モード

### コマンド履歴

リリース	変更内容
15.3(3)M	このコマンドが導入されました。
IOS XE Fuji リリース 16.8.1	このコマンドが変更されました。このコマンドは、電話プロキシのファイルバッファ詳細情報を表示するように拡張されました。

### 例

次の例は、**show voice class phone-proxy** コマンドの出力例を示しています。

```
Device# show voice class phone-proxy

Phone-Proxy 'mypp':
Description: mycluster
  Access Secure: secure
  Tftp-client address: 198.51.100.2
  Tftp-server address: 198.51.100.101
  Capf server address: 198.51.100.101
  CUCM service settings: preserve(default)
  Ctl file name: myctl
  Session-timeout: 180 seconds
  Max-concurrent-sessions: 300
  Current sessions: 10
  Configuration status: complete
  Dialpeers associated:
    Name                               State
    -----
    dialpeer1                          inactive
    dialpeer2                          active
    dialpeer3                          active
Phone-Proxy 'test':
Description: test-cluster
  Access secure: nonsecure (default)
```

## show voice class phone-proxy

```

Tftp-client address: 10.0.0.2
Tftp-server address: 10.0.0.1
Local capf server address: 104.0.0.3
CUCM service settings: disable
Ctl file name: ctl_test
Session-timeout: 180 seconds
Max-concurrent-sessions: 300
Current sessions: 20
Configuration status: not complete
Dialpeers associated:
  Name                      State
  -----
  dialpeer 4                 inactive
  dialpeer 5                 inactive

```

次の出力は、電話プロキシを介して実行中のセッションに関する詳細を示したものです。

```
Device# show voice class phone-proxy sessions
```

```
Phone-Proxy 'mypp':
```

```

          srcaddr:port          dstaddr:port          vrf
          -----
-----Sessions of Dialpeer dialpeer1-----
|Access: 10.0.100.11:2000    10.0.100.15:69    test1    |
|Core  : 192.168.0.2:10002  192.169.0.101:69  global   |
-----
|Access: 10.0.100.35:2004    10.0.100.15:69    test1    |
|Core  : 192.168.0.2:10008  192.169.0.101:69  global   |
-----
|Access: 10.0.100.21:4000    10.0.100.15:69    test1    |
|Core  :                               |
-----

```

```
Phone-Proxy 'test':
```

```

          srcaddr:port          dstaddr:port          vrf
          -----
-----Sessions of Dialpeer dialpeer1-----
|Access: 10.2.100.9:2000     10.2.100.15:69    test1    |
|Core  : 20.21.21.101:10002  20.21.21.2:69     global   |
-----
|Access: 10.2.100.21:4000    10.2.100.15:69    test1    |
|Core  :                               |
-----

```

## show voice class resource-group

特定のリソースグループまたはすべてのリソースグループのリソースグループ設定情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show voice class resource-group** コマンドを使用します。

**show voice class resource-group** {tag | all}

### 構文の説明

<i>tag</i>	リソースグループ固有のタグ。
<b>all</b>	すべての音声リソースグループの情報を表示します。

### コマンドモード

特権 EXEC (#)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
15.1(2)T	このコマンドが導入されました。

### 使用上のガイドライン

**show voice class resource-group** コマンドを使用すると、リソースのモニタリング用に設定された各種パラメータを表示できます。

### 例

次に、**show voice class resource-group** コマンドの出力例を示します。

```
Router> enable
Router# show voice class resource-group 2
Resource Availability Indicator status
Resource Index 2
Resource Type:SYSTEM
      Status: Low threshold
Resource Type: MEM Subtype: io-mem Low/High watermark: 2/5
      Status: Low threshold
Report Interval 34
-----
```

次の表で、この出力に表示される重要なフィールドを説明します。

表 12: **show voice class resource-group** のフィールドの説明

フィールド	説明
Resource Index	リソースグループを識別する固有のインデックス値。
Resource Type	モニタリング対象であるリソースのタイプ。
Status	当該リソースのステータス。
Subtype	モニタリング対象であるリソースのサブタイプ。

フィールド	説明
Report Interval	モニタリング対象であるリソースの定期レポート間隔。事前設定したタイマー値に基づいて、モニタリング対象であるリソースのステータスが報告されます。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>debug rai</b>	Resource Allocation Indication (RAI) のデバッグを有効にします。
<b>rai target</b>	SIP RAI メカニズムを設定します。
<b>resource (voice)</b>	リソースモニタリングの各種パラメータを設定します。resource コマンドは音声クラス コンフィギュレーション モードで使用します。
<b>periodic-report interval</b>	ゲートウェイ リソース エンティティに対する定期レポートの各種パラメータを設定します。
<b>voice class resource-group</b>	音声クラス コンフィギュレーション モードを開始し、リソースグループに識別タグ番号を割り当てます。

## show voice class server-group

設定済みのすべてのサーバーグループの設定、または指定したサーバーグループの設定を表示するには、特権 EXEC モードで **show voice class server-group** コマンドを使用します。

**show voice class server-group** [ *server-group-id* | *dialpeer dialpeer-tag* ]

<i>server-group-id</i>	サーバーグループを識別する固有のサーバーグループ ID。
<b>dialpeer</b> <i>dialpeer-tag</i>	サーバーグループに関連付けられているダイヤルピアの固有の番号。

### コマンドモード

ユーザー EXEC (>) 特権 EXEC (#)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE リリース 3.11S 15.4(1)T	次のコマンドが導入または変更されました： <b>voice class server-group</b> 、 <b>description</b> 、 <b>ipv4 port preference</b> 、 <b>ipv6 port preference</b> 、 <b>hunt-scheme</b> 、 <b>show voice class server-group</b> 、 <b>shutdown (Server Group)</b> 。
Cisco IOS XE Bengaluru 17.4.1a	次のコマンドが、 <b>voice class server-group</b> コマンドに導入されました： <b>huntstop rule-tag resp-code from_resp_code ~ to_resp_code</b> 。

### 使用上のガイドライン

**show voice class server-group** コマンドを使用すると、設定済みのすべてのサーバーグループの設定、または指定されたサーバーグループの設定を表示できます。

次に、**show voice class server-group** コマンドの出力例を示します。

```
Router> enable
Router# show voice class server-group 1
  AdminStatus: Up           OperStatus: Up
  Hunt-Scheme: preference   Last returned server:
  Description: server-group for huntstop feature testing
  Total Huntstop tags: 1
  Tag ID From Response code      To Response code
  -----
  1      404                      404
  2      410                      599
  -----
  Total server entries: 3
  Pref   Type   IP Address      IP Port
  -----
  1      ipv4   10.1.1.1
  2      ipv4   10.1.1.2      34515
  3      ipv4   10.1.1.3
```

次の表で、この出力に表示される重要なフィールドを説明します。

表 13: show voice class server-group のフィールドの説明

フィールド	説明
<b>description</b>	サーバーグループの説明。
<b>ipv4 port preference</b>	このサーバーグループを構成するサーバーの IPv4 アドレス、任意のポート番号および優先順位。
<b>ipv6 port preference</b>	このサーバーグループを構成するサーバーの IPv6 アドレス、任意のポート番号および優先順位。
<b>hunt-scheme</b>	発信コールのセットアップに使用するターゲットサーバー IP アドレスを（このサーバーグループに設定された IP アドレスから）選択する順序のハントメソッド。
<b>hunt-stop</b>	レスポンスコード（設定可能）に基づいて、当該サーバーグループおよびダイヤルピアでのハンティングを中止します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>voice class server-group</b>	音声クラス コンフィギュレーション モードを開始し、サーバーグループ（IPv4 アドレスと IPv6 アドレスのグループ）、説明、ハントスキーム、ハント中止およびシャットダウン（サーバーグループ）を設定します。

## show voice class sip-options-keepalive

CUBE VoIP ダイアルピアと SIP サーバー間の接続の詳細を表示するには、特権 EXEC モードで **show voice class sip-options-keepalive** コマンドを使用します。

**show voice class sip-options-keepalive** [ **global** | *profile-tag* ]

<b>global</b>	音声クラス sip-options-keepalive global の情報を表示します。
<i>profile-tag</i>	SIP オプションのキープアライブプロファイルに割り当てられた固有のタグ。範囲は 1 ~ 10000 です。

コマンドモード ユーザー EXEC (>)  
特権 EXEC (#)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	IOS XE Fuji リリース 16.8.1	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン **show voice class sip-options-keepalive global** コマンドを使用すると、ダイアルピアと SIP サーバー間で設定されているダイアログ外 (OOD) ping メカニズムのグローバル情報およびインスタントステータス情報を表示できます。

例 次の出力例では、サーバーグループおよび当該サーバーグループで定義されている OOD キープアライブプロファイルの詳細が表示されています

```
Router# show voice class sip-options-keepalive global
Server Group: 1
  List of OOD Keepalive Profile(s):
    171
-----
```

関連コマンド	<b>voice-class sip options-keepalive</b>	CUBE VoIP ダイアルピアと SIP サーバー間の接続をモニタリングします。このコマンドでは、任意の数の接続先間での OOD ping メカニズムも構成できます。
--------	--	--

## show voice class sip-predefined-profiles

CUBE ルータで定義された SIP プロファイルを表示するには、特権 EXEC モードで **show voice class sip-predefined-profiles** コマンドを使用します。

### show voice class sip-predefined-profiles

#### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

#### コマンドモード

特権 EXEC (#)

#### コマンド履歴

リリース	変更内容
IOS XE Fuji リリース 16.8.1	このコマンドが導入されました。

#### 使用上のガイドライン

SIP プロファイルは、同一ネットワーク上にある互換性のないデバイス間の SIP メッセージングを有効にします。このコマンドを使用すると、同一ネットワーク内のすべての CUBE ルータで定義されている SIP プロファイルを表示できます。

#### 例

次の出力例は、事前定義されたすべての SIP プロファイルに関する詳細情報を表示したものです。

```
Router# show voice class sip-predefined-profiles
voice class sip-hdr-passthru-list 20001
passthru-hdr Call-Info
passthru-hdr Content-ID
passthru-hdr Allow-Events
passthru-hdr Supported
passthru-hdr Remote-Party-I
passthru-hdr Require
passthru-hdr Referred-By

voice class sip-profiles 20001
request INVITE sip-header Cisco-Guid remove
```

## show voice class uri

設定済みの Uniform Resource Identifier (URI) 音声クラスに関する要約情報または詳細情報を表示するには、ユーザー EXEC モードまたは特権 EXEC モードで **show voice class uri** コマンドを使用します。

**show voice class uri** [*tag* | **summary**]

### 構文の説明

<i>tag</i>	(任意) 詳細情報を表示したい特定の URI 音声クラス。
<b>summary</b>	(任意) すべての URI 音声クラスの簡潔な要約情報を表示します。

### コマンドデフォルト

設定済みの URI 音声クラスに関する詳細情報を表示します。

### コマンドモード

ユーザー EXEC (>) 特権 EXEC (#)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.3(4)T	このコマンドが導入されました。
15.1(2)T	このコマンドが変更されました。このコマンドが拡張され、設定済み URI クラスの複数のホストを表示するようになりました。

### 使用上のガイドライン

引数 *tag* とキーワード **summary** の両方を省略すると、出力にはすべての URI 音声クラスに関する詳細情報が表示されます。

### 例

次に、このコマンドの出力例を示します。

```
Router# show voice class uri
Voice URI class: 100
  SNMP status = Active
  Schema = sip
  pattern = 12345
Voice URI class: 101
  SNMP status = Active
  Schema = sip
  pattern = 555....
Voice URI class: 102
  SNMP status = Active
  Schema = sip
  user-id = demo
  host = cisco
  phone context =
Voice URI class: 103
  SNMP status = Active
  Schema = tel
  phone number = 555....
  phone context =
Voice URI class: 700
  SNMP status = Active
```

```

Schema = sip
pattern = elmo@sip.tgw.com*
Voice URI class: 104
SNMP status = Active
Schema = tel
pattern = 5550134
Voice URI class: 700
SNMP status = Active
Schema = sip
user-id =
host = exmp.example.com
phone context =

host instances:
ipv4:192.168.0.1
ipv6:[2001:0DB8:0:1:FFFF:1234::5]
dns:ogw.example.com

```

次に、**summary** キーワードを指定した場合のこのコマンドの出力例を示します。

```
Router# show voice class uri summary
```

Class Name	Schema	SNMP
100	sip	Active
101	sip	Active
102	sip	Active
103	tel	Active
700	sip	Active
104	tel	Active

下の表は、各コマンド出力で表示される重要なフィールドについて説明したものです。

表 14: show voice class uri のフィールドの説明

フィールド	説明
<b>Class Name</b>	URI 音声クラスを識別するタグ。
<b>Schema</b>	当該音声クラスが SIP または TEL URI のどちらに使用されているか。
<b>pattern</b>	<b>pattern</b> コマンドで設定された、SIP または TEL URI 全体の照合に使用するパターン。
<b>user-id</b>	<b>user-id</b> コマンドで設定された、SIP URI 内の user-id フィールドの照合に使用するパターン。
<b>host</b>	<b>host</b> コマンドで設定された、SIP URI 内の host フィールドの照合に使用するパターン。
<b>phone number</b>	<b>phone number</b> コマンドで設定された、TEL URI 内の電話番号フィールドの照合に使用するパターン。
<b>phone context</b>	<b>phone context</b> コマンドで設定された、SIP または TEL URI 内の phone context フィールドの照合に使用されるパターン。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>debug voice uri</b>	URI 音声クラスに関連するデバッグメッセージを表示します。
<b>show dialplan incall uri</b>	着信コールの特定の URI に一致するダイヤルピアを表示します。
<b>show dialplan uri</b>	特定の宛先 URI に一致する発信ダイヤルピアを表示します。
<b>voice class uri</b>	SIP URI または TEL URI を含むコールにダイヤルピアを一致させるための音声クラスを作成または変更します。

## show voice connectivity summary

ルータのすべてのアナログ FXS ポートで実行された前回の接続チェックの結果が表示するには、特権 EXEC モードで **show voice connectivity summary** コマンドを使用します。

### show voice connectivity summary

#### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

#### コマンド デフォルト

ルータのすべてのアナログ FXS ポートで実行された、前回の接続チェックの要約が表示されます。

#### コマンド モード

特権 EXEC (#)

#### コマンド履歴

リリース	変更内容
15.1(3)T	このコマンドが導入されました。

#### 例

次の例は、**show voice connectivity summary** コマンドの使用方法を示したものです。

```
Router> enable
Router# show voice connectivity summary
.
.
.
! The summary results include information such as the port address, type of connectivity
! check performed, result of connectivity check for each port
```

## show voice data

呼制御アプリケーションプログラミングインターフェイス (CCAPI) およびテレフォニーサービスプロバイダー (VTSP) のデータ構造を表示するには、ユーザー EXEC モードまたは特権 EXEC モードで **show voice data** コマンドを使用します。

```
show voice data {ccapi {ccCallEntry {call-id | all} | ccCallInfo} | vtsp {ccCallInfo | vtsp_cdb
{call-id | all}} | vtsp_sdb {call-id | all}}
```

### 構文の説明

<b>ccapi</b>	すべての CCAPI コールを表示します。
<b>ccCallEntry</b>	コールエントリを表示します。
<i>call-id</i>	1 ~ 4294967295 の範囲でコール識別子 (ID) を入力します。
<b>all</b>	すべてのコールエントリを表示します。
<b>ccCallInfo</b>	コール情報を表示します。
<b>vtsp</b>	すべての VTSP コールを表示します。
<b>vtsp_cdb</b>	すべての VTSP 呼制御バックコールを表示します。
<b>vtsp_sdb</b>	すべての VTSP シグナリング データ ブロック コールを表示します。

### コマンドモード

ユーザー EXEC (>) 特権 EXEC (#)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.4(22)T	このコマンドは Cisco IOS リリース 12.4(22)T よりも前のリリースに導入されました。

### 例

次に、**show voice data** コマンドの出力例を示します。

```
Router# show voice data ccapi ccCallEntry all
CallEntry=0x6B8051B0; CallID=7(0x7)::
element:{ 0x6B8051B0; 0x6B8051B4; 0x6B8051B8; } 7; <appReturnStack>; 1735408; 1;
0x6B8051D8; 7; 8; callInfo:{ 0; 112233; <NULL>; 889988; <NULL>; <NULL>; <NULL>; <NULL>;
<NULL>; <NULL>; <NULL>; FALSE; FALSE; TRUE; <NULL>; 0; 0; 0; <NULL>; RegularLine;
Unknown; D356CC33-E54B-11D7-8005-00169D6EE1AE; D356CC33-E54B-11D7-8005-00169D6EE1AE; 0;
0; 0; 0; 998877; 0x6B80547C; 0; TRUE; FALSE; 0.0.0.0; 0.0.0.0; 0x6B8054A0; 0x6B8054A4;
0x6B8054A8; 0x6B8054AC; 0; FALSE; FALSE; 0x6B8054BC; 0; call_decode:{ redirect_info:{
0xFF; 0xFF; 0xFF; 0xFF; 0xFF; 0xFF; 0x00; 0xFF; 255; <NULL>; <NULL>; 0x00; FALSE; FALSE;
} 0x00; 0x80; 0x00; 0x80; 0; 0x00; <NULL>; 0; 0x00; <NULL>; FALSE; FALSE; FALSE; FALSE;
-1; <NULL>; TRUE; <transfer_info>; FALSE; 129; 40; 104; 0xFF; TRUE; } FALSE;
D357685B-E54B-11D7-8016-CB962D72A90A; 0; 0; 0; 0; 0x6B805634; FALSE; <NULL>; FALSE;
FALSE; FALSE; 0; 0; 0; <NULL>; ISDN 7/0:1:D; FALSE; FALSE; FALSE; 0x00; <NULL>; <NULL>;
0x6B80585C; 0; 0x6B805864; } 0x6B805914; 0x6B805918; 0x6B80591C; 0x6B805920;
<altAssocList>; FALSE; 0x6B80593C; 0x6B805940; 0x6B805944; FALSE; 0; 65535; TRUE; 0;
FALSE; 1; <disconnect_timer>; <inter_digit_timer>; 10000; <initial_timer_timestamp>;
```

## show voice data

```

10000; FALSE; 0; 0; -1; <NULL>; 0x6B8059F8; <evCategoryMask>; <evDetailMask>; 4294967295;
 0x6B805C48; FALSE; 0; 0; TRUE; TRUE; TRUE; 0; 0; 0x6B805C6C; FALSE; 0; 4; 0; -1; FALSE;
CallEntry=0x6B805C90; CallID=8(0x8)::
element:{ 0x6B805C90; 0x6B805C94; 0x6B805C98; } 8; <appReturnStack>; 1735408; 2;
0x6B805CB8; 8; 7; callInfo:{ 0; 112233; <NULL>; 889988; <NULL>; 112233; 112233; <NULL>;
<NULL>; <NULL>; <NULL>; FALSE; FALSE; TRUE; <NULL>; 0; 0; 0; <NULL>; RegularLine;
Unknown; D356CC33-E54B-11D7-8005-00169D6EE1AE; D356CC33-E54B-11D7-8005-00169D6EE1AE; 7;
0; 0; 0; 2; 112233; 0x6B805F5C; 0; FALSE; FALSE; 0.0.0.0; 0.0.0.0; 0x6B805F80; 0x6B805F84;
0x6B805F88; 0x6B805F8C; 0; FALSE; FALSE; 0x6B805F9C; 0; call_decode:{ redirect_info:{
0xFF; 0xFF; 0xFF; 0xFF; 0xFF; 0xFF; 0x00; 0xFF; 255; <NULL>; <NULL>; 0x00; FALSE; FALSE;
} 0x00; 0x80; 0x00; 0x00; 0; 0x00; <NULL>; 0; 0x00; <NULL>; FALSE; FALSE; FALSE; FALSE;
-1; <NULL>; TRUE; <transfer_info>; FALSE; 129; 40; 104; 0xFF; TRUE; } FALSE;
D357685B-E54B-11D7-8016-CB962D72A90A; 0; 0; -1; 0; 0; 0; 0x6B806114; FALSE; <NULL>;
FALSE; FALSE; FALSE; 0; 0; 0; <NULL>; ISDN 7/0:1:D; TRUE; FALSE; FALSE; 0x00; <NULL>;
<NULL>; 0x6B80633C; 0; 0x6B806344; } 0x6B8063F4; 0x6B8063F8; 0x6B8063FC; 0x6B806400;
<altAssocList>; FALSE; 0x6B80641C; 0x6B806420; 0x6B806424; FALSE; 0; 65535; FALSE; 0;
FALSE; 1; <disconnect_timer>; <inter_digit_timer>; 10000; <initial_timer_timestamp>;
10000; FALSE; 0; 0; -1; <NULL>; 0x6B8064D8; <evCategoryMask>; <evDetailMask>; 4294967295;
0x6B806728; FALSE; 0; 0; TRUE; TRUE; TRUE; 0; 0; 0x6B80674C; FALSE; 0; 4; 0; -1; FALSE;

```

次の表で、この出力に表示される重要なフィールドを説明します。

表 15: show voice data のフィールドの説明

フィールド	説明
CallEntry	着信コールレグに使用されているコールエントリ ID 番号を表示します。
CallID	指定したコール識別子の値を表示します。
element	当該サービス要素のさまざまな設定値を示します。
callInfo	コール情報を表示します。
call_decode	音声デコーダーのステータスを表示します。
redirect_info	コール転送中における自動転送要求の情報を表示します。
transfer_info	コール転送要求の情報を表示します。
disconnect_timer	指定されたコール切断までのタイムアウト値を秒単位で表示します。
inter_digit_timer	ユーザーがダイヤルする各桁間の最長間隔時間を秒単位で表示します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
debug voip ccapi error	呼制御 API のエラーログをトレースします。

## show voice dnis-map

現在の着信番号識別サービス（DNIS）マップに関する情報を表示するには、特権 EXEC モードで `show voice dnis-map` コマンドを使用します。

**show voice dnis-map** [*{dnis-map-name | summary}*]

### 構文の説明

<i>dnis -map-name</i>	(任意) 特定の DNIS マップ名。
<b>summary</b>	(任意) 各 DNIS マップの簡潔な要約情報を表示します。

### コマンドモード

特権 EXEC (#)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(2)XB	このコマンドが Cisco AS5300、Cisco AS5350、および Cisco AS5400 に導入されました。
12.2(11)T	このコマンドが Cisco IOS リリース 12.2(11)T に統合され、Cisco 3640 および Cisco 3660 に導入されました。

### 使用上のガイドライン

このコマンドを使用すると、設定済みの各 DNIS マップに関する詳細な説明を表示できます。

このコマンドに特定の DNIS マップ名を入力した場合、その DNIS マップのみに関する詳細情報が表示されます。

このコマンドにキーワード **summary** を入力した場合、各 DNIS マップごとに 1 行の要約情報が表示されます。

キーワード **summary** を使用した出力で、DNIS マップ名の横にアスタリスクが表示される場合、当該 DNIS マップは設定済みであるものの実行されていないことを意味します。通常この原因は、外部テキストファイルが正常にロードされなかったことにあります。この例を次に示します。

```
dnis-map          Entries    URL
-----          -
dmap1             1
*dmap4            0             http://dnismaps/dnismap4.txt
```

DNIS マップを作成するには、**voice dnis-map** コマンドを使用します。外部 DNIS マップテキストファイルへのリンクを設定するか、あるいは **dnis** コマンドで Cisco IOS ソフトウェアの DNIS マップに番号を追加できます。

DNIS マップをダイヤルピアに関連付けるには、**dnis-map** コマンドを使用します。

### 例

次に、`show voice dnis-map` コマンドの出力例を示します。

```
Router# show voice dnis-map
```

```

There are 2 dnis-maps configured
Dnis-map dmap1
-----
  It has 3 entries
  It is not populated from a file.
DNIS          URL
----          ---
4085551212    tftp://global/tickets/movies.vxml
4085551234    tftp://global/tickets/plays.vxml
4085554321    tftp://global/tickets/games.vxml
Dnis-map dmap4
-----
  It has 0 entries
  It is populated from url http://dnismaps/dnismap4.txt
DNIS          URL
----          ---

```

下の表に、このコマンド出力で表示されるフィールドの説明を示します。

表 16: *show voice dnis-map* のフィールドの説明

フィールド	説明
Dnis-map	当該ゲートウェイで設定されている DNIS マップの名前。
DNIS	この DNIS マップで指定されている宛先電話番号。
URL	この DNIS 番号で呼び出す VoiceXML ドキュメントの場所。

次に、*show voice dnis-map summary* コマンドの出力例を示します。

```

Router# show voice dnis-map summary
There are 3 dnis-maps configured
dnis-map      Entries    URL
-----
dmap1         3
dmap4         0          http://dnismaps/dnismap4.txt
dmap6         8

```

次の表に、この出力で表示されるフィールドについて説明します。

表 17: *show voice dnis-map summary* のフィールドの説明

フィールド	説明
dnis-map	当該ゲートウェイで設定されている各 DNIS マップの名前。
Entries	当該ゲートウェイ上にある DNIS マップのエントリ数。この DNIS マップがテキストファイルとして外部サーバーに保存されている場合、このフィールドには 0 が表示されます。
URL	外部に保存された DNIS マップの場所。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>dnis</b>	DNIS マップに DNIS 番号を追加します。
<b>dnis -map</b>	ダイヤルピアに DNIS マップを関連付けます。
<b>voice dnis -map</b>	DNIS マップ コンフィギュレーション モードを開始して、DNIS マップを作成します。
<b>voice dnis -map load</b>	前回のロード以降に変更された DNIS マップをリロードします。

## show voice dsmp stream

音声 Distributed Stream Media Processor (DSMP) メディアストリームの現在のセッション、最近の状態遷移、およびストリームの接続を表示するには、特権 EXEC モードで **show voice dsmp stream** コマンドを使用します。

**show voice dsmp stream** {*stream ID* | *leg*}

構文の説明	<i>stream ID</i>	DSMP メディアストリームの ID。範囲は 1 ~ 4294967295 です。
	<i>leg</i>	発信者 ID に対応するコールレグ。

コマンドモード 特権 EXEC (#)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.3(14)T	このコマンドが導入されました。

**使用上のガイドライン** コールが切断された場合、このコマンドを使用すると DSMP メディアストリームの現在のセッションを表示できます。コールに対応する DSMP の状態遷移を確認して、問題を見つけることができます。

### 例

次の例は、VoIP コールにおける一般的な DSMP セッションを表示した出力例です。このコールは、4 つのストリーム（入力ストリーム 2 つと出力ストリーム 2 つ）で構成されます。

```
Router# show voice dsmp stream
Total number of streams in use is: 4

Stream information:: stream=1
Type: TDM, Direction: OUTPUT
Fax/Modem Type: voice
Xmit Function: 0x00000000
Xmit function is Enabled
Call ID: 4, Conference ID: -1

Session information:: session=0x658CA948 dsp_intf=0x642DDD8C dsp_name=1/9:3

connections=2 streams=4 (5 1 4 3 )
current state S_DSMP_VC_RUNNING current container simple_voice_container
State Transitions: timestamp (container, state) -- event -> (container, state)
367121.596 (simple_voice_container, S_DSMP_VC_RUNNING) -- E_DSMP_CC_PLAY_REQ ->
(simple_voice_container, CNFSM_NO_STATE_CHANGE)
367121.796 (simple_voice_container, S_DSMP_VC_RUNNING) -- E_DSMP_CC_PLAY_REQ ->
(simple_voice_container, CNFSM_NO_STATE_CHANGE)
367122.712 (simple_voice_container, CNFSM_CONTAINER_STATE) -- E_DSMP_DSP_DTMF_DIGIT_BEGIN
-> (simple_voice_container, CNFSM_NO_STATE_CHANGE)
367122.732 (simple_voice_container, CNFSM_CONTAINER_STATE) -- E_DSMP_DSP_DTMF_DIGIT_END
-> (simple_voice_container, CNFSM_NO_STATE_CHANGE)
367122.920 (simple_voice_container, CNFSM_CONTAINER_STATE) -- E_DSMP_DSP_DTMF_DIGIT_BEGIN
-> (simple_voice_container, CNFSM_NO_STATE_CHANGE)
```

```

367122.940 (simple_voice_container, CNFSM_CONTAINER_STATE) -- E_DSMP_DSP_DTMF_DIGIT_END
-> (simple_voice_container, CNFSM_NO_STATE_CHANGE)
367123.112 (simple_voice_container, CNFSM_CONTAINER_STATE) -- E_DSMP_DSP_DTMF_DIGIT_BEGIN
-> (simple_voice_container, CNFSM_NO_STATE_CHANGE)
367123.152 (simple_voice_container, CNFSM_CONTAINER_STATE) -- E_DSMP_DSP_DTMF_DIGIT_END
-> (simple_voice_container, CNFSM_NO_STATE_CHANGE)
367124.432 (simple_voice_container, S_DSMP_VC_RUNNING) -- E_DSMP_CC_PLAY_REQ ->
(simple_voice_container, CNFSM_NO_STATE_CHANGE)
367124.632 (simple_voice_container, S_DSMP_VC_RUNNING) -- E_DSMP_CC_PLAY_REQ ->
(simple_voice_container, CNFSM_NO_STATE_CHANGE)
367124.732 (simple_voice_container, S_DSMP_VC_RUNNING) -- E_DSMP_CC_PLAY_REQ ->
(simple_voice_container, CNFSM_NO_STATE_CHANGE)
367124.932 (simple_voice_container, S_DSMP_VC_RUNNING) -- E_DSMP_CC_PLAY_REQ ->
(simple_voice_container, CNFSM_NO_STATE_CHANGE)
367125.032 (simple_voice_container, S_DSMP_VC_RUNNING) -- E_DSMP_CC_PLAY_REQ ->
(simple_voice_container, CNFSM_NO_STATE_CHANGE)
367125.232 (simple_voice_container, S_DSMP_VC_RUNNING) -- E_DSMP_CC_PLAY_REQ ->
(simple_voice_container, CNFSM_NO_STATE_CHANGE)
367126.140 (simple_voice_container, CNFSM_CONTAINER_STATE) -- E_DSMP_DSP_DTMF_DIGIT_BEGIN
-> (simple_voice_container, CNFSM_NO_STATE_CHANGE)
367126.160 (simple_voice_container, CNFSM_CONTAINER_STATE) -- E_DSMP_DSP_DTMF_DIGIT_END
-> (simple_voice_container, CNFSM_NO_STATE_CHANGE)
367126.340 (simple_voice_container, CNFSM_CONTAINER_STATE) -- E_DSMP_DSP_DTMF_DIGIT_BEGIN
-> (simple_voice_container, CNFSM_NO_STATE_CHANGE)
367126.380 (simple_voice_container, CNFSM_CONTAINER_STATE) -- E_DSMP_DSP_DTMF_DIGIT_END
-> (simple_voice_container, CNFSM_NO_STATE_CHANGE)
367126.548 (simple_voice_container, CNFSM_CONTAINER_STATE) -- E_DSMP_DSP_DTMF_DIGIT_BEGIN
-> (simple_voice_container, CNFSM_NO_STATE_CHANGE)
367126.568 (simple_voice_container, CNFSM_CONTAINER_STATE) -- E_DSMP_DSP_DTMF_DIGIT_END
-> (simple_voice_container, CNFSM_NO_STATE_CHANGE)

```

Session log information::

Regular Timer:

Timer start operations:

Timestamp	Duration(ms)	Caller
367122.652	4000	0x6113397C
367119.388	4000	0x6113397C
367117.624	10000	0x6112ED88

Timer stop operations:

Timestamp	Duration(ms)	Caller
367122.656	0	0x61133A98
367119.392	0	0x61133A98
367117.624	0	0x6112F060
367117.624	0	0x6112EE24

Number of overwritten entries: 2

Periodic Timer:

Timer start operations:

None

Timer stop operations:

None

Packet suppression is disabled

Stream information:: stream=3

Type: PACKET, Direction: OUTPUT

Fax/Modem Type: voice

Xmit Function: 0x6111D324

Xmit function is Enabled

Call ID: 3, Conference ID: 2

DSP Encap: 0x1

Codec Mask: 0x4; Codec Bytes: 20

Fax Rate Mask: 0x2; Fax Bytes: 20; T38 Disabled

VAD Mask: 0x2

## show voice dsmp stream

```

Session information:: session=0x658CA948 dsp_intf=0x642DDD8C dsp_name=1/9:3

connections=2 streams=4 (5 1 4 3 )
current state S_DSMP_VC_RUNNING current container simple_voice_container
State Transitions: timestamp (container, state) -- event -> (container, state)
367128.452 (simple_voice_container, S_DSMP_VC_RUNNING) -- E_DSMP_CC_PLAY_REQ ->
(simple_voice_container, CNFSM_NO_STATE_CHANGE)
367128.652 (simple_voice_container, S_DSMP_VC_RUNNING) -- E_DSMP_CC_PLAY_REQ ->
(simple_voice_container, CNFSM_NO_STATE_CHANGE)
367129.556 (simple_voice_container, CNFSM_CONTAINER_STATE) -- E_DSMP_DSP_DTMF_DIGIT_BEGIN
-> (simple_voice_container, CNFSM_NO_STATE_CHANGE)
367129.588 (simple_voice_container, CNFSM_CONTAINER_STATE) -- E_DSMP_DSP_DTMF_DIGIT_END
-> (simple_voice_container, CNFSM_NO_STATE_CHANGE)
367129.756 (simple_voice_container, CNFSM_CONTAINER_STATE) -- E_DSMP_DSP_DTMF_DIGIT_BEGIN
-> (simple_voice_container, CNFSM_NO_STATE_CHANGE)
367129.796 (simple_voice_container, CNFSM_CONTAINER_STATE) -- E_DSMP_DSP_DTMF_DIGIT_END
-> (simple_voice_container, CNFSM_NO_STATE_CHANGE)
367129.968 (simple_voice_container, CNFSM_CONTAINER_STATE) -- E_DSMP_DSP_DTMF_DIGIT_BEGIN
-> (simple_voice_container, CNFSM_NO_STATE_CHANGE)
367129.988 (simple_voice_container, CNFSM_CONTAINER_STATE) -- E_DSMP_DSP_DTMF_DIGIT_END
-> (simple_voice_container, CNFSM_NO_STATE_CHANGE)
367131.276 (simple_voice_container, S_DSMP_VC_RUNNING) -- E_DSMP_CC_PLAY_REQ ->
(simple_voice_container, CNFSM_NO_STATE_CHANGE)
367131.472 (simple_voice_container, S_DSMP_VC_RUNNING) -- E_DSMP_CC_PLAY_REQ ->
(simple_voice_container, CNFSM_NO_STATE_CHANGE)
367131.572 (simple_voice_container, S_DSMP_VC_RUNNING) -- E_DSMP_CC_PLAY_REQ ->
(simple_voice_container, CNFSM_NO_STATE_CHANGE)
367131.772 (simple_voice_container, S_DSMP_VC_RUNNING) -- E_DSMP_CC_PLAY_REQ ->
(simple_voice_container, CNFSM_NO_STATE_CHANGE)
367131.872 (simple_voice_container, S_DSMP_VC_RUNNING) -- E_DSMP_CC_PLAY_REQ ->
(simple_voice_container, CNFSM_NO_STATE_CHANGE)
367132.072 (simple_voice_container, S_DSMP_VC_RUNNING) -- E_DSMP_CC_PLAY_REQ ->
(simple_voice_container, CNFSM_NO_STATE_CHANGE)
367132.980 (simple_voice_container, CNFSM_CONTAINER_STATE) -- E_DSMP_DSP_DTMF_DIGIT_BEGIN
-> (simple_voice_container, CNFSM_NO_STATE_CHANGE)
367133.000 (simple_voice_container, CNFSM_CONTAINER_STATE) -- E_DSMP_DSP_DTMF_DIGIT_END
-> (simple_voice_container, CNFSM_NO_STATE_CHANGE)
367133.180 (simple_voice_container, CNFSM_CONTAINER_STATE) -- E_DSMP_DSP_DTMF_DIGIT_BEGIN
-> (simple_voice_container, CNFSM_NO_STATE_CHANGE)
367133.220 (simple_voice_container, CNFSM_CONTAINER_STATE) -- E_DSMP_DSP_DTMF_DIGIT_END
-> (simple_voice_container, CNFSM_NO_STATE_CHANGE)
367133.400 (simple_voice_container, CNFSM_CONTAINER_STATE) -- E_DSMP_DSP_DTMF_DIGIT_BEGIN
-> (simple_voice_container, CNFSM_NO_STATE_CHANGE)
367133.420 (simple_voice_container, CNFSM_CONTAINER_STATE) -- E_DSMP_DSP_DTMF_DIGIT_END
-> (simple_voice_container, CNFSM_NO_STATE_CHANGE)

```

Session log information::

Regular Timer:

Timer start operations:

Timestamp	Duration(ms)	Caller
367131.020	4000	0x6113397C
367128.316	4000	0x6113397C
367122.652	4000	0x6113397C
367119.388	4000	0x6113397C

Number of overwritten entries: 1

Timer stop operations:

Timestamp	Duration(ms)	Caller
367131.024	0	0x61133A98
367128.320	0	0x61133A98
367122.656	0	0x61133A98
367119.392	0	0x61133A98

Number of overwritten entries: 4

```

Periodic Timer:
  Timer start operations:
  None
  Timer stop operations:
  None
Packet suppression is disabled

Stream information:: stream=4
Type: PACKET, Direction: INPUT
Fax/Modem Type: voice
Xmit Function: 0x61F2CA34
Xmit function is Enabled
Call ID: 3, Conference ID: 2
DSP Encap: 0x1
Codec Mask: 0x4; Codec Bytes: 20
Fax Rate Mask: 0x2; Fax Bytes: 20; T38 Disabled
VAD Mask: 0x2

Session information:: session=0x658CA948 dsp_intf=0x642DDD8C dsp_name=1/9:3

connections=2 streams=4 (5 1 4 3 )
current state S_DSMP_VC_RUNNING current container simple_voice_container
State Transitions: timestamp (container, state) -- event -> (container, state)
367133.400 (simple_voice_container, CNFSM_CONTAINER_STATE) -- E_DSMP_DSP_DTMF_DIGIT_BEGIN
-> (simple_voice_container, CNFSM_NO_STATE_CHANGE)
367133.420 (simple_voice_container, CNFSM_CONTAINER_STATE) -- E_DSMP_DSP_DTMF_DIGIT_END
-> (simple_voice_container, CNFSM_NO_STATE_CHANGE)
367134.692 (simple_voice_container, S_DSMP_VC_RUNNING) -- E_DSMP_CC_PLAY_REQ ->
(simple_voice_container, CNFSM_NO_STATE_CHANGE)
367134.892 (simple_voice_container, S_DSMP_VC_RUNNING) -- E_DSMP_CC_PLAY_REQ ->
(simple_voice_container, CNFSM_NO_STATE_CHANGE)
367134.992 (simple_voice_container, S_DSMP_VC_RUNNING) -- E_DSMP_CC_PLAY_REQ ->
(simple_voice_container, CNFSM_NO_STATE_CHANGE)
367135.192 (simple_voice_container, S_DSMP_VC_RUNNING) -- E_DSMP_CC_PLAY_REQ ->
(simple_voice_container, CNFSM_NO_STATE_CHANGE)
367135.292 (simple_voice_container, S_DSMP_VC_RUNNING) -- E_DSMP_CC_PLAY_REQ ->
(simple_voice_container, CNFSM_NO_STATE_CHANGE)
367135.492 (simple_voice_container, S_DSMP_VC_RUNNING) -- E_DSMP_CC_PLAY_REQ ->
(simple_voice_container, CNFSM_NO_STATE_CHANGE)
367136.400 (simple_voice_container, CNFSM_CONTAINER_STATE) -- E_DSMP_DSP_DTMF_DIGIT_BEGIN
-> (simple_voice_container, CNFSM_NO_STATE_CHANGE)
367136.432 (simple_voice_container, CNFSM_CONTAINER_STATE) -- E_DSMP_DSP_DTMF_DIGIT_END
-> (simple_voice_container, CNFSM_NO_STATE_CHANGE)
367136.600 (simple_voice_container, CNFSM_CONTAINER_STATE) -- E_DSMP_DSP_DTMF_DIGIT_BEGIN
-> (simple_voice_container, CNFSM_NO_STATE_CHANGE)
367136.640 (simple_voice_container, CNFSM_CONTAINER_STATE) -- E_DSMP_DSP_DTMF_DIGIT_END
-> (simple_voice_container, CNFSM_NO_STATE_CHANGE)
367136.812 (simple_voice_container, CNFSM_CONTAINER_STATE) -- E_DSMP_DSP_DTMF_DIGIT_BEGIN
-> (simple_voice_container, CNFSM_NO_STATE_CHANGE)
367136.840 (simple_voice_container, CNFSM_CONTAINER_STATE) -- E_DSMP_DSP_DTMF_DIGIT_END
-> (simple_voice_container, CNFSM_NO_STATE_CHANGE)
367138.112 (simple_voice_container, S_DSMP_VC_RUNNING) -- E_DSMP_CC_PLAY_REQ ->
(simple_voice_container, CNFSM_NO_STATE_CHANGE)
367138.312 (simple_voice_container, S_DSMP_VC_RUNNING) -- E_DSMP_CC_PLAY_REQ ->
(simple_voice_container, CNFSM_NO_STATE_CHANGE)
367138.412 (simple_voice_container, S_DSMP_VC_RUNNING) -- E_DSMP_CC_PLAY_REQ ->
(simple_voice_container, CNFSM_NO_STATE_CHANGE)
367138.612 (simple_voice_container, S_DSMP_VC_RUNNING) -- E_DSMP_CC_PLAY_REQ ->
(simple_voice_container, CNFSM_NO_STATE_CHANGE)
367138.712 (simple_voice_container, S_DSMP_VC_RUNNING) -- E_DSMP_CC_PLAY_REQ ->
(simple_voice_container, CNFSM_NO_STATE_CHANGE)
367138.912 (simple_voice_container, S_DSMP_VC_RUNNING) -- E_DSMP_CC_PLAY_REQ ->
(simple_voice_container, CNFSM_NO_STATE_CHANGE)

```

## show voice dsmp stream

```

Session log information::
Regular Timer:
  Timer start operations:
    Timestamp      Duration(ms)      Caller
    367137.648     4000              0x6113397C
    367134.440     4000              0x6113397C
    367131.020     4000              0x6113397C
    367128.316     4000              0x6113397C
  Number of overwritten entries: 3

  Timer stop operations:
    Timestamp      Duration(ms)      Caller
    367137.648     0                 0x61133A98
    367134.440     0                 0x61133A98
    367131.024     0                 0x61133A98
    367128.320     0                 0x61133A98
  Number of overwritten entries: 6

Periodic Timer:
  Timer start operations:
  None
  Timer stop operations:
  None
Packet suppression is disabled

Stream information:: stream=5
Type: TDM, Direction: INPUT
Fax/Modem Type: voice
Xmit Function: 0x00000000
Xmit function is Enabled
Call ID: 4, Conference ID: -1

Session information:: session=0x658CA948 dsp_intf=0x642DDD8C dsp_name=1/9:3

connections=2 streams=4 (5 1 4 3 )
current state S_DSMP_VC_RUNNING current container simple_voice_container
State Transitions: timestamp (container, state) -- event -> (container, state)
367138.712 (simple_voice_container, S_DSMP_VC_RUNNING) -- E_DSMP_CC_PLAY_REQ ->
(simple_voice_container, CNFSM_NO_STATE_CHANGE)
367138.912 (simple_voice_container, S_DSMP_VC_RUNNING) -- E_DSMP_CC_PLAY_REQ ->
(simple_voice_container, CNFSM_NO_STATE_CHANGE)
367139.824 (simple_voice_container, CNFSM_CONTAINER_STATE) -- E_DSMP_DSP_DTMF_DIGIT_BEGIN
-> (simple_voice_container, CNFSM_NO_STATE_CHANGE)
367139.844 (simple_voice_container, CNFSM_CONTAINER_STATE) -- E_DSMP_DSP_DTMF_DIGIT_END
-> (simple_voice_container, CNFSM_NO_STATE_CHANGE)
367140.024 (simple_voice_container, CNFSM_CONTAINER_STATE) -- E_DSMP_DSP_DTMF_DIGIT_BEGIN
-> (simple_voice_container, CNFSM_NO_STATE_CHANGE)
367140.064 (simple_voice_container, CNFSM_CONTAINER_STATE) -- E_DSMP_DSP_DTMF_DIGIT_END
-> (simple_voice_container, CNFSM_NO_STATE_CHANGE)
367140.244 (simple_voice_container, CNFSM_CONTAINER_STATE) -- E_DSMP_DSP_DTMF_DIGIT_BEGIN
-> (simple_voice_container, CNFSM_NO_STATE_CHANGE)
367140.252 (simple_voice_container, CNFSM_CONTAINER_STATE) -- E_DSMP_DSP_DTMF_DIGIT_END
-> (simple_voice_container, CNFSM_NO_STATE_CHANGE)
367141.536 (simple_voice_container, S_DSMP_VC_RUNNING) -- E_DSMP_CC_PLAY_REQ ->
(simple_voice_container, CNFSM_NO_STATE_CHANGE)
367141.736 (simple_voice_container, S_DSMP_VC_RUNNING) -- E_DSMP_CC_PLAY_REQ ->
(simple_voice_container, CNFSM_NO_STATE_CHANGE)
367141.836 (simple_voice_container, S_DSMP_VC_RUNNING) -- E_DSMP_CC_PLAY_REQ ->
(simple_voice_container, CNFSM_NO_STATE_CHANGE)
367142.036 (simple_voice_container, S_DSMP_VC_RUNNING) -- E_DSMP_CC_PLAY_REQ ->
(simple_voice_container, CNFSM_NO_STATE_CHANGE)
367142.136 (simple_voice_container, S_DSMP_VC_RUNNING) -- E_DSMP_CC_PLAY_REQ ->
(simple_voice_container, CNFSM_NO_STATE_CHANGE)

```

```

367142.336 (simple_voice_container, S_DSMP_VC_RUNNING) -- E_DSMP_CC_PLAY_REQ ->
(simple_voice_container, CNFSM_NO_STATE_CHANGE)
367143.244 (simple_voice_container, CNFSM_CONTAINER_STATE) -- E_DSMP_DSP_DTMF_DIGIT_BEGIN
-> (simple_voice_container, CNFSM_NO_STATE_CHANGE)
367143.264 (simple_voice_container, CNFSM_CONTAINER_STATE) -- E_DSMP_DSP_DTMF_DIGIT_END
-> (simple_voice_container, CNFSM_NO_STATE_CHANGE)
367143.444 (simple_voice_container, CNFSM_CONTAINER_STATE) -- E_DSMP_DSP_DTMF_DIGIT_BEGIN
-> (simple_voice_container, CNFSM_NO_STATE_CHANGE)
367143.484 (simple_voice_container, CNFSM_CONTAINER_STATE) -- E_DSMP_DSP_DTMF_DIGIT_END
-> (simple_voice_container, CNFSM_NO_STATE_CHANGE)
367143.652 (simple_voice_container, CNFSM_CONTAINER_STATE) -- E_DSMP_DSP_DTMF_DIGIT_BEGIN
-> (simple_voice_container, CNFSM_NO_STATE_CHANGE)
367143.672 (simple_voice_container, CNFSM_CONTAINER_STATE) -- E_DSMP_DSP_DTMF_DIGIT_END
-> (simple_voice_container, CNFSM_NO_STATE_CHANGE)

```

Session log information::

Regular Timer:

Timer start operations:

Timestamp	Duration(ms)	Caller
367137.648	4000	0x6113397C
367134.440	4000	0x6113397C
367131.020	4000	0x6113397C
367128.316	4000	0x6113397C

Number of overwritten entries: 3

Timer stop operations:

Timestamp	Duration(ms)	Caller
367137.648	0	0x61133A98
367134.440	0	0x61133A98
367131.024	0	0x61133A98
367128.320	0	0x61133A98

Number of overwritten entries: 6

Periodic Timer:

Timer start operations:

None

Timer stop operations:

None

Packet suppression is disabled

次の表で、この出力に表示される重要なフィールドを説明します。

表 18: show voice dsmp stream のフィールドの説明

フィールド	説明
Stream information	ストリーム ID を表示します。
Type	ストリームタイプ。
Direction	ストリーム方向。
Fax/Modem Type	ファクスまたはモデムのタイプ。
Xmit Function	使用中の送信機能。
Call ID	コールレグの発信者 ID。
Conference ID	会議 ID。

フィールド	説明
Session information	関連付けられたセッションに関する情報。
connections	ストリーム接続の数。
streams	ストリーム数。
current state	当該セッションの現在の状態とコンテナ。
State Transitions	関連付けられたセッションの状態遷移。
DSP Encap	当該セッションに関連付けられたカプセル化。
Codec Mask	当該セッションに関連付けられたコーデックマスク。
Fax Rate Mask	当該セッションに関連付けられたファクス伝送レート。
Fax Bytes	当該セッションに関連付けられたファクスバイト。
VAD Mask	当該セッションに関連付けられた VAD マスク。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show call active voice</b>	進行中の音声コールの発信者情報を表示します。
<b>show voice call</b>	Cisco ルータの音声ポートのコールステータスを表示します。

## show voice dsp

デジタルシグナルプロセッサ（DSP）音声チャンネルに関する現在のステータスまたは選択的な統計を表示するには、ユーザー EXEC モードまたは特権 EXEC モードで **show voice dsp** コマンドを使用します。

```
show voice dsp [{active [slot slot-number [slot-number]] | capabilities slot slot-number dsp dsp-number | cpu-load slot slot-number dsp dsp-number [reset] | detailed | error | [{group all | sorted-list}] slot slot-number | signalling | voice | version [{slot | slot/dsp}] [{slot | slot/dsp}]]
```

### Cisco ASR 1000 シリーズ ルータ

```
show voice dsp [{active [slot slot-number] | capabilities slot slot-number dsp dsp-number | cpu-load slot slot-number dsp dsp-number [reset] | crash-dump | detailed | error | group {all | slot slot-number} | signalling | sorted-list slot slot-number | voice}]
```

#### 構文の説明

<b>active</b>	(Optional) アクティブなチャンネルを表示します。
<b>slot slot-number</b> [slot-number]	(任意) 単一スロットまたは範囲内の最初のスロットを指定します。スロットの範囲を指定するには、 <b>second slot in the syntax of this argument. The second slot specifies the end of the range.</b> を入力します。指定した範囲内のすべてのスロットが、このコマンドの影響を受けます。
<b>capabilities</b>	(Optional) DSP 機能を表示します。
<b>dsp dsp-number</b>	(任意) 当該スロットの DSP を指定します。
<b>cpu-load</b>	(Optional) DSP CPU の負荷を表示します。
<b>reset</b>	(任意) DSP CPU の統計情報をリセットします。
<b>crash-dump</b>	(任意) DSP クラッシュダンプのステータスを表示します。  (注) DSP クラッシュダンプを有効にするには、ファイル制限をゼロ以外の数に設定して、宛先を有効なファイル名に設定します。
<b>detailed</b>	(Optional) DSP ステータスの詳細情報を表示します。
<b>error</b>	(Optional) DSP のエラーを表示します。
<b>group</b>	(Optional) DSP のグループ情報を表示します。
<b>all</b>	(任意) DSP グループのすべての詳細を表示します。
<b>sorted-list</b>	(Optional) DSP のソートリストを表示します。
<b>signaling</b>	(Optional) DSP シグナリングチャンネルの使用状況を表示します。

<b>voice</b>	<b>(Optional)</b> DSP 音声チャンネルの使用状況を表示します。
<b>version</b>	<b>(Optional)</b> DSP のファームウェアバージョンを表示します。
<i>slot</i>	(任意) 範囲内の最初のスロット。スロットの範囲を指定するには、 <b>second slot in the syntax of this argument. The second slot specifies the end of the range.</b> を指定します。指定した範囲内のすべてのスロットが、このコマンドの影響を受けます。
<i>/ dsp</i>	(任意) 範囲内の最初の DSP。DSP の範囲を指定するには、 <b>second DSP in the syntax of this argument. The second DSP specifies the end of the range.</b> を入力できます。指定した範囲内のすべてのスロットが、このコマンドの影響を受けます。スラッシュ記号が必要です。

コマンド デフォルト      デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード      ユーザー EXEC (>) 特権 EXEC (#)

#### コマンド履歴

リリース	変更内容
11.3(1)MA	このコマンドが Cisco MC3810 に追加されました。
12.0(7)XK	このコマンドが Cisco 2600 シリーズおよび Cisco 3600 シリーズに導入され、表示形式が変更されました。
12.1(2)T	このコマンドが Cisco IOS リリース 12.1(2)T に統合されました。
12.3(14)T	コマンドが変更されました。コマンド出力が拡張され、NM-HDV ネットワークモジュール TI-549 DSP に関するステータス情報が表示されるようになりました。
12.4(4)T	コマンドが変更されました。コマンド出力が拡張され、モデムリレー動作のコーデック設定が表示されるようになりました。
12.4(4)XC	コマンドが変更されました。キーワード <b>version</b> が追加され、このコマンドが Cisco AS5350XM および Cisco AS5400XM の各プラットフォームに導入されました。
12.4(11)T	コマンドが変更されました。コマンド出力が拡張され、DSPH.320 チャンネルに関する情報が表示されるようになりました。
Cisco IOS XE リリース 2.5	このコマンドが、Cisco IOS XE リリース 2.5 に統合されました。
Cisco IOS XE リリース 3.2S	このコマンドが Cisco ASR 1000 シリーズルータに導入されました。
Cisco IOS XE リリース 3.3.0S	Cisco ASR 1000 シリーズルータの SPA-DSP における <b>show voice dsp group all</b> コマンド出力が変更されました。

**使用上のガイドライン** このコマンドは、DSP 音声チャンネルで異常動作が発生した場合に使用します。コマンドの実行時に、単一または複数のチャンネルでアクティブな音声コールが行われている必要があります。

### Cisco ASR 1000 シリーズ ルータ

Cisco IOS XE リリース 3.3.0s では、SPA-DSP のコールリカバリ実行時に **show voice dsp group all** コマンドで表示される出力が拡張されています。このコマンド出力は、数ミリ秒間のコールリカバリプロセス中にのみ表示されます。コマンド出力に含まれる追加情報は、HA State : DSP\_HA\_STATE\_PENDING1 に関連するものです。SPA-DSP のコールリカバリ実行時には、追加情報が表示されます。

### 例

次の出力例は、HA State : DSP\_HA\_STATE\_PENDING1 がどのように追加されるかを示しています。この追加のコマンド出力は、Cisco IOS XE リリース 3.3.0S 以降のリリースでのみ表示されます。

```
Router# show voice dsp group all
Show DSP group all

DSP groups on slot 0 bay 0:
dsp 1:
  State: UP
  HA State : DSP_HA_STATE_PENDING1
  Max signal/voice channel: 43/43
  Max credits: 645
  num_of_sig_chnls_allocated: 43
  Transcoding channels allocated: 43
  Group: FLEX_GROUP_XCODE, complexity: LOW
  Shared credits: 0, reserved credits: 645
  Transcoding channels allocated: 24
  Credits used (rounded-up): 360
```

次の出力例は、チャンネル 1 でモデムリレー用に設定されたコーデックの現在のステータスを示しています。

```
Router# show voice dsp
-----FLEX VOICE CARD 1 -----
          *DSP VOICE CHANNELS*
DSP   DSP           DSPWARE CURR  BOOT           PAK   TX/RX
TYPE  NUM CH CODEC   VERSION STATE STATE   RST AI VOICEPORT TS ABRT PACK COUNT
=====
C5510 001 01 modem-re 4.5.909 busy  idle       0 0 1/1/0    05   0    298/353
          *DSP SIGNALING CHANNELS*
DSP   DSP           DSPWARE CURR  BOOT           PAK   TX/RX
TYPE  NUM CH CODEC   VERSION STATE STATE   RST AI VOICEPORT TS ABRT PACK COUNT
=====
C5510 001 05 {flex}  4.5.909 alloc idle       0 0 1/1/3    02   0         15/0
C5510 001 06 {flex}  4.5.909 alloc idle       0 0 1/1/2    02   0         17/0
C5510 001 07 {flex}  4.5.909 alloc idle       0 0 1/1/1    06   0         31/0
C5510 001 08 {flex}  4.5.909 alloc idle       0 0 1/1/0    06   0        321/0
-----END OF FLEX VOICE CARD 1 -----
```

次の出力例は、すべての DSP 音声チャンネルの現在のステータスを示しています。

```
Router# show voice dsp
DSP# 0, channel# 0 G729A BUSY
DSP# 0, channel# 1 G729A BUSY
DSP# 1, channel# 2 FAX IDLE
```

```
DSP# 1, channel# 3 FAX IDLE
DSP# 2, channel# 4 NONE BAD
DSP# 2, channel# 5 NONE BAD
DSP# 3, channel# 6 NONE BAD
DSP# 3, channel# 7 NONE BAD
DSP# 4, channel# 8 NONE BAD
DSP# 4, channel# 9 NONE BAD
DSP# 5, channel# 10 NONE BAD
DSP# 5, channel# 11 NONE BAD
```

次に、Cisco 1750 ルータにこのコマンドを実行した場合の出力例を示します。

```
Router# show voice dsp
DSP#0: state IN SERVICE, 2 channels allocated
channel#0: voice port 1/0, codec G711 ulaw, state UP
channel#1: voice port 1/1, codec G711 ulaw, state UP
DSP#1: state IN SERVICE, 2 channels allocated
channel#0: voice port 2/0, codec G711 ulaw, state UP
channel#1: voice port 2/1, codec G711 ulaw, state UP
DSP#2: state RESET, 0 channels allocated
```

次に、NM-HDV ネットワークモジュールおよびTI-549 (C549) DSPが搭載されているセキュアな Survivable Remote Site Telephony (SRST) ルータにこのコマンドを実行した場合の出力例を示します。

```
Router# show voice dsp
DSP DSP      DSPWARE  CURR  BOOT
TYPE NUM CH CODEC  VERSION STATE STATE  RST AI VOICEPORT TS  PAK  TX/RX
=====
C549 1 01 {medium} 4.4.3 IDLE idle 0 0 1/0:0 1 0 9357/9775
C549 1 02 {medium} 4.4.3 IDLE idle 0 1/0:0 2 0 0/0
C549 2 01 {medium} 4.4.3 IDLE idle 0 0 1/0:0 3 0 0/0
C549 2 02 {medium} 4.4.3 IDLE idle 0 1/0:0 4 0 0/0
C549 3 01 {medium} 4.4.3 IDLE idle 0 0 1/0:0 5 0 0/13
C549 3 02 {medium} 4.4.3 IDLE idle 0 1/0:0 6 0 0/13
```

次に、ビデオサポート用に設定された H.320 ネットワークにこのコマンドを実行した場合の出力例を示します。

```
Router# show voice dsp
DSP DSP      DSPWARE  CURR  BOOT
TYPE NUM CH CODEC  VERSION STATE STATE  RST AI VOICEPORT TS  PAK  TX/RX
=====
001 01 g711ulaw 0.1 IDLE 50/0/1.1 edsp 002 02 g711ulaw 0.1 IDLE 50/0/1.2 edsp 003
01 g729r8 p 0.1 IDLE 50/0/2.1 -----FLEX VOICE CARD 1
-----
          *DSP VOICE CHANNELS*
DSP DSP      DSPWARE  CURR  BOOT
TYPE NUM CH CODEC  VERSION STATE STATE  RST AI VOICEPORT TS  PAK  TX/RX
=====
C5510 001 05 None 9.0.105 idle idle 0 0 0 0 0/0
C5510 001 06 None 9.0.105 idle idle 0 0 0 0 0/0
C5510 001 07 None 9.0.105 idle idle 0 0 0 0 0/0
C5510 001 08 None 9.0.105 idle idle 0 0 0 0 0/0
C5510 001 09 None 9.0.105 idle idle 0 0 0 0 0/0
C5510 001 10 None 9.0.105 idle idle 0 0 0 0 0/0
C5510 001 11 None 9.0.105 idle idle 0 0 0 0 0/0
C5510 001 12 None 9.0.105 idle idle 0 0 0 0 0/0
C5510 001 13 None 9.0.105 idle idle 0 0 0 0 0/0
C5510 001 14 None 9.0.105 idle idle 0 0 0 0 0/0
```

```

C5510 001 15 None      9.0.105 idle  idle      0 0      0      0/0
C5510 001 16 None      9.0.105 idle  idle      0 0      0      0/0
C5510 003 01 None      9.0.105 idle  idle      0 0      0      0/0
C5510 003 02 None      9.0.105 idle  idle      0 0      0      0/0
C5510 003 03 None      9.0.105 idle  idle      0 0      0      0/0
C5510 003 04 None      9.0.105 idle  idle      0 0      0      0/0
C5510 003 05 None      9.0.105 idle  idle      0 0      0      0/0
C5510 003 06 None      9.0.105 idle  idle      0 0      0      0/0
C5510 003 07 None      9.0.105 idle  idle      0 0      0      0/0
C5510 003 08 None      9.0.105 idle  idle      0 0      0      0/0
C5510 003 09 None      9.0.105 idle  idle      0 0      0      0/0
C5510 003 10 None      9.0.105 idle  idle      0 0      0      0/0
C5510 003 11 None      9.0.105 idle  idle      0 0      0      0/0
C5510 003 12 None      9.0.105 idle  idle      0 0      0      0/0
C5510 003 13 None      9.0.105 idle  idle      0 0      0      0/0
C5510 003 14 None      9.0.105 idle  idle      0 0      0      0/0
C5510 003 15 None      9.0.105 idle  idle      0 0      0      0/0
C5510 003 16 None      9.0.105 idle  idle      0 0      0      0/0
*DSP H.320 CHANNELS*
DSP   DSP   TX/RX   DSPWARE CURR   PAK   TX/RX
TYPE  NUM  CH   CODEC   VERSION STATE VOICEPORT TS  ABRT  PACK COUNT
=====
C5510 001 01  h320p(01)  9.0.105 busy  1/0/0:15 06
      001 02  h320s(02)  9.0.105 busy  1/0/0:15 07
      001 03  h320s(03)  9.0.105 busy  1/0/0:15 08
      001 04  h320s(04)  9.0.105 busy  1/0/0:15 09
      001 01a g711ulaw   9.0.105 busy                0 1013663/5083
                                   00
      001 01v h263 /h263  9.0.105 busy                0 104908/30911
                                   4
-----END OF FLEX VOICE CARD 1 -----

```

次の表で、この出力で表示される重要なフィールドについて説明します。

表 19: show voice dsp のフィールドの説明

フィールド	説明
DSP	DSP 番号。
channel	チャンネルの番号とステータス。
DSP TYPE	TI-549 (C549) DSP。
DSP NUM	DSP 番号。
CH	チャンネル番号。
CODEC	複雑性の設定。
DSPWARE VERSION	DSPware のバージョン。
CURR STATE	当該チャンネルの現在のステータスが、alloc (割り当て済み)、busy (ビジー)、または idle (アイドル) で表示されます。
BOOT STATE	DSP の準備状況 (アイドル状態またはサービス中)。
RST	DSP がリセットまたは再起動した回数。

フィールド	説明
AI	当該チャンネルのアラーム表示カウント。
VOICEPORT	ボイスカードの番号とスロット。
TS	タイムスロット。
PAK ABORT	ドロップされたパケット数。
TX/RX PACK COUNT	送受信されたパケット数。

### Cisco ASR 1000 シリーズ ルータ

次の出力例は、Cisco ASR 1000 シリーズ ルータ内 SPA-DSP で実行中の各チャンネルの DSP タイプ、DSP 番号、チャンネル番号、実行中のコーデック、DSP ファームウェアバージョンおよび現在の状態を示しています。

```
Router# show voice dsp
```

```
----- SPA-DSP 1/1 -----
*DSP INFORMATION*
DSP      DSP      DSPWARE CURR
TYPE    NUM CH CODEC  VERSION STATE RST AI
===== == == =====
SP2600 001   None   26.07.00 up    4  0
SP2600 002   None   26.07.00 up    3  0
SP2600 003   None   26.07.00 up    3  0
SP2600 004   None   26.07.00 up    1  0
SP2600 005   None   26.07.00 up    1  0
SP2600 006   None   26.07.00 up    1  0
SP2600 007   None   26.07.00 up    1  0
SP2600 008   None   26.07.00 up    1  0
SP2600 009   None   26.07.00 up    1  0
SP2600 010   None   26.07.00 up    1  0
SP2600 011   None   26.07.00 up    1  0
SP2600 012   None   26.07.00 up    1  0
SP2600 013   None   26.07.00 up    1  0
SP2600 014   None   26.07.00 up    1  0
SP2600 015   None   26.07.00 up    1  0
SP2600 016   None   26.07.00 up    1  0
SP2600 017   None   26.07.00 up    1  0
SP2600 018   None   26.07.00 up    1  0
SP2600 019   None   26.07.00 up    1  0
SP2600 020   None   26.07.00 up    1  0
SP2600 021   None   26.07.00 up    1  0
----- END OF SPA-DSP 1/1 -----
```

次の出力は、Cisco ASR 1000 シリーズ ルータのスロット 1 に設置されている SPA-DSP のアクティブチャンネルを示しています。

```
Router# show voice dsp active slot 1
```

```
----- SPA-DSP 1/1 -----
*DSP VOICE CHANNELS*
DSP      DSP      DSPWARE CURR
TYPE    NUM CH CODEC  VERSION STATE RST AI
```

```

=====
SP2600 001 01 g711ulaw 26.07.00 busy 4 0
SP2600 002 01 g711ulaw 26.07.00 busy 3 0
----- END OF SPA-DSP 1/1 -----

```

次の例は、Cisco ASR 1000 シリーズルータ上のさまざまなタイプのコーデックが持つチャンネル機能を示しています。

```

Router# show voice dsp capabilities slot 1
Card 1/1 DSP 1 Capabilities:
DSP Type: SP2600 - 43
  Credits 645 , G711Credits 15, HC Credits 37, MC Credits 23,
  FC Channel 43, HC Channel 17, MC Channel 28,
  Conference 8-party credits:
    G711 58 , G729 107, G722 129, ILBC 215
  Secure Credits:
    Sec LC Xcode 24, Sec HC Xcode 64,
    Sec MC Xcode 35, Sec G729 conf 161,
    Sec G722 conf 215, Sec ILBC conf 322,
    Sec G711 conf 92 ,
  Max Conference Parties per DSP:
    G711 88, G729 48, G722 40, ILBC 24,
    Sec G711 56, Sec G729 32,
    Sec G722 24 Sec ILBC 16,
  Voice Channels:
    g711perdsp = 43, g726perdsp = 28, g729perdsp = 17, g729aperdsp = 28,
    g723perdsp = 17, g728perdsp = 17, g723perdsp = 17, gsmperdsp = 28,
    gsmefrperdsp = 17, gsmamrnbperdsp = 17,
    ilbcperdsp = 17, isacperdsp = 8 modemrelayperdsp = 17,
    g72264Perdsp = 28, h324perdsp = 17,
    m_f_thruperdsp = 43, faxrelayperdsp = 28,
    maxchperdsp = 43, minchperdsp = 17,
    srtp_maxchperdsp = 27, srtp_minchperdsp = 14, faxrelay_srtp_perdsp =
4,
    g711_srtp_perdsp = 27, g729_srtp_perdsp = 14, g729a_srtp_perdsp = 24,-----

```

次の例は、Cisco ASR 1000 シリーズルータ上の DSP エラーに関する詳細を示しています。



- (注) SPA-DSP のクラッシュダンプを表示するには、クラッシュダンプの詳細を有効にする必要があります。クラッシュダンプを有効にするには、クラッシュダンプファイルの宛先を有効なファイル名に設定し、ファイル制限をゼロ以外の数に設定します。

```

Router#show voice dsp crash-dump

Voice DSP Crash-dump status:
  Destination file url is <none>
  File limit is 0
DSP crash dump is currently disabled
To enable DSP crash dump, set file-limit to a non-zero number and set
destination to a valid file name

```

#### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>dsp services dspfarm</b>	DSP ファームサービスを有効化します。

コマンド	説明
<b>dspfarm profile</b>	DSP ファームプロファイルコンフィギュレーションモードを開始し、DSP ファームサービス用のプロファイルを定義します。
show dspfarm	動作ステータスや、トランスコーディング用 DSP リソースの割り当てなどの DSP ファームサービス情報を表示します。

## show voice dsp channel

音声デジタルシグナルプロセッサ（DSP）チャンネルを表示するには、ユーザー EXEC モードまたは特権 EXEC モードで **show voice dsp channel** コマンドを使用します。

```
show voice dsp channel {operational-status {slot | /dsp | /channel} [{slot | /dsp | /channel}]} |
statistics slot-number [slot-number] | traffic slot-number [slot-number]}
```

構文の説明	
<b>operational-status</b>	特定チャンネルまたは特定範囲のチャンネルにおけるアクティブセッションの動作状態を表示します。
<i>slot</i>	単一スロットまたは範囲内の最初のスロット。スロットの範囲を指定するには、 <b>second slot in the syntax of this argument. The second slot specifies the end of the range.</b> を指定します。指定した範囲内のすべてのスロットが、このコマンドの影響を受けます。
<i>/ dsp</i>	指定したスロット上の単一 DSP または範囲内の最初の DSP。DSP の範囲を指定するには、 <b>second DSP in the syntax of this argument. The second DSP specifies the end of the range.</b> を入力できます。指定した範囲内のすべてのスロットが、このコマンドの影響を受けます。スラッシュ記号が必要です。
<i>/ channel</i>	<b>A single DSP channel or the first DSP channel in a range. The second occurrence of this argument specifies either a single DSP channel or the last DSP channel in a range.</b> スラッシュ記号が必要です。
<b>statistics</b>	特定チャンネルまたは特定範囲のチャンネルの DSP 統計を表示します。
<i>slot-number</i>	単一スロットまたは範囲内の最初のスロット。スロットの範囲を指定するには、 <b>second slot in the syntax of this argument. The second slot specifies the end of the range.</b> を指定します。指定した範囲内のすべてのスロットが、このコマンドの影響を受けます。
<b>traffic</b>	特定のチャンネルまたは特定範囲のチャンネルにおけるトラフィックを表示します。

コマンドモード ユーザー EXEC (>) 特権 EXEC (#)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.4(4)XC	このコマンドが、Cisco AS5350XM および Cisco AS5400XM の各プラットフォームに導入されました。
	12.4(11)T	コマンドが変更されました。コマンド出力が拡張され、DSP H.320 チャンネルに関する情報が表示されるようになりました。

**使用上のガイドライン** このコマンドは、DSP 音声チャンネルで異常動作が発生した場合に使用します。コマンドの実行時に、単一または複数のチャンネルでアクティブな音声コールが行われている必要があります。

**例**

次に、スロット 3/13/1 に対して **show voice dsp channel operational-status** コマンドを実行した場合の出力例を示します。

```
Router# show voice dsp channel operational-status 3/13/1
Operational status of Slot/DSP/Channel : 3/13/1
Servicetype : VOICE
Codec Type : gsmamr-nb
Encapsulation : RTP
Transmitted Packets : 346
Transmitted Bytes : 11740
Received Packets : 411
Received Bytes : 11142
Playout de-jitter mode : None
Playout de-jitter buffer minimum delay : 0 msec
Playout de-jitter buffer initial delay : 0 msec
Playout de-jitter buffer maximum delay : 0 msec
Noise level : -5.0
ERLLevel : 6
ACOMLevel : 6
CodecPktPeriod=20 Milliseconds
CodecFrameFormat=bandwidth-efficient
CodecCrc=Disabled
CodecModes=3,6
CodecEncodeRate=6
CodecDecodeRate=6
CodecEncodeChanges=1
CodecDecodeChanges=0
CodecCrcFails=0
CodecBadFrameQuality=0
CodecInvalidCMRs=0
CodecInvalidFrameType=0
Voice activity detection : Enabled
Dtmf Relay : inband-voice
ComfortNoisePak : 52
TxVoiceDuration : 11560
VoiceRxDuration : 3380
Rx OutOfSeq Paks : 0
Rx Late Paks : 0
Rx Early Paks : 0
Lost Packets : 0
Playout Delay Current : 50
Playout Delay Min : 50
Playout Delay Max : 50
Playout Delay ClockOffset : 80
Playout Delay Jitter : 0
Error Rx Drop : 0
Error Tx Drop : 0
Error Tx Control : 0
Error Rx Control : 0
Playout Error Predictive : 0
Playout Error Interpolative : 0
Playout Error Silence : 0
Playout Error BufferOverflow : 0
Playout Error Retroactive : 0
Playout Error Talkspurt : 0
```

次の表で、この出力に表示される重要なフィールドを説明します。

表 20: *show voice dsp channel* のフィールドの説明

フィールド	説明
DSP	DSP 番号。
Channel	チャンネルの番号とステータス。
Codec Type	複雑性の設定。
TxVoiceDuration	送信された音声の長さ。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show voice dsp</b>	DSP 音声チャンネルの現在のステータスまたは選択的統計を表示します。

## show voice dsp crash-dump

音声デジタルシグナルプロセッサ (DSP) のクラッシュダンプ情報を表示するには、特権EXEC コンフィギュレーションモードで **show voice dsp crash-dump** コマンドを使用します。

### show voice dsp crash-dump

#### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

#### コマンドモード

特権 EXEC (#)

#### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.3(4)T	このコマンドが導入されました。

#### 例

次の例では、現在の設定を確認したものです。

```
Router# show voice dsp crash-dump
Voice DSP Crash-dump status:
  Destination file url is slot0:banjo-152-s
  File limit is 20
  Last DSP dump file written was
    tftp://112.29.248.12/tester/26-152-t2
  Next DSP dump file written will be slot0:banjo-152-s1
```

次の例は、クラッシュダンプ機能が有効になっていることを示しています。

```
Router# show voice dsp crash-dump
Voice DSP Crash-dump status:
  Destination file url is
    tftp://172.29.248.12/xxtir/dspdump6.bin
  File limit is 10
  Last DSP dump file written was
    tftp://172.29.248.12/xxtir/dspdump6.bin1
  Next DSP dump file written will be
    tftp://172.29.248.12/xxtir/dspdump6.bin2
```

次の例は、クラッシュダンプ機能が無効になっていることを示しています。

```
Router# show voice dsp crash-dump
Voice DSP Crash-dump status:
  Destination file url is
    tftp://172.29.248.12/xxtir/dspdump6.bin
  File limit is 0
  Last DSP dump file written was
    tftp://172.29.248.12/xxtir/dspdump6.bin1
DSP crash dump is currently disabled
To enable DSP crash dump, set file-limit to a non-zero number
```

フィールドの説明は自明のため省略します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>debug voice dsp crash-dump</b>	クラッシュダンプのデバッグ情報を表示します。
<b>voice dsp crash-dump</b>	クラッシュダンプ機能を有効にして、宛先ファイルおよびファイル制限を指定します。

## show voice dsp summary

デジタルシグナルプロセッサ (DSP) の要約情報を表示するには、ユーザー EXEC モードまたは特権 EXEC モードで **show voice dsp summary** コマンドを使用します。

**show voice dsp summary** [*slot* | *slot/dsp*] [*slot* | *slot/dsp*]

構文の説明	
<i>slot</i>	(任意) 単一スロット、または範囲内の最初のスロット。スロットの範囲を指定するには、 <b>second slot in the syntax of this argument. The second slot specifies the end of the range.</b> を指定します。指定した範囲内のすべてのスロットが、このコマンドの影響を受けます。
<i>/ dsp</i>	(任意) 指定したスロット上の単一 DSP または範囲内の最初の DSP。DSP の範囲を指定するには、 <b>second DSP in the syntax of this argument. The second DSP specifies the end of the range.</b> を入力できます。指定した範囲内のすべてのスロットが、このコマンドの影響を受けます。スラッシュ記号が必要です。

コマンドモード ユーザー EXEC (>) 特権 EXEC (#)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.4(4)XC	このコマンドが導入されました。このコマンドが、Cisco AS5350XM および Cisco AS5400XM の各プラットフォームに導入されました。
	12.4(11)T	コマンドが変更されました。コマンド出力が拡張され、DSP H.320 チャンネルに関する情報が表示されるようになりました。
	12.4(19)	コマンドが変更されました。コマンド出力が変更され、T.38 コールの「コーデックタイプ」が「ファクス」ではなく「音声」として正確に表示されるようになりました。
	12.4(18a)	コマンドが変更されました。コマンド出力が変更され、T.38 コールの「コーデックタイプ」が「ファクス」ではなく「音声」として正確に表示されるようになりました。
	12.4(13f)	コマンドが変更されました。コマンド出力が変更され、T.38 コールの「コーデックタイプ」が「ファクス」ではなく「音声」として正確に表示されるようになりました。
	12.4(15)T5	コマンドが変更されました。コマンド出力が変更され、T.38 コールの「コーデックタイプ」が「ファクス」ではなく「音声」として正確に表示されるようになりました。

### 例

次に、**show voice dsp summary** コマンドで DSP の要約情報を表示した出力例を示します。

```

Router# show voice dsp summary
Total number of DSPs = 48

Codectype      Calls      Codectype      Calls      Codectype      Calls
g729r8 pre-ietf  0      g729ar8        0      g726r16        0
g726r24        0      g726r32        0      g711ulaw       0
g711alaw       1      g728           0      g723r63        0
g723r53        0      gsmfr          0      gsmefr         0
g729br8        0      g729abr8       0      g723ar63       0
g723ar53       0      g729r8        0      t38            0
clear-channel  0      vofr cisco     0      llcc           0
g726r40        0      transparent    0      modem-relay    0
cisco          0      pass-through   0
pass-through   0      gsmamr-nb     0

Legend      :
=====
Channel state: (s)shutdown (a)active call (d)download pending
                (b)busiedout (B)bad (p)busyout pending
Call type    : (v)voice (f)fax-relay ( )not in use

Summary      :
=====
Channels    : Total 768 In-Use 001
Calls       : Total 001 Voice 001 Fax 000
              : Free 713 Disabled 000

      DSP      DSP      DSP      Channel      Call
DSP#  State    Complexity Resets State          Type
2/1   ACTIVE   FLEXI     0      _____
2/2   ACTIVE   FLEXI     0      _____
2/3   ACTIVE   FLEXI     0      _____
2/4   ACTIVE   FLEXI     0      _____
2/5   ACTIVE   FLEXI     0      _____
2/6   ACTIVE   FLEXI     0      _____

```

次の表で、この出力に表示される重要なフィールドを説明します。

表 21 : show voice dsp summary のフィールドの説明

フィールド	説明
DSP	DSP 番号。
Codectype	複雑性の設定。
Channels	チャンネルの番号とステータス。
状態	コールのステータス。

#### 関連コマンド

コマンド	説明
show voice dsp	DSP 音声チャンネルの現在のステータスまたは選択的統計を表示します。

## show voice eddri prefix

イベントディスパッチャおよびデータ リポジトリ インターフェイス (EDDRI) に適用可能なプレフィックスを表示するには、特権 EXEC モードで `show voice eddri prefix` コマンドを使用します。

`show voice eddri prefix [prefix_number]`

構文の説明	<b>all</b>	すべてのネイバー
	<i>prefix_number</i>	(任意) 特定の EDDRI プレフィックス。

コマンド デフォルト      デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード          特権 EXEC (#)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.3(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン      プレフィックスを指定しなかった場合、設定済みのプレフィックスがすべて表示されます。

EDDRI は、一部のサブシステムで属性が変更されるたびにスレッド `grep` (TGREP) に通知します。EDDRI は、ダイヤルピアサブシステム、トランク グループ サブシステム、呼制御 API (CCAPI) サブシステムおよび顧客関係管理 (CRM) サブシステムと通信して、特定の属性の変更を通知します。EDDRI は、プレフィックスデータベースの作成する役割を担います。

### 例

次に、`voice eddri prefix` コマンドの出力例を示します。

```
prefix 4 address family decimal
advertise flag 0x27 ac 24 tc 24 capacity timer 25 sec
AC_avg 24, FD_avg 0, SD_avg 0
succ_curr 0 tot_curr 0
succ_report 0 tot_report 0
changed 0 replacement position 0
trunk group castg2
dial peer tag 1001
```

フィールドの説明は自明のため省略します。

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>debug voip eddri</b>	EDDRI のデバッグをオンにします。

## show voice emergency locations

E911 サービスの緊急応答ロケーション (ERL) を表示するには、特権 EXEC モードで **show voice emergency locations** コマンドを使用します。

### show voice emergency locations

#### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

#### コマンドモード

特権 EXEC (#)

#### コマンド履歴

リリース	変更内容
IOS XE Fuji リリース 16.8.1	このコマンドが導入されました。

#### 使用上のガイドライン

このコマンドを使用すると、緊急救助隊が 911 の発信者を迅速に特定するためのエリア識別用 ERL を表示します。このコマンドでは、ゾーン、デバイス、およびインターフェイス別の ERL 割り当てが表示されます。

#### 例

次に、表示されるゾーン、デバイス、およびインターフェイス別の ERL 割り当ての例を示します。

```
Router# show voice emergency locations
ERL ASSIGNMENT BY ZONE
DIAL-PEER    ZONE
=====
911          10

ERL ASSIGNMENT BY DEVICE AND INTERFACES
ERL          DEVICE
=====
12           dial-peer 100
```

#### 関連コマンド

<b>voice emergency response</b>	E911 サービス用の緊急応答ロケーション、ゾーンおよび各種設定を構成します。
---------------------------------	---

## show voice enum-match-table

ENUM マッチテーブルのルールを表示するには、特権 EXEC モードで **show voice enum-match-table** コマンドを使用します。

**show voice enum-match-table** [*table-number* [*sort*]]

構文の説明	<i>table-number</i>	(任意) 表示する ENUM マッチテーブルの番号。範囲は 1 ~ 15 です。
	<b>sort</b>	(任意) 出力をテーブル番号の昇順でソートします。

コマンドモード 特権 EXEC (#)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(11)T	このコマンドが導入されました。

**使用上のガイドライン** このコマンドを使用すると、ENUM マッチテーブルのルールを定義された順序で表示できます。sort キーワードを使用すると表示順序が変更され、優先順位の低い順にルールが一覧表示されます。

**例** 次の出力例は、ENUM マッチテーブル 3 番のルールを表示したものです。

```
Router# show voice enum-match-table 3
voice enum_match_table 3
rule 1 5 /^9\(.*\)/ /\1/ cisco
rule 2 4 /^9011\(.*\)/ /\1/ arpa
rule 10 1 /^(.*)/ /\1/ e164.cisco.com
```

次の出力例は、ENUM マッチテーブルをテーブル番号順に昇順で表示したものです。

```
Router# show voice enum-match-table
voice enum-match-table 3
rule 1 5 /^9\(.*\)/ /\1/ cisco
rule 2 4 /^9011\(.*\)/ /\1/ arpa
rule 10 1 /^(.*)/ /\1/ e164.cisco.com
voice enum-match-table 5
rule 2 4 /^9011\(.*\)/ /\1/ arpa
rule 10 1 /^(.*)/ /\1/ e164.cisco.com
```

フィールドの説明は自明のため省略します。

関連コマンド	コマンド	説明
	rule (ENUM configuration)	ENUM のルールを定義します。
	test enum	ENUM のルールを検証します。

コマンド	説明
voice enum-match-table	音声 ENUM マッチテーブルの定義づけを開始します。

## show voice hpi capture

キャプチャのステータスと統計情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show voice hpi capture** コマンドを使用します。

### show voice hpi capture

#### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

#### コマンドモード

特権 EXEC (#)

#### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(10)	このコマンドが導入されました。
12.2(11)T	このコマンドが Cisco IOS リリース 12.2(11)T に統合されました。

#### 使用上のガイドライン

このコマンドは、キャプチャのステータスと統計情報を表示します。このコマンドを使用すると、ロガーのステータス、およびロガー実行中のロガーのステータス出力を確認できます。



#### 注意

実稼働ネットワーク環境でメッセージロガー機能を使用すると、ゲートウェイの CPU 使用量およびメモリ使用量が増加します。



#### (注)

特定の音声コールで問題が発生している場合、シスコのエンジニアリングチームから、音声 DSP ロガーを使用して制御メッセージをキャプチャして頂くようお願いする場合があります。この制御メッセージをキャプチャするには、ロガーをオンにしてから問題のあるコールを繰り返し、ログをキャプチャしてください。詳細確認のためにログの送信が必要かどうかを判断できるのは、シスコのエンジニアのみです。

#### 例

次の出力例は、キャプチャの統計（HPI キャプチャとロギング）およびステータスを表示したものです。

```
Router# show voice hpi capture
HPI Capture is on and is logging to URL ftp://172.23.184.216/d:\test_data.dat1 messages
sent to URL, 0 messages droppedMessage Buffer (total:inuse:free) 2134:0000:2134Buffer
Memory:699952 bytes, Message size:328 bytes
```

フィールドの説明は自明のため省略します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>debug hpi</b>	HPI メッセージイベントのデバッグを有効にします。
<b>voice hpi capture</b>	ホストポートインターフェイス (HPI) のキャプチャバッファ (バイト単位でサイズ指定) を割り当て、キャプチャされたデータの宛先 URL を設定または変更します。

## show voice iec description

内部エラーコード (IEC) の説明を表示するには、ユーザー EXEC モードで `show voice iec description` コマンドを使用します。

### show voice iec description string

構文の説明	<i>string</i>	内部エラーコードの定義を示す、6部から成るドット付き10進数文字列。
コマンド デフォルト	デフォルトの動作や値はありません。	
コマンド モード	ユーザー EXEC	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.3(4)T	このコマンドが導入されました。

### 例

次の例で、IEC の説明を示します。

```
Router# show voice iec description 1.1.180.2.21.4
IEC Version: 1
Entity: 1 (Gateway)
Category: 180 (Software error)
Subsystem: 2 (TCL IVR)
Error: 21 (Script syntax)
Diagnostic Code: 4
```

下の表は、このコマンド出力で表示される重要なフィールドについて説明したものです。

表 22: `show voice iec description` のフィールドの説明

フィールド	説明
IEC version	IEC バージョン。値が1である場合は、Cisco IOS リリース 12.3(4)T バージョンを示します。
Entity	当該 IEC を生成したネットワーク物理エンティティ (ハードウェアシステム)。ゲートウェイには値 1 が割り当てられます。
Category	ITU に準拠した Q.850 原因コードおよび VoIP ネットワークエラーに基づいて定義されたエラーカテゴリ。
Subsystem	IEC が生成された物理エンティティ内の特定サブシステム。
Error Code	当該サブシステム内のエラーコード。

フィールド	説明
Diagnostic Code	シスコ内部診断の数値。この数値をシスコテクニカルサポートに報告してください。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show voice statistics iec</b>	IECの統計を表示します。

## show voice lmr

Land Mobile Radio (LMR) ポートまたは DS0 グループの LMR に関連する動的情報および静的情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show voice lmr** コマンドを使用します。

**show voice lmr** [*{slot/subunit/port | slot/port:ds0-group}*] [**{details | timing** [**{warnings}**]]

構文の説明	
<i>slot/subunit/port</i>	<p>(任意) <i>slot/subunit/port</i> で指定する音声ポート。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>slot</i> では、音声ネットワークモジュール (NM) が取り付けられているルータスロットを指定します。有効なエントリは、特定プラットフォームのルータスロット番号です。</li> <li>• <i>subunit</i> では、音声ポートが配置されている音声インターフェイスカード (VIC) を指定します。有効なエントリは 0 および 1 です。</li> <li>• <i>port</i> では、アナログ音声ポート番号を指定します。有効なエントリは 0 および 1 です。</li> </ul> <p>スラッシュ記号は必須です。</p>
<i>slot/port : ds0-group</i>	<p>(任意) <i>slot/port : ds0-group</i> で指定する音声ポート。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>slot</i> では、パケット音声 NM が取り付けられているルータスロットを指定します。有効なエントリは、特定プラットフォームのルータスロット番号です。</li> <li>• <i>port</i> では、音声 WAN インターフェイスカード (VWIC) の T1 または E1 物理ポートを指定します。有効なエントリは 0 および 1 です。</li> <li>• <i>ds0-group</i> では、T1 または E1 論理ポート番号を指定します。T1 の入力範囲は 0 ~ 23 です。E1 の入力範囲は 0 ~ 30 です。</li> </ul> <p>コロン記号は必須です。</p>
<b>details</b>	(任意) 詳細情報を表示します。このキーワードを省略すると、簡易情報が表示されます。
<b>timing</b>	(任意) すべての LMR ポートのタイミング設定を表示します。
<b>warnings</b>	(任意) 不審なタイミングが設定されているすべての LMR ポートを表示します。

### コマンドモード

特権 EXEC (#)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.3(4)XD	このコマンドが導入されました。

リリース	変更内容
12.3(7)T	このコマンドが、Cisco IOS リリース 12.3(7)T に統合されました。
12.4(24)T	Cisco IOS リリース 12.4(24)T よりも前のリリースにおいて、このコマンドが変更されました。キーワード <b>timing</b> および <b>warnings</b> が追加されました。

### 使用上のガイドライン

このコマンドは、LMR 音声ポートの情報のみを表示します。音声ポートを指定しなかった場合、このコマンドではすべての Ear and Mouth (E&M) LMR 音声ポートの情報が表示されます。

**details** キーワードを使用してこの コマンドを実行すると、**show voice port** コマンドおよび **show call active voice** コマンドで見つかった音声ポートとアクティブコールの詳細情報に加えて、タイムアウト、タイマー、および挿入されたトーンと停止に関する情報が表示されます。

### 例

次に、**show voice lmr** コマンドによる Cisco 3745 ルータの E&M LMR アナログ音声ポートに関する出力例を示します。

```
Router# show voice lmr 2/0/0
2/0/0
=====
Connection type: n/a
Out Attenuation = 0 db, In Gain = 0 dB
E-lead capability is inactive, polarity = normal
M-lead capability is inactive, polarity = normal
voice-class tone-signal test
state = LMR_CONNECT, e-lead = off, m-lead = off
full duplex, voice path = rx
Terminating side of the connection
TransmitPackets=113, TransmitBytes=2241
ReceivePackets=113, ReceiveBytes=2241
CoderTypeRate=g729r8
NoiseLevel=-65, ACOMLevel=22
OutSignalLevel=-68, InSignalLevel=-79
RemoteIPAddress=10.5.25.40, RemoteUDPPort=17272
Remote SignallingIPAddress=10.5.25.40, Port=15418
Remote MediaIPAddress=10.5.25.40, Port=17272
RoundTripDelay=2 ms
SessionProtocol=cisco
VAD =enabled
```

次に、**show voice lmr details** コマンドによる Cisco 3745 ルータの E&M LMR アナログ音声ポートに関する出力例を示します。

```
Router# show voice lmr 2/0/0 details
2/0/0
=====
Description:
Connection type: n/a
Out Attenuation = 0 db, In Gain = 0 dB
Timing hangover: 500 ms
E-lead capability is inactive, polarity = normal
M-lead capability is inactive, polarity = normal
Timing hookflash-in: 480
Timing delay-voice: 470 ms
Music On Hold Threshold: -38 dB, Noise Threshold: -62 dB
```

```

E&M type: 1, Operation: 2-wire
Impedance is set to 600r Ohm
lmr tear down timeout is set to 1800 second
lmr PTT transmit timeout is not set
lmr PTT receive timeout is not set
voice-class tone-signal test
    inject tone 1 1950 3 150
    inject tone 2 2000 0 60
    inject pause 3 60
    inject tone 4 2175 3 150
    inject tone 5 1000 0 50
    inject guard-tone 6 1950 -10
state = LMR_CONNECT, e-lead = off, m-lead = off
full duplex, voice path = rx
Terminating side of the connection
TransmitPackets=113, TransmitBytes=2241
ReceivePackets=113, ReceiveBytes=2241
CoderTypeRate=g729r8
NoiseLevel=-66, ACOMLevel=22
OutSignalLevel=-68, InSignalLevel=-79
PeerAddress=37200
PeerSubAddress=
PeerId=200
SessionTarget=
RemoteIPAddress=10.5.25.40, RemoteUDPPort=17272
Remote SignallingIPAddress=10.5.25.40, Port=15418
Remote MediaIPAddress=10.5.25.40, Port=17272
RoundTripDelay=0 ms
SessionProtocol=cisco
VAD =enabled
SelectedQoS=best-effort
ProtocolCallId=
SessionTarget=

```

下の表に、このコマンド出力で表示される重要なフィールドの説明を表示順に示します。

表 23: show voice lmr のフィールドの説明

フィールド	説明
Connection type	LMR ルータ間の接続タイプが、private line、automatic ringdown (PLAR)、trunk、または n/a のいずれかで表示されます。
Out Attenuation	出力減衰。
In Gain	入力ゲイン。
E-lead capability	アクティブまたは非アクティブ。
polarity	E&M 音声ポートの極性 (normal または reverse)。
M-lead capability	アクティブまたは非アクティブ。
voice class tone-signal	トーン信号の音声クラス名。
state=	シグナリングの状態。
e-lead =	オンまたはオフ。

フィールド	説明
m-lead =	オンまたはオフ。
full duplex	音声ポートの音声パスは全二重モードで動作しています。
half duplex	音声ポートの音声パスは半二重モードで動作しています。
voice path	送信または受信。
TransmitPackets	当該コール中にこのピアが送信したパケット数。
TransmitBytes	当該コール中にこのピアが送信したバイト数。
ReceivePackets	当該コール中にこのピアが受信したパケット数。
ReceiveBytes	当該コール中にこのピアが受信したバイト数。
CoderTypeRate	ネゴシエート済みのコーダーレート。この値によって、このコールに関連付けられたコールレグへの音声圧縮またはファクス圧縮の送信レートが指定されます。
NoiseLevel	当該コールのアクティブノイズレベル。
ACOMLevel	当該コールの現在の ACOM レベル。ACOM は、エコーキャンセラによって実現される複合損失（つまり、当該コールのエコー反射減衰量、エコー反射減衰量拡張および非線形処理損失の合計）を示します。
OutSignalLevel	当該コールで使用されるテレフォニー インターフェイスへのアクティブな出力信号レベル。
InSignalLevel	このコールで使用されるテレフォニー インターフェイスからのアクティブな入力信号レベル。
RemoteIPAddress	VoIP コールでのリモートシステムの IP アドレス。
RemoteUDPPort	音声パケットの送信先であるリモートシステムの User Datagram Protocol (UDP) リスナーポート。
Remote SignallingIP Address, Port	呼制御サーバーの IP アドレスとシグナリングポート番号。
Remote MediaIP Address, Port	リモート側メディアサーバーの IP アドレスと RTP ポート番号。
RoundTripDelay	当該コールの IP バックボーン上におけるローカルシステムとリモートシステム間での音声パケットのラウンドトリップ遅延。

フィールド	説明
SessionProtocol	IP バックボーンを介したローカルルータとリモートルータ間でのインターネットコールに使用されるセッションプロトコル。
VAD	Voice Activation Detection (VAD) が有効になっているかどうかを示します。
Description	ポートの接続先に関する説明。
Timing hangover	デジタルシグナルプロセッサ (DSP) が音声ストリームの停止を検出してから、Cisco IOS ソフトウェアに対して E リードをオフにするよう指示するまでの遅延時間 (ミリ秒単位)。
Timing hookflash-in	Foreign Exchange Station (FXS) インターフェイスのフックフラッシュの最長持続時間。
Timing delay-voice	音声パケットが再生されるまでの遅延時間。
Music On Hold Threshold	コール保留中に再生される音楽のデシベルレベル。
Noise Threshold	着信コールのノイズしきい値。
E&M type	E&M シグナリングのタイプ。
Operation	2 線運用または 4 線運用。
Impedance	インターフェイスの終端インピーダンス。
lmr tear down timeout	音声ポートが、音声アクティビティがないことを検出してから、LMR 接続を切断するまでの待機時間。
lmr PTT transmit timeout	音声パケット送信の最大時間。
lmr PTT receive timeout	音声パケット受信の最大時間。
inject pause	音声パケットの再生前に挿入される一時停止。
inject tone	音声パケットの再生前に挿入されるトーン。
inject guard-tone	音声パケットで再生されるガードトーン。
PeerAddress	当該ピアに関連付けられた宛先パターンまたは宛先番号。
PeerSubAddress	当該コール接続時のサブアドレス。
PeerId	当該コールの発信先であるピアテーブルエントリの ID 値。
SessionTarget	ダイヤルピアからコールを受信するためのネットワーク固有アドレス。

フィールド	説明
SelectedQoS	当該コールに選択された RSVP Quality of Service (QoS)。
ProtocolCallId	音声シグナリング固有のコール ID。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show call active voice</b>	進行中の音声コールの発信者情報を表示します。
<b>show voice port</b>	特定の音声ポートの設定情報を表示します。

## show voice pcm capture

PCM キャプチャのステータスと統計情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show voice pcm capture** コマンドを使用します。

### show voice pcm capture

#### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

#### コマンドモード

特権 EXEC (#)

#### コマンド履歴

リリース	変更内容
15.2(2)T	このコマンドが導入されました。

#### 使用上のガイドライン

このコマンドは、PCM キャプチャのステータスと統計情報を表示します。このコマンドを使用すると、ログのステータス、およびログ実行中のログのステータス出力を確認できます。

#### 例

次に、**show voice pcm capture** コマンドの出力例を示します。

```
Router# show voice pcm capture
PCM Capture is on and is logging to URL tftp://10.10.1.2/acphan/
50198 messages sent to URL, 0 messages dropped
Message Buffer (total:inuse:free) 200000:0:200000
Buffer Memory: 68000000 bytes, Message size: 340 bytes
```

#### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>voice pcm capture</b>	パルス符号変調 (PCM) キャプチャバッファ数の割り当て、キャプチャデータの宛先 URL の設定または変更、オンデマンド PCM キャプチャの有効化、およびユーザーによる PCM キャプチャトリガー文字列の変更を行います。

## show voice port

特定の音声ポートの設定情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show voice port** コマンドを使用します。

### Cisco 1750 ルータ

**show voice port** *slot/port*

### アナログ音声ポート搭載の Cisco 2600 シリーズおよび Cisco 3600 シリーズ ルータ

**show voice port** [*{slot/subunit/port | summary}*]

### デジタル音声ポート搭載の Cisco 2600 シリーズおよび Cisco 3600 シリーズ ルータ (T1 パケット音声トランク ネットワーク モジュール搭載)

**show voice port** [*{slot/port:ds0-group | summary}*]

### Cisco AS5300 ユニバーサル アクセス サーバー

**show voice port** *controller-number:D*

### Cisco 7200 シリーズ ルータ

**show voice port** *{slot/port:ds0-group-number | slot/subunit/port}*

#### 構文の説明

<b>Cisco 1750 ルータ</b>	
<i>slot</i>	VIC が取り付けられているルータのスロット番号。有効なエント리는 0、1 および 2 で、取り付け先のスロットによって異なります。
<i>/ port</i>	音声ポート。有効なエント리는 0 および 1 です。スラッシュ記号が必要です。
アナログ音声ポート搭載の Cisco 2600 シリーズおよび Cisco 3600 シリーズ ルータ	
<i>slot / subunit / port</i>	<p>(任意) アナログ音声ポートの指定：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>slot</i> -- 音声ネットワークモジュール (VNM) が取り付けられているルータスロット。有効なエント리는、特定プラットフォームのルータスロット番号です。</li> <li>• <i>subunit</i> -- 音声ポートが配置されている音声インターフェイスカード (VIC)。有効なエント리는 0 および 1 です。(VIC は音声ネットワークモジュールに設置します)。スラッシュ記号が必要です。</li> <li>• <i>port</i>-- アナログ音声ポート番号。有効なエント리는 0 および 1 です。スラッシュ記号が必要です。</li> </ul>

<b>Cisco 1750 ルータ</b>	
<b>summary</b>	(任意) すべての音声ポートの要約を表示します。
デジタル音声ポート搭載の Cisco 2600 シリーズおよび Cisco 3600 シリーズ ルータ	(任意) デジタル音声ポートの指定 :  <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>slot</i> -- パケット音声トランク ネットワーク モジュール (NM) が取り付けられているルータスロット。有効なエントリは、特定プラットフォームのルータスロット番号です。</li> <li>• <i>/ port</i> -- 音声 WAN インターフェイスカード (VWIC) の T1 または E1 物理ポート。有効なエントリは 0 および 1 です。(NM 1 つにつき 1 つの VWIC を設置できます。) スラッシュ記号が必要です。</li> <li>• <i>ds0-group</i> -- T1 または E1 論理ポート番号。T1 の入力範囲は 0 ~ 23 です。E1 の入力範囲は 0 ~ 30 です。コロン記号は必須です。</li> </ul>
<i>slot / port : ds0-group</i>	
<b>summary</b>	(任意) すべての音声ポートの要約を表示します。
<b>Cisco AS5300 ユニバーサル アクセス サーバー</b>	
<i>controller-number</i>	T1 または E1 コントローラ。
<b>:D</b>	ISDN PRI に関連付けられた D チャネル。コロン記号は必須です。
<b>Cisco 7200 シリーズ ルータ</b>	
<i>slot</i>	音声ポートアダプタが取り付けられているルータロケーション。範囲は 0 ~ 3 です。
<i>/ port</i>	音声インターフェイスカードの位置。有効なエントリは 0 および 1 です。スラッシュ記号が必要です。
<b>: ds0-group-number</b>	定義された DS0 グループ番号。定義した各 DS0 グループ番号は各音声ポートごとに反映されるため、デジタル T1/E1 カードで個別の DS0 を定義できます。コロン記号は必須です。
<i>slot</i>	VIC が取り付けられている Cisco ルータのスロット番号。取り付けられているスロットに応じて、0 ~ 3 の範囲で指定します。
<i>/ subunit</i>	音声ポートが配置されている VIC のサブユニット。有効なエントリは 0 および 1 です。スラッシュ記号が必要です。

Cisco 1750 ルータ	
/ port	音声ポート番号。有効なエント리는0および1です。スラッシュ記号が必要です。

## コマンドモード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更内容
11.3(1)T	このコマンドが Cisco 3600 シリーズに導入されました。
11.3(1)MA	このコマンドが変更されました。Cisco MC3810 のポート固有の値が追加されました。
12.0(3)T	このコマンドが変更されました。Cisco MC3810 のポート固有の値が追加されました。
12.0(5)XK	このコマンドが変更されました。Cisco 2600 シリーズおよび Cisco 3600 シリーズに引数 <i>ds0-group</i> が追加されました。
12.0(5)XE	このコマンドが変更されました。デジタル音声に DS0 グループ指定用のシンタックスが追加されました。このコマンドは、Cisco 7200 シリーズの VoIP に適用されます。
12.0(7)T	このコマンドが Cisco IOS リリース 12.0(7)T に統合されました。
12.0(7)XK	このコマンドが変更されました。Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズにキーワード <b>summary</b> が追加されました。Cisco MC3810 用に引数 <i>ds0-group</i> が追加されました。
12.1(2)T	このコマンドが Cisco IOS リリース 12.1(2)T に統合されました。
12.2(8)T	このコマンドが変更されました。このコマンドが Cisco IAD2420 シリーズのダイヤルイン方式 (DID) に導入されました。
12.2(2)XN	このコマンドが変更されました。拡張 Media Gateway Control Protocol (MGCP) 音声ゲートウェイの相互運用性のサポートが、Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズおよび Cisco ゲートウェイ 200 (VG200) の Cisco CallManager バージョン 3.1 に追加されました。
12.2(11)T	このコマンドは Cisco IOS リリース 12.2(11)T および Cisco CallManager バージョン 3.2 に統合されました。Cisco IAD2420 シリーズに導入されました。
12.4(11)T	このコマンドが変更されました。このコマンドは拡張され、指定した音声ポートの音声クラス着信番号プール設定情報が表示されるようになりました。
12.4(12)	このコマンドが変更されました。このコマンドは Cisco IOS リリース 12.4(12) に統合され、出力が変更されて <b>timing sup-disconnect</b> コマンドによって設定されたパラメータが表示されるようになりました。

リリース	変更内容
15.0(1)XA	このコマンドが変更されました。出力内容が拡張され、着信コールおよび発信コールの論理パーティショニング制限クラス (LPCOR) ポリシーが表示されるようになりました。
15.1(1)T	このコマンドは、Cisco IOS リリース 15.1(1)T に統合されました。
15.1(3)T	このコマンドが変更されました。このコマンドの出力内容が拡張され、Foreign Exchange Office (FXO) ポートの接続ステータスが表示されるようになりました。

### 使用上のガイドライン

このコマンドを使用すると、特定のポートに関する設定情報およびVIC固有の情報が表示されます。

このコマンドは、Voice over IP、Voice over Frame Relay および Voice over ATM で機能します。

**ds0-group** コマンドを使用すると、Cisco 2600、Cisco 3600 シリーズおよび Cisco 7200 シリーズのルータ上で、*slot / port : ds0-group-number* と番号付けされた論理音声ポートが自動的に作成されます。各グループには1つの音声ポートしか作成されませんが、該当するコールがグループ内の任意のチャンネルにルーティングされます。



- (注) このコマンドは、Cisco AS5350、Cisco AS5400、Cisco AS5800、および Cisco AS5850 の各プラットフォームにおける Non-Facility Associated Signaling (NFAS) 設定ではサポートされていません。

### 例

次に、E&M アナログ音声ポートを指定して **show voice port** コマンドを実行した場合の出力例を示します。

```
Router# show voice port 1/0/0
E&M Slot is 1, Sub-unit is 0, Port is 0
Type of VoicePort is E&M
Operation State is unknown
Administrative State is unknown
The Interface Down Failure Cause is 0
Alias is NULL
Noise Regeneration is disabled
Non Linear Processing is disabled
Music On Hold Threshold is Set to 0 dBm
In Gain is Set to 0 dB
Out Attenuation is Set to 0 dB
Echo Cancellation is disabled
Echo Cancel Coverage is set to 16ms
Connection Mode is Normal
Connection Number is not set
Initial Time Out is set to 0 s
Interdigit Time Out is set to 0 s
Analog Info Follows:
Region Tone is set for northamerica
Currently processing none
Maintenance Mode Set to None (not in mtc mode)
Number of signaling protocol errors are 0
```

```

Voice card specific Info Follows:
Signal Type is wink-start
Operation Type is 2-wire
Impedance is set to 600r Ohm
E&M Type is unknown
Dial Type is dtmf
In Seizure is inactive
Out Seizure is inactive
Digit Duration Timing is set to 0 ms
InterDigit Duration Timing is set to 0 ms
Pulse Rate Timing is set to 0 pulses/second
InterDigit Pulse Duration Timing is set to 0 ms
Clear Wait Duration Timing is set to 0 ms
Wink Wait Duration Timing is set to 0 ms
Wink Duration Timing is set to 0 ms
Delay Start Timing is set to 0 ms
Delay Duration Timing is set to 0 ms

```

次に、E&M デジタル音声ポートを指定して **show voice port** コマンドを実行した場合の出力例を示します。

```

Router# show voice port 1/0/1
receIve and transMit Slot is 1, Sub-unit is 0, Port is 1
Type of VoicePort is E&M
Operation State is DORMANT
Administrative State is UP
No Interface Down Failure
Description is not set
Noise Regeneration is enabled
Non Linear Processing is enabled
Music On Hold Threshold is Set to -38 dBm
In Gain is Set to 0 dB
Out Attenuation is Set to 0 dB
Echo Cancellation is enabled
Echo Cancel Coverage is set to 8 ms
Connection Mode is normal
Connection Number is not set
Initial Time Out is set to 10 s
Interdigit Time Out is set to 10 s
Region Tone is set for US

```

次に、Foreign Exchange Station (FXS) アナログ音声ポートを指定して **show voice port** コマンドを実行した場合の出力例を示します。

```

Router# show voice port 1/1/1
Foreign Exchange Station 1/1/1 Slot is 1, Sub-unit is 1, Port is 1
Type of VoicePort is FXS VIC2-2FXS
Operation State is DORMANT
Administrative State is UP
The Last Interface Down Failure Cause is Administrative Shutdown
Description is I am a FXS LoopStart port
Noise Regeneration is enabled
Non Linear Processing is enabled
Non Linear Mute is disabled
Non Linear Threshold is -21 dB
Music On Hold Threshold is Set to -38 dBm
In Gain is Set to 0 dB
Out Attenuation is Set to 3 dB
Echo Cancellation is enabled
Echo Cancellation NLP mute is disabled
Echo Cancellation NLP threshold is -21 dB
Echo Cancel Coverage is set to 64 ms

```

```

Echo Cancel worst case ERL is set to 6 dB
Playout-delay Mode is set to adaptive
Playout-delay Nominal is set to 60 ms
Playout-delay Maximum is set to 250 ms
Playout-delay Minimum mode is set to default, value 40 ms
Playout-delay Fax is set to 300 ms
Connection Mode is normal
Connection Number is not set
Initial Time Out is set to 10 s
Interdigit Time Out is set to 10 s
Call Disconnect Time Out is set to 60 s
Supervisory Disconnect Time Out is set to 750 ms
Ringing Time Out is set to 180 s
Wait Release Time Out is set to 30 s
Companding Type is u-law
Region Tone is set for US
Analog Info Follows:
Currently processing none
Maintenance Mode Set to None (not in mtc mode)
Number of signaling protocol errors are 0
Impedance is set to 600r Ohm
Station name None, Station number None
Translation profile (Incoming):
Translation profile (Outgoing):
lpcor (Incoming): local_group
lpcor (Outgoing): local_group
Voice card specific Info Follows:
Signal Type is loopStart
Ring Frequency is 25 Hz
Hook Status is On Hook
Ring Active Status is inactive
Ring Ground Status is inactive
Tip Ground Status is active
Digit Duration Timing is set to 100 ms
InterDigit Duration Timing is set to 100 ms
Hookflash-in Timing is set to max=1000 ms, min=150 ms
Hookflash-out Timing is set to 400 ms
No disconnect acknowledge
Ring Cadence is defined by CPTone Selection
Ring Cadence are [20 40] * 100 msec
Ringer Equivalence Number is set to 1

```

次に、FXO アナログ音声ポートを指定して **show voice port** コマンドを実行した場合の出力例を示します。

```

Router# show voice port 1/0/1
Foreign Exchange Office 1/0/1 Slot is 1, Sub-unit is 0, Port is 1
Type of VoicePort is FXO
Operation State is DORMANT
Administrative State is UP
The Last Interface Down Failure Cause is Administrative Shutdown
Description is I am an FXO LoopStart port
Noise Regeneration is enabled
Non Linear Processing is enabled
Non Linear Mute is disabled
Non Linear Threshold is -21 dB
Music On Hold Threshold is Set to -38 dBm
In Gain is Set to 0 dB
Out Attenuation is Set to 3 dB
Echo Cancellation is enabled
Echo Cancellation NLP mute is disabled
Echo Cancellation NLP threshold is -21 dB
Echo Cancel Coverage is set to 64 ms

```

```

Echo Cancel worst case ERL is set to 6 dB
Playout-delay Mode is set to adaptive
Playout-delay Nominal is set to 60 ms
Playout-delay Maximum is set to 250 ms
Playout-delay Minimum mode is set to default, value 40 ms
Playout-delay Fax is set to 300 ms
Connection Mode is normal
Connection Number is not set
Initial Time Out is set to 10 s
Interdigit Time Out is set to 10 s
Call Disconnect Time Out is set to 60 s
Ringing Time Out is set to 180 s
Wait Release Time Out is set to 30 s
Companding Type is u-law
Region Tone is set for US
Analog Info Follows:
Currently processing none
Maintenance Mode Set to None (not in mtc mode)
Number of signaling protocol errors are 0
Impedance is set to 600r Ohm
Station name None, Station number None
Translation profile (Incoming):
Translation profile (Outgoing):
Voice card specific Info Follows:
Signal Type is loopStart
Battery-Reversal is enabled
Number Of Rings is set to 1
Supervisory Disconnect is signal
Answer Supervision is inactive
Hook Status is On Hook
Ring Detect Status is inactive
Ring Ground Status is inactive
Tip Ground Status is inactive
Dial Out Type is dtmf
Digit Duration Timing is set to 100 ms
InterDigit Duration Timing is set to 100 ms
Pulse Rate Timing is set to 10 pulses/second
InterDigit Pulse Duration Timing is set to 750 ms
Percent Break of Pulse is 60 percent
GuardOut timer is 2000 ms
Minimum ring duration timer is 125 ms
Hookflash-in Timing is set to 600 ms
Hookflash-out Timing is set to 400 ms
Supervisory Disconnect Timing (loopStart only) is set to 750 ms
OPX Ring Wait Timing is set to 6000 ms

```

次に、**show voice port summary** コマンドの出力例を示します。この出力では、ADMIN 状態が「up」かつ OPER 状態が「dorm」となっている接続済みの FXO アナログ音声ポート 0/2/0 で、IN STATUS が「idle」、および OUT STATUS が「on-hook」となっている点に注意してください。

```

Router# show voice port summary

```

PORT	CH	SIG-TYPE	ADMIN	OPER	IN STATUS	OUT STATUS	EC
0/0/0	--	fxs-ls	up	dorm	on-hook	idle	y
0/0/1	--	fxs-ls	up	dorm	on-hook	idle	y
0/3/0:23	01	isdn-voice	up	dorm	none	none	y
0/3/0:23	02	isdn-voice	up	dorm	none	none	y
.	.	.	.	.	.	.	.

```

0/1/0      -- did-in-wnk up   dorm idle   idle   y
0/1/1      -- did-in-wnk up   dorm idle   idle   y
0/2/0      -- fxs-ls      up   dorm idle   on-hook y
0/2/1      -- fxs-ls      up   down idle   off-hook y
2/0/0      -- fxs-ls      up   dorm on-hook idle   y
2/0/1      -- fxs-ls      up   dorm on-hook idle   y
2/0/2      -- fxs-ls      up   dorm on-hook idle   y
2/0/3      -- fxs-ls      up   dorm on-hook idle   y
2/0/4      -- fxs-ls      up   dorm on-hook idle   y
2/0/5      -- fxs-ls      up   dorm on-hook idle   y
2/0/6      -- fxs-ls      up   dorm on-hook idle   y
2/0/7      -- fxs-ls      up   dorm on-hook idle   y

```



(注) この FXO ポート 0/2/0 の接続が解除されると、**show voice port summary** コマンドの出力が変化して、OUT STATUS が「off-hook」、および OPER 状態が「down」になります。

次に、ISDN 音声ポートを指定して **show voice port** コマンドを実行した場合の出力例を示します。

```

Router# show voice port
ISDN 2/0:23 Slot is 2, Sub-unit is 0, Port is 23
Type of VoicePort is ISDN-VOICE
Operation State is DORMANT
Administrative State is UP
No Interface Down Failure
Description is not set
Noise Regeneration is enabled
Non Linear Processing is enabled
Non Linear Mute is disabled
Non Linear Threshold is -21 dB
Music On Hold Threshold is Set to -38 dBm
In Gain is Set to 0 dB
Out Attenuation is Set to 0 dB
Echo Cancellation is enabled
Echo Cancellation NLP mute is disabled
Echo Cancellation NLP threshold is -21 dB
Echo Cancel Coverage is set to 64 ms
Echo Cancel worst case ERL is set to 6 dB
Playout-delay Mode is set to adaptive
Playout-delay Nominal is set to 60 ms
Playout-delay Maximum is set to 250 ms
Playout-delay Minimum mode is set to default, value 40 ms
Playout-delay Fax is set to 300 ms
Connection Mode is normal
Connection Number is not set
Initial Time Out is set to 10 s
Interdigit Time Out is set to 10 s
Call Disconnect Time Out is set to 60 s
Ringing Time Out is set to 180 s
Wait Release Time Out is set to 30 s
Companding Type is u-law
Region Tone is set for US
Station name None, Station number None
Translation profile (Incoming):
Translation profile (Outgoing):
Voice class called number pool:
DS0 channel specific status info:

```

```

IN      OUT

```

PORT	CH	SIG-TYPE	OPER	STATUS	STATUS	TIP	RING
2/0:23	01	isdn-voice	up	none	none		
2/0:23	02	isdn-voice	up	none	none		
2/0:23	03	isdn-voice	up	none	none		
2/0:23	04	isdn-voice	up	none	none		
2/0:23	05	isdn-voice	up	none	none		
2/0:23	06	isdn-voice	up	none	none		
2/0:23	07	isdn-voice	dorm	none	none		
2/0:23	08	isdn-voice	dorm	none	none		
2/0:23	09	isdn-voice	dorm	none	none		
2/0:23	10	isdn-voice	dorm	none	none		
2/0:23	11	isdn-voice	dorm	none	none		
2/0:23	12	isdn-voice	dorm	none	none		
2/0:23	13	isdn-voice	dorm	none	none		
2/0:23	14	isdn-voice	dorm	none	none		
2/0:23	15	isdn-voice	dorm	none	none		
2/0:23	16	isdn-voice	dorm	none	none		
2/0:23	17	isdn-voice	dorm	none	none		
2/0:23	18	isdn-voice	dorm	none	none		
2/0:23	19	isdn-voice	dorm	none	none		
2/0:23	20	isdn-voice	dorm	none	none		
2/0:23	21	isdn-voice	dorm	none	none		
2/0:23	22	isdn-voice	dorm	none	none		
2/0:23	23	isdn-voice	dorm	none	none		

次に、接続済みの FXO アナログ音声ポート 0/2/0 を指定して **show voice port** コマンドを実行した場合に、ポートの管理状態が「UP」、動作状態が「DORMANT」と表示された出力例を示します。

```
Router# show voice port 0/2/0
Foreign Exchange Office 0/2/0 Slot is 0, Sub-unit is 2, Port is 0
Type of VoicePort is FXO
Operation State is DORMANT
Administrative State is UP
No Interface Down Failure
Description is not set
Noise Regeneration is enabled
Non Linear Processing is enabled
Non Linear Mute is disabled
Non Linear Threshold is -21 dB
Music On Hold Threshold is Set to -38 dBm
In Gain is Set to 0 dB
Out Attenuation is Set to 3 dB
Echo Cancellation is enabled
Echo Cancellation NLP mute is disabled
Echo Cancellation NLP threshold is -21 dB
Echo Cancel Coverage is set to 128 ms
Echo Cancel worst case ERL is set to 6 dB
Playout-delay Mode is set to adaptive
Playout-delay Nominal is set to 60 ms
Playout-delay Maximum is set to 1000 ms
Playout-delay Minimum mode is set to default, value 40 ms
Playout-delay Fax is set to 300 ms
Connection Mode is normal
Connection Number is not set
Initial Time Out is set to 15 s
Interdigit Time Out is set to 10 s
Call Disconnect Time Out is set to 60 s
Power Denial Disconnect Time Out is set to 1000 ms
Ringing Time Out is set to 180 s
Wait Release Time Out is set to 30 s
Companding Type is u-law
Region Tone is set for US
```

```

Analog Info Follows:
Currently processing none
Maintenance Mode Set to None (not in mtc mode)
Number of signaling protocol errors are 0
Impedance is set to 600r Ohm
Station name None, Station number None
Translation profile (Incoming):
Translation profile (Outgoing):
lpcor (Incoming):
lpcor (Outgoing):
Voice card specific Info Follows:
Signal Type is loopStart
Battery-Reversal is enabled
Number Of Rings is set to 1
Supervisory Disconnect is signal
Answer Supervision is inactive
Hook Status is On Hook
Ring Detect Status is inactive
Ring Ground Status is inactive
Tip Ground Status is inactive
Dial Out Type is dtmf
Digit Duration Timing is set to 100 ms
InterDigit Duration Timing is set to 100 ms
Pulse Rate Timing is set to 10 pulses/second
InterDigit Pulse Duration Timing is set to 750 ms
Percent Break of Pulse is 60 percent
GuardOut timer is 2000 ms
Minimum ring duration timer is 125 ms
Hookflash-in Timing is set to 600 ms
Hookflash-out Timing is set to 400 ms
Supervisory Disconnect Timing (loopStart only) is set to 350 ms
OPX Ring Wait Timing is set to 6000 ms
Secondary dialtone is disabled

```



- (注) この FXO ポート 0/2/0 の接続が解除されると、**show voice port** コマンドの出力が変化し、管理状態は「off-hook」のまま、動作状態が「DOWN」になります。Cisco IOS リリース 15.1(3)T 以降 FXO ポートステータスのモニタリングが改善され、FXO ポートが接続または接続解除されるたびにステータスの変化を示すメッセージが表示されるようになりました。たとえば、ケーブルが接続されたことを報告するメッセージ（「000118: Jul 14 18:06:05.122 EST: %LINK-3 -UPDOWN: インターフェイス Foreign Exchange Office 0/2/0、ケーブル再接続により動作ステータス状態を変更しました」）が表示されるとともに、FXO ポート 0/2/0 のステータスが「up」に変更されます。

下の表に、この出力で表示される重要なフィールドの説明をアルファベット順に示します。

表 24: show voice port のフィールドの説明

フィールド	説明
Administrative State	音声ポートの管理状態。
Alias	当該音声ポートのユーザー指定のエイリアス。

フィールド	説明
Clear Wait Duration Timing	コールがクリアされたことを宣言するまでの、非アクティブな捕捉信号の持続時間（ミリ秒（ms）単位）。
Companding Type	パルス符号変調（PCM）システムでアナログ信号とデジタル信号の変換に使用されるコンパANDING標準規格。
Connection Mode	当該インターフェイスの接続モード。
Connection Number	トランクまたは専用線の自動リングダウン（PLAR）モードとの接続を確立するために使用される、完全な E.164 電話番号。
Currently Processing	現在処理中のコールタイプ（なし、音声、またはファクス）。
Delay Duration Timing	遅延ダイヤルシグナリングにおける遅延信号の最大持続時間（ミリ秒単位）。
Delay Start Timing	着信捕捉を検出してから遅延開始信号が生成されるタイミング（ミリ秒単位）。
Dial Type	当該音声ポートのアウトダイヤルタイプ。
Digit Duration Timing	デュアルトーンマルチ周波数（DTMF）桁の持続時間（ミリ秒単位）。
E&M Type	E&M インターフェイスのタイプ。
Echo Cancel Coverage	このポートのエコー キャンセル カバレッジ。
Echo Cancellation	このポートでエコーキャンセレーションが有効になっているかどうか。
Impedance	E&M インターフェイスに設定された終端インピーダンス。
In Gain	インターフェイスの受信側で挿入されるゲインの量（デシベル（dB）単位）。
In Seizure	E&M インターフェイスの着信捕捉状態。
Initial Time Out	システムが発信者からの最初の桁入力を待機する時間（秒単位）。
Interdigit Duration Timing	DTMF 桁間の間隔時間（秒単位）。
Interdigit Duration Timing	パルスダイヤル時の桁間のタイミング（ミリ秒単位）。
Interdigit Time Out	システムが発信者からの後続の桁入力を待機する時間（秒単位）。

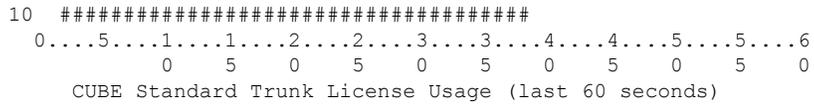
フィールド	説明
Lpcor (Incoming)	<b>lpcor incoming</b> コマンドの設定。
Lpcor (Outgoing)	<b>lpcor outgoing</b> コマンドの設定。
Maintenance Mode	音声ポートのメンテナンスモード。
Music On Hold Threshold	このインターフェイスに設定されている保留音のしきい値。
Noise Regeneration	音声アクティビティ検出 (VAD) がアクティブになっている場合に、無音ギャップを埋めるために背景雑音を再生するかどうか。
Non Linear Processing	このポートで非リニア処理が有効になっているかどうか。
Number of signaling protocol errors	シグナリングプロトコルエラーの数。
Operation State	音声ポートの動作状態。
Operation Type	E&M 信号の運用タイプ (2 線運用または 4 線運用)。
Out Attenuation	インターフェイスの送信側に挿入された減衰の量 (dB)。
Out Seizure	E&M インターフェイスの発信捕捉状態。
Port	音声インターフェイスカードに関連付けられているインターフェイスのポート番号。
Pulse Rate Timing	パルスダイヤルレート (毎秒パルス (pps) 単位)。
Region Tone	このインターフェイスで設定された地域トーン。
Ring Active Status	呼び出し音がアクティブであることを示します。
Ring Cadence	このインターフェイスで設定された呼び出し音パターン。
Ring Frequency	このインターフェイスに設定された呼び出し周波数 (ヘルツ)。
Ring Ground Status	呼び出し回線の接地を示します。
Ringing Time Out	呼び出しタイムアウト時間 (秒単位)。
Signal Type	音声ポートのシグナリングタイプ (delay-dial、ground-start、immediate、loop-start、wink-start)。
Slot	このポートの音声インターフェイスカードで使用されているスロット。

フィールド	説明
Sub-unit	このポートの音声インターフェイスカードで使用されているサブユニット。
Tip Ground Status	チップの接地を示します。
Type of VoicePort	音声ポートのタイプ (FXO、FXS、または E&M)。
The Interface Down Failure Cause	インターフェイスがダウンしている原因を説明するテキスト文字列。
Wait Release Time Out	当該ポートに対して話中音、リオーダートーンまたはアウトオブサービストーンが送信されている間、音声ポートがコール障害状態を維持する長さ (秒単位)。
Wink Duration Timing	ウィnk スタートシグナリングの最大ウィnk 継続時間 (ミリ秒単位)。
Wink Wait Duration Timing	ウィnk スタートシグナリングの最大ウィnk 待機時間 (ミリ秒単位)。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>ds0 group</b>	T1 コントローラまたは E1 コントローラ上で論理音声ポートを構成する DS0 タイムスロットを指定し、ルータが PBX または PSTN との通信に使用するシグナリングタイプを指定します。
<b>timing sup-disconnect</b>	監視コール切断が発生する前に、オンフック表示が意図的であり回線上の電氣的過渡現象ではないことを (PSTN または PBX からの電源拒否シグナリングに基づいて) 確認するための最小時間を定義します。





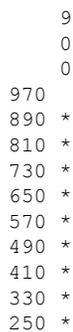
• **License usage for the last 60 minutes** — このグラフには、過去 60 分間に使用されたライセンス数が表示されます。X 軸は時間（分単位）を表し、Y 軸は使用されたライセンス数を表します。Y 軸の値は、使用されているライセンスによって異なります。# は、平均使用ライセンス数を表します。\* は、最大使用ライセンス数を表します。1 分間で最大使用ライセンス数は、その 1 分間（60 秒間）における使用ライセンス数のうち上位 3 つの値を平均する方法で算出されます。

たとえば次のグラフでは、48 分目の時点で最大使用ライセンス数が 383 でした。



• **License usage for the last 72 hours** — このグラフには、過去 72 時間に使用されたライセンス数が表示されます。X 軸は時間（時間単位）を表し、Y 軸は使用されたライセンス数を表します。Y 軸の値は、使用されているライセンスによって異なります。# は、平均使用ライセンス数を表します。\* は、最大使用ライセンス数を表します。1 時間あたりの最大使用ライセンス数は、同一時間内の分単位で測定された最大使用ライセンス数と同じです。一定期間におけるライセンス使用量の算出時に、当該期間中における最大値が判定されます。

たとえば次のグラフでは、最初の 1 時間における最大使用ライセンス数は 900 でした。



```

170 #
0....5....1....1....2....2....3....3....4....4....5....5....6....6....7..
   0   5   0   5   0   5   0   5   0   5   0   5   0   5   0
CUBE Standard Trunk License Usage (last 72 hours)
* = maximum    # = average

```

- **License usage for the last 72 days** — このグラフには、過去 72 日間に使用されたライセンス数が表示されます。X 軸は時間（時間単位）を表し、Y 軸は使用されたライセンス数を表します。Y 軸の値は、使用されているライセンスによって異なります。# は、平均使用ライセンス数を表します。\* は、最大使用ライセンス数を表します。1 日あたりの最大使用ライセンス数は、同一日内の時間単位で測定された最大使用ライセンス数と同じです。一定期間におけるライセンス使用量の算出時に、当該期間中における最大値が判定されます。

たとえば次のグラフでは、1 日目の時点で最大使用ライセンス数が 950 でした。

```

          9 2
          5 0
          0 0
1000 *
 900 *
 800 *
 700 *
 600 *
 500 *
 400 *
 300 *
 200 * *
 100 * *
0....5....1....1....2....2....3....3....4....4....5....5....6....6....7..
   0   5   0   5   0   5   0   5   0   5   0   5   0   5   0
CUBE Standard Trunk License Usage (last 72 days)
* = maximum    # = average

```

次に、TDM-SIP トランクセッションが表示されたグラフの例を示します。# は、平均使用ライセンス数を表します。\* は、最大使用ライセンス数を表します。下のグラフでは、1 時間目の時点で最大使用 TDM-SIP トランクセッション数が 1 でした。

```

11
10
 9
 8
 7
 6
 5
 4
 3
 2
 1 **
0....5....1....1....2....2....3....3....4....4....5....5....6....6....7..
   0   5   0   5   0   5   0   5   0   5   0   5   0   5   0
TDM-SIP Trunk Sessions (last 72 hours)
* = maximum    # = average

```

キーワード **table** を使用すると、経時的な使用ライセンス数を表形式で表示できます。出力には「CUBE Standard Trunk License Usage」および「TDM-SIP Trunk Sessions」それぞれについて、次の各表が含まれます。

- License usage for the last 60 seconds (過去 60 秒間のライセンス使用量)
- License usage for the last 60 minutes (過去 60 分間のライセンス使用量)
- License usage for the last 72 hours (過去 72 時間のライセンス使用量)
- License usage for the last 72 days (過去 72 日間のライセンス使用量)

**show voice sip license stats** を使用すると、CUBE 内 WebSocket のライセンス使用状況がグラフ形式で表示されます。このライセンス使用状況の情報を表形式で表示するには、**show voice sip license stats table** を使用します。WebSocket のライセンス使用状況には、Enhanced、Standard、および Aggregate の各種コールカウントが表示されます。TDM コールは、CUBE 内 WebSocket にはカウントされません。

## 例

**show voice sip license stats** コマンドの出力例を次に示します。

```
cube#show voice sip license stats

11:01:01 AM Thursday Aug 29 2019 IST

10
 9
 8
 7
 6
 5
 4
 3
 2
 1
0.....5.....1.....1.....2.....2.....3.....3.....4.....4.....5.....5.....6
      0      5      0      5      0      5      0      5      0      5      0      5      0
CUBE Standard Trunk License Usage (last 60 seconds)

369863146641
8880900440044
3330922440011
**
#*
##
*##* **
###* ##
#### *##*
*##### *##*
##### #####
##### #####
*#####*#####*
```

show voice sip license

```

10                                     #####
0....5....1....1....2....2....3....3....4....4....5....5....6
      0   5   0   5   0   5   0   5   0   5   0   5   0
CUBE Standard Trunk License Usage (last 60 minutes)
* = maximum      # = average

9
0
0
970
890 *
810 *
730 *
650 *
570 *
490 *
410 *
330 *
250 *
170 #
0....5....1....1....2....2....3....3....4....4....5....5....6....6....7..
      0   5   0   5   0   5   0   5   0   5   0   5   0   5   0
CUBE Standard Trunk License Usage (last 72 hours)
* = maximum      # = average

10
9
8
7
6
5
4
3
2
1
0....5....1....1....2....2....3....3....4....4....5....5....6....6....7..
      0   5   0   5   0   5   0   5   0   5   0   5   0   5   0
CUBE Standard Trunk License Usage (last 72 days)
* = maximum      # = average

11
10
9
8
7
6
5
4
3
2
1
      ##
0....5....1....1....2....2....3....3....4....4....5....5....6
      0   5   0   5   0   5   0   5   0   5   0   5   0
TDM-SIP Trunk Sessions (last 60 seconds)

```

```

10
 9
 8
 7
 6
 5
 4
 3
 2
 1
0...5...1...1...2...2...3...3...4...4...5...5...6
   0  5  0  5  0  5  0  5  0  5  0  5  0
TDM-SIP Trunk Sessions (last 60 minutes)
* = maximum # = average
    
```

```

11
10
 9
 8
 7
 6
 5
 4
 3
 2
 1 **
0...5...1...1...2...2...3...3...4...4...5...5...6...6...7..
   0  5  0  5  0  5  0  5  0  5  0  5  0  5  0
TDM-SIP Trunk Sessions (last 72 hours)
* = maximum # = average
    
```

```

10
 9
 8
 7
 6
 5
 4
 3
 2
 1
0...5...1...1...2...2...3...3...4...4...5...5...6...6...7..
   0  5  0  5  0  5  0  5  0  5  0  5  0  5  0
TDM-SIP Trunk Sessions (last 72 days)
* = maximum # = average
    
```

**show voice sip license stats table** コマンドの出力例を次に示します。

```
cube#show voice sip license stats table
```

02:50:16 PM Wednesday Nov 13 2019 UTC

CUBE Period	Standard Average	Trunk License Max	Usage (last 60 seconds)
1-5	0	0	
6-10	0	0	
11-15	0	0	
16-20	0	0	
21-25	0	0	
26-30	0	0	
31-35	0	0	
36-40	0	0	
41-45	0	0	
46-50	0	0	
51-55	0	0	
56-60	0	0	

CUBE Period	Standard Average	Trunk License Max	Usage (last 60 minutes)
1-5	0	0	
6-10	0	0	
11-15	0	0	
16-20	0	0	
21-25	0	0	
26-30	0	0	
31-35	0	0	
36-40	0	0	
41-45	0	0	
46-50	324	900	
51-55	343	899	
56-60	292	600	

CUBE Period	Standard Average	Trunk License Max	Usage (last 72 hours)
1-5	35	900	
6-10	0	0	
11-15	0	0	
16-20	0	0	
21-25	0	0	
26-30	0	0	
31-35	0	0	
36-40	0	0	
41-45	0	0	
46-50	0	0	
51-55	0	0	
56-60	0	0	
61-65	0	0	
66-70	0	0	
71-72	0	0	

CUBE Period	Standard Average	Trunk License Max	Usage (last 72 days)
1-5	0	0	
6-10	0	0	
11-15	0	0	

16-20	0	0
21-25	0	0
26-30	0	0
31-35	0	0
36-40	0	0
41-45	0	0
46-50	0	0
51-55	0	0
56-60	0	0
61-65	0	0
66-70	0	0
71-72	0	0

## TDM-SIP Trunk Sessions (last 60 seconds)

Period	Average	Max
1-5	0	0
6-10	0	0
11-15	0	0
16-20	0	0
21-25	0	0
26-30	0	0
31-35	0	0
36-40	0	0
41-45	0	0
46-50	0	0
51-55	0	0
56-60	0	0

## TDM-SIP Trunk Sessions (last 60 minutes)

Period	Average	Max
1-5	0	2
6-10	0	1
11-15	0	1
16-20	0	1
21-25	0	0
26-30	0	0
31-35	0	0
36-40	0	0
41-45	0	0
46-50	0	0
51-55	0	0
56-60	0	0

## TDM-SIP Trunk Sessions (last 72 hours)

Period	Average	Max
1-5	0	0
6-10	0	0
11-15	0	0
16-20	0	0
21-25	0	0
26-30	0	0
31-35	0	0
36-40	0	0
41-45	0	0
46-50	0	0
51-55	0	0
56-60	0	0
61-65	0	0
66-70	0	0
71-72	0	0

TDM-SIP Trunk Sessions (last 72 days)		
Period	Average	Max
1-5	0	0
6-10	0	0
11-15	0	0
16-20	0	0
21-25	0	0
26-30	0	0
31-35	0	0
36-40	0	0
41-45	0	0
46-50	0	0
51-55	0	0
56-60	0	0
61-65	0	0
66-70	0	0
71-72	0	0

次の例は、SIP サービスが有効化されている場合の **show voice sip license status** コマンドの出力例です。

```
cube#show voice sip license status
```

```
Host Name: cube
Current Time: Nov 25 2019 14:46:41 IST
SIP service: Up
License request interval: 5 Minute(s)
Next request at: Nov 25 2019 14:50:44 IST
Recent request(s) for CUBE Standard Trunk
```

Timestamp	Count	Result
Nov 25 2019 14:45:44 IST	10	Out of compliance
Nov 25 2019 14:40:44 IST	4	Authorized
Nov 25 2019 14:35:44 IST	2	Authorized

権限付与要求が送信されてから応答を受信するまでの間は、出力の「Result」列には以前と同じ値が表示されるとともに「(Response Pending)」の表記が追加された状態となります。たとえば次の出力では、「Dec 5 2019 16:17:46 IST」に送信された権限付与要求に対する応答を待機している状態です。したがって「Result」列には「Authorized(Response Pending)」と表示されています。権限付与要求の初回送信時には、「Result」列には「Unknown(Response Pending)」と表示されます。

```
cube#show voice sip license status
```

```
Host Name: cube
Current Time: Dec 5 2019 16:18:22 IST
SIP service: Up
License request interval: 1 Minute(s)
Next request at: Dec 5 2019 16:18:46 IST
Recent request(s) for CUBE Standard Trunk
```

Timestamp	Count	Result
Dec 5 2019 16:17:46 IST	2	Authorized(Response Pending)
Dec 5 2019 15:59:46 IST	0	Authorized
Dec 5 2019 15:58:46 IST	1	Authorized

応答を受信すると、その応答に応じて出力が更新されます。上記の例で考えると、「Dec 5 2019 16:17:46 IST」に送信された権限付与要求の結果 (result) は、以下のよう  
に「Authorized (承認済み)」に更新されます。

```
cube#show voice sip license status

Host Name: cube
Current Time: Dec 5 2019 16:18:32 IST
SIP service: Up
License request interval: 1 Minute(s)
Next request at: Dec 5 2019 16:18:46 IST
Recent request(s) for CUBE Standard Trunk
```

Timestamp	Count	Result
Dec 5 2019 16:17:46 IST	2	Authorized
Dec 5 2019 15:59:46 IST	0	Authorized
Dec 5 2019 15:58:46 IST	1	Authorized

権限付与要求が送信されるのは、ライセンス要求数に変化があった場合のみです。たとえば次の出力では、ライセンス要求の間隔は5分であり、要求が2019年11月21日14:29:50 ISTに3回送信されました。この5分の間隔中にライセンス使用状況に変化がなかったため、2019年11月21日14:34:50 ISTに要求は送信されませんでした。その次の5分間隔中にはライセンス使用状況が変化したため、2019年11月21日14:39:50 ISTに要求が送信されました。

```
cube#show voice sip license status

Host Name: cube
Current Time: Nov 22 2019 04:02:53 IST
SIP service: Up
License request interval: 5 Minute(s)
Next request at: Nov 22 2019 04:04:50 IST
Recent request(s) for CUBE Standard Trunk
```

Time	Count	Result
Nov 21 2019 14:39:50 IST	0	Authorized
Nov 21 2019 14:29:50 IST	3	Authorized

次の例は、評価期間の期限が切れてSIPサービスがブロックされた場合における **show voice sip license status** コマンドの出力例です。SIPサービスはブロックされていますが、出力には、以前に (SIPサービスの稼働中に) 送信された要求に関する情報が表示されます。次の例では、SIPサービスが稼働していた2019年11月26日04:59:53 IST時点でライセンス要求が15回送信されました。その後、評価期間の期限切れによりSIPサービスがブロックされています。

```
cube#show voice sip license status

Host Name: cube
Current Time: Nov 26 2019 05:03:08 IST
SIP service: blocked due to eval expiry
License request interval: 5 Minute(s)
Next request at: Nov 26 2019 05:04:53 IST
Recent request(s) for CUBE Standard Trunk
```

Timestamp	Count	Result
Nov 26 2019 04:59:53 IST	15	Eval period

**CUBE 内 WebSocket ベースのフォーキングによるライセンス使用状況**

次に示すのは、Standard CUBE トランクコールのライセンス使用状況を表形式およびグラフ形式で表示した出力例です。

```
Router#show voice sip license stats table
CUBE Standard Trunk License Usage (last 60 seconds)
Period      Average      Max
-----
 1-5        1            1
 6-10       0            0
11-15       0            0
16-20       0            0
21-25       0            0
26-30       0            0
31-35       0            0
36-40       0            0
41-45       0            0
46-50       0            0
51-55       0            0
56-60       0            0
```

```
CUBE Standard Trunk License Usage (last 60 minutes)
Period      Average      Max
-----
 1-5        0            0
 6-10       0            0
11-15       0            0
16-20       0            0
21-25       0            0
26-30       0            0
31-35       0            0
36-40       0            0
41-45       0            0
46-50       0            0
51-55       0            0
56-60       0            0
```

```
CUBE Standard Trunk License Usage (last 72 hours)
Period      Average      Max
-----
 1-5        0            0
 6-10       0            0
11-15       0            0
16-20       2            99
21-25       0            40
26-30       0            0
31-35       0            0
36-40       0            0
41-45       0            43
46-50       0            0
51-55       0            0
56-60       0            0
61-65       0            0
66-70       0            0
71-72       0            0
```

CUBE Standard Trunk License Usage (last 72 days)

Period	Average	Max
1-5	0	99
6-10	0	0
11-15	0	0
16-20	0	0
21-25	0	0
26-30	0	0
31-35	0	0
36-40	0	0
41-45	0	0
46-50	0	0
51-55	0	0
56-60	0	0
61-65	0	0
66-70	0	0
71-72	0	0

Router#show voice sip license stats

```

111111111111
10
9
8
7
6
5
4
3
2
1 #####
0....5....1....1....2....2....3....3....4....4....5....5....6
      0   5   0   5   0   5   0   5   0   5   0   5   0
CUBE Standard Trunk License Usage (last 60 seconds)

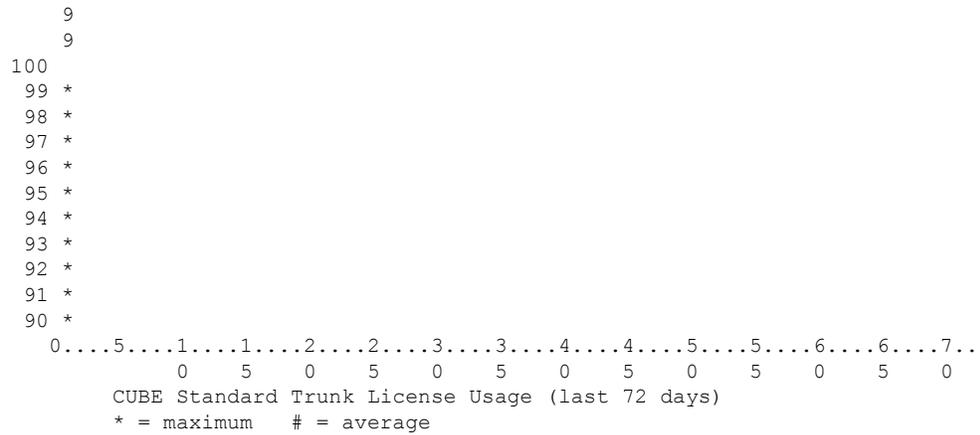
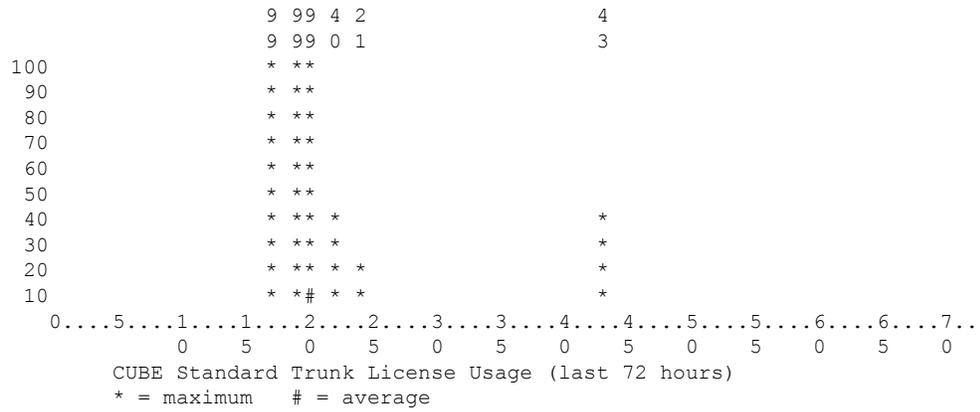
```

```

10
9
8
7
6
5
4
3
2
1
0....5....1....1....2....2....3....3....4....4....5....5....6
      0   5   0   5   0   5   0   5   0   5   0   5   0
CUBE Standard Trunk License Usage (last 60 minutes)
* = maximum # = average

```

show voice sip license



次に示すのは、Enhanced CUBE コールのライセンス使用状況を表形式およびグラフ形式で表示した出力例です。

```
Router#show voice sip license stats table
CUBE Enhanced Trunk License Usage (last 60 seconds)
```

Period	Average	Max
1-5	0	0
6-10	0	0
11-15	0	0
16-20	0	0
21-25	0	0
26-30	0	0
31-35	0	0
36-40	0	0
41-45	0	0
46-50	0	0
51-55	0	0
56-60	0	0

```
CUBE Enhanced Trunk License Usage (last 60 minutes)
```

Period	Average	Max
1-5	0	0
6-10	0	0
11-15	0	0
16-20	0	0
21-25	0	0
26-30	0	0
31-35	0	0
36-40	0	0
41-45	0	0
46-50	0	0
51-55	0	0
56-60	0	0

```
-----
```

1-5	0	0
6-10	0	0
11-15	0	0
16-20	0	0
21-25	0	0
26-30	0	0
31-35	0	0
36-40	0	0
41-45	0	0
46-50	0	0
51-55	0	0
56-60	0	0

CUBE Enhanced Trunk License Usage (last 72 hours)

Period	Average	Max
1-5	0	0
6-10	0	0
11-15	0	0
16-20	0	50
21-25	0	20
26-30	0	0
31-35	0	0
36-40	0	0
41-45	0	41
46-50	0	0
51-55	0	0
56-60	0	0
61-65	0	0
66-70	0	0
71-72	0	0

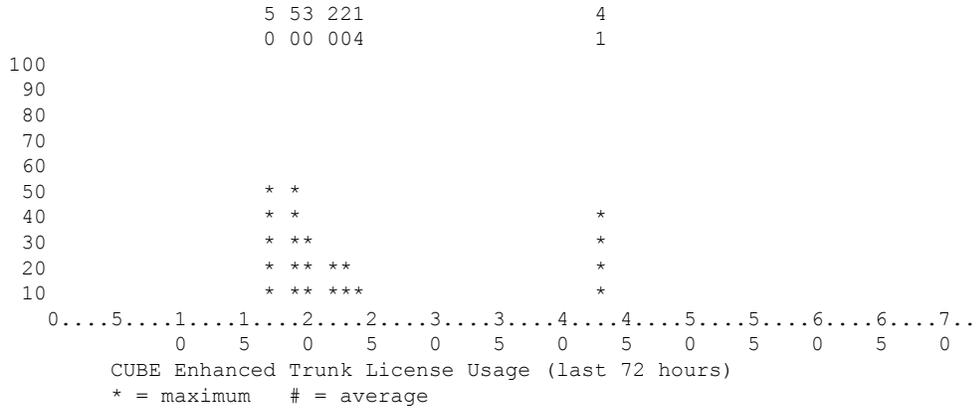
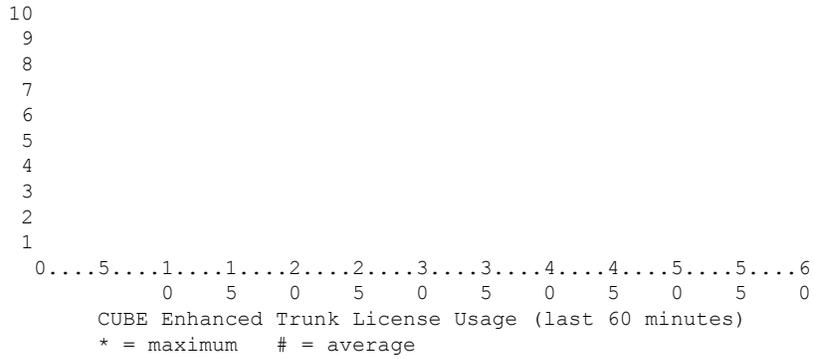
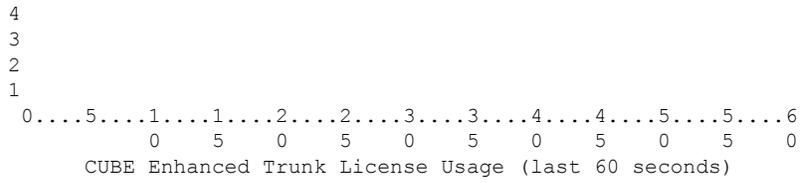
CUBE Enhanced Trunk License Usage (last 72 days)

Period	Average	Max
1-5	0	41
6-10	0	0
11-15	0	0
16-20	0	0
21-25	0	0
26-30	0	0
31-35	0	0
36-40	0	0
41-45	0	0
46-50	0	0
51-55	0	0
56-60	0	0
61-65	0	0
66-70	0	0
71-72	0	0

Router#show voice sip license stats

10  
9  
8  
7  
6  
5

show voice sip license



4  
1  
50  
49  
48  
47  
46  
45  
44  
43  
42  
41 \*

```

40 *
0....5....1....1....2....2....3....3....4....4....5....5....6....6....7...
   0   5   0   5   0   5   0   5   0   5   0   5   0   5   0
CUBE Enhanced Trunk License Usage (last 72 days)
* = maximum # = average
    
```

次に示すのは、Aggregate トランク CUBE コールのライセンス使用状況を表形式およびグラフ形式で表示した出力例です。

```

Router#show voice sip license stats table
CUBE Aggregate Trunk License Usage (last 60 seconds)
    
```

Period	Average	Max
1-5	0	0
6-10	0	0
11-15	0	0
16-20	0	0
21-25	0	0
26-30	0	0
31-35	0	0
36-40	0	0
41-45	0	0
46-50	0	0
51-55	0	0
56-60	0	0

```

CUBE Aggregate Trunk License Usage (last 60 minutes)
    
```

Period	Average	Max
1-5	0	0
6-10	0	0
11-15	0	0
16-20	0	0
21-25	0	0
26-30	0	0
31-35	0	0
36-40	0	0
41-45	0	0
46-50	0	0
51-55	0	0
56-60	0	0

```

CUBE Aggregate Trunk License Usage (last 72 hours)
    
```

Period	Average	Max
1-5	0	0
6-10	0	0
11-15	0	0
16-20	0	50
21-25	0	20
26-30	0	0
31-35	0	0
36-40	0	0
41-45	0	41
46-50	0	0
51-55	0	0
56-60	0	0
61-65	0	0

show voice sip license

```
66-70      0      0
71-72      0      0
```

CUBE Aggregate Trunk License Usage (last 72 days)

Period	Average	Max
1-5	0	41
6-10	0	0
11-15	0	0
16-20	0	0
21-25	0	0
26-30	0	0
31-35	0	0
36-40	0	0
41-45	0	0
46-50	0	0
51-55	0	0
56-60	0	0
61-65	0	0
66-70	0	0
71-72	0	0

Router#show voice sip license stats

```

111111111111111111
10
9
8
7
6
5
4
3
2
1 #####
0...5...1...1...2...2...3...3...4...4...5...5...6
  0  5  0  5  0  5  0  5  0  5  0  5  0
CUBE Aggregate Trunk License Usage (last 60 seconds)

```

```

10
9
8
7
6
5
4
3
2
1
0...5...1...1...2...2...3...3...4...4...5...5...6
  0  5  0  5  0  5  0  5  0  5  0  5  0
CUBE Aggregate Trunk License Usage (last 60 minutes)
* = maximum # = average

```

```

          9 99 422                8
          9 99 001                0
100      * * *
  90      * * *
  80      * * *                *
  70      * * *                *
  60      * * *                *
  50      * * *                *
  40      * * * *                *
  30      * * * *                *
  20      * * * ***                *
  10      * *# ***                *
0....5....1....1....2....2....3....3....4....4....5....5....6....6....7..
  0     5     0     5     0     5     0     5     0     5     0     5     0     5     0
CUBE Aggregate Trunk License Usage (last 72 hours)
* = maximum # = average

```

```

          9
          9
100      99 *
  99      98 *
  98      97 *
  97      96 *
  96      95 *
  95      94 *
  94      93 *
  93      92 *
  92      91 *
  91      90 *
0....5....1....1....2....2....3....3....4....4....5....5....6....6....7..
  0     5     0     5     0     5     0     5     0     5     0     5     0     5     0
CUBE Aggregate Trunk License Usage (last 72 days)
* = maximum # = average

```

CUBE の WebSocket のライセンス使用状況レポートには、最新の 10 件の使用状況レポートの概要が含まれています。次に、B2BHA モードの CUBE ルータに対する **show voice sip license** の出力例を示します。

```

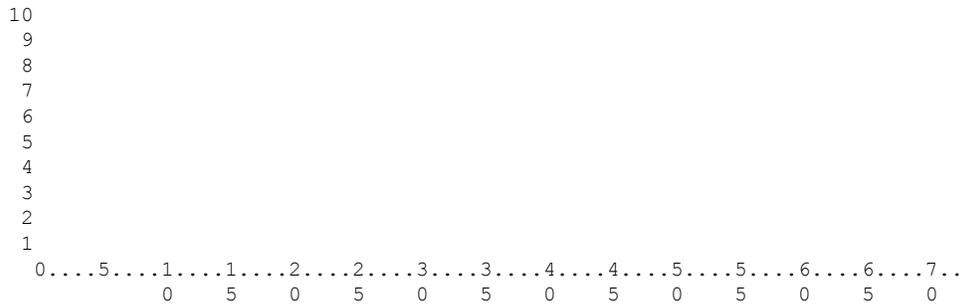
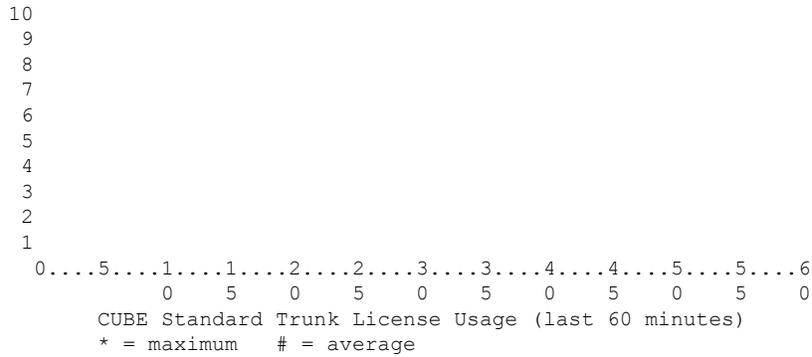
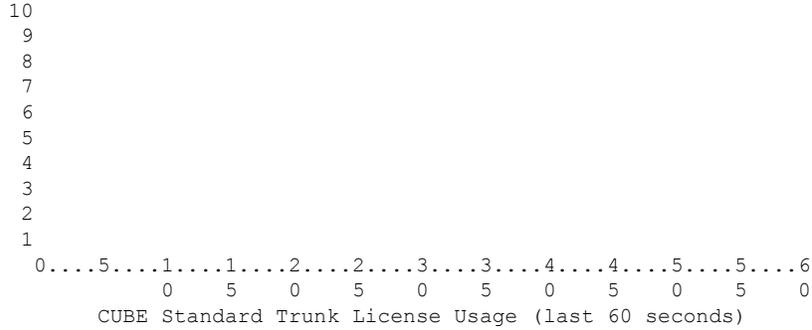
Router#show voice sip license status
Host Name: Router
Current Time: Apr 30 2021 07:37:12 UTC
SIP service: Up
License use recorded every: 7 Day(s)
Next record at: May 7 2021 07:00:00 UTC
Recent use of license(s) for CUBE Enhanced Trunk
-----
Timestamp                Count
-----
Apr 30 2021 07:00:00 UTC    10
Apr 30 2021 05:55:11 UTC     1

```

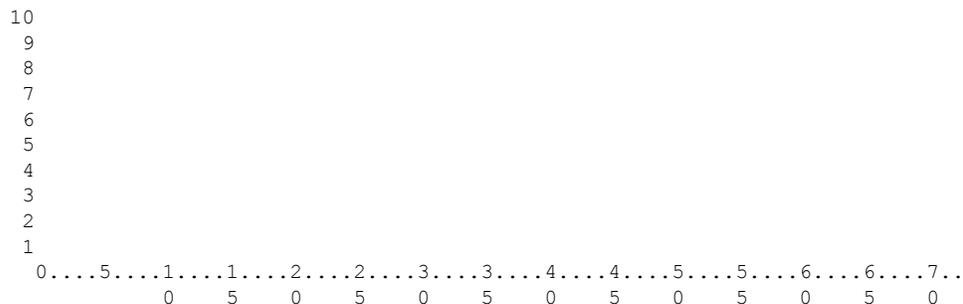
show voice sip license

```
Apr 30 2021 05:54:52 UTC      1
Router#sh log | sec LICENSE_INFO
*Apr 30 07:00:00.751: %CUBE-5-LICENSE_INFO: Requesting for 0 CUBE Enhanced trunk licenses
Router#sh voice sip license stats
```

Router 07:37:47 AM Friday Apr 30 2021 UTC

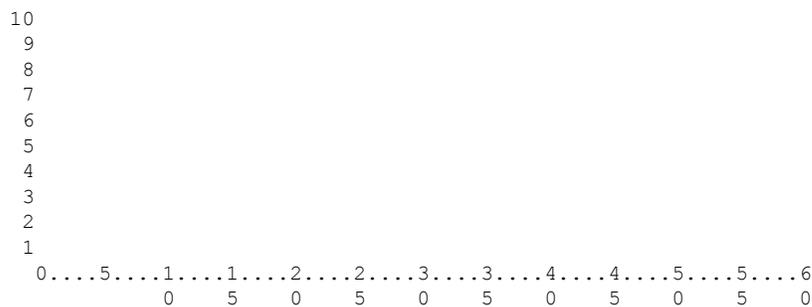
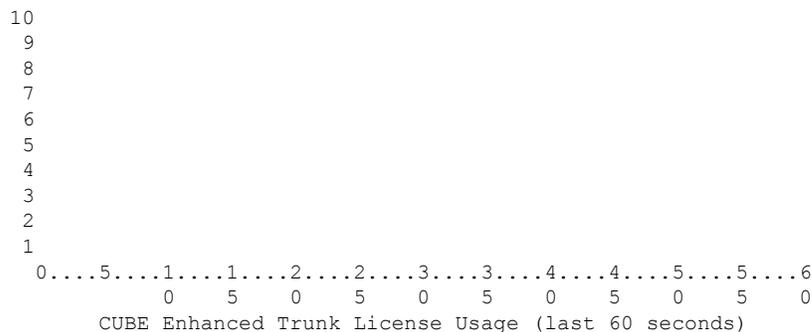


CUBE Standard Trunk License Usage (last 72 hours)
\* = maximum # = average

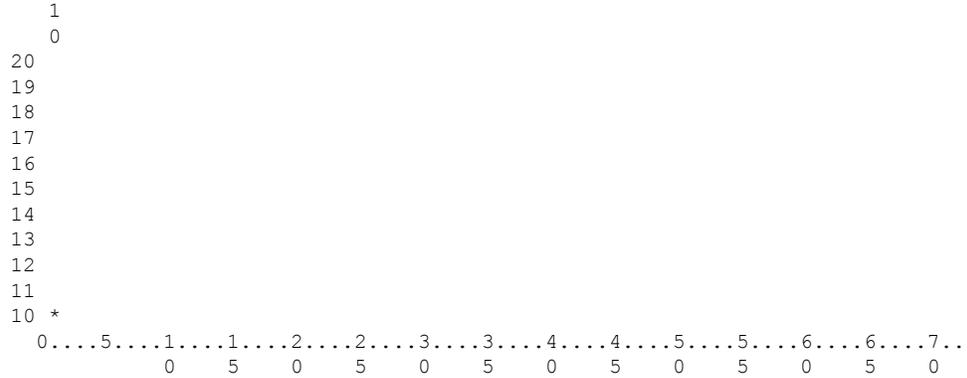


CUBE Standard Trunk License Usage (last 72 days)
\* = maximum # = average

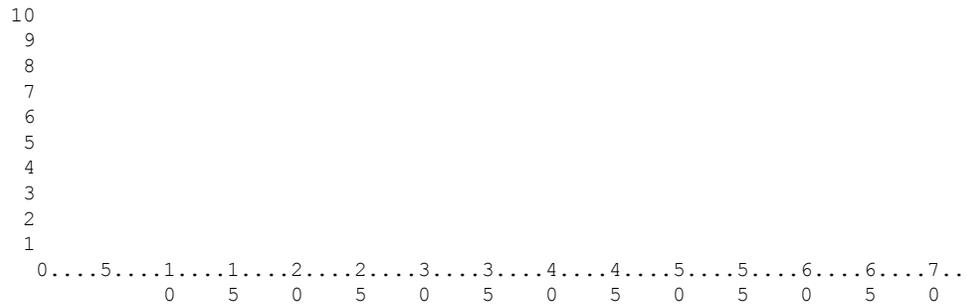
Router 07:37:50 AM Friday Apr 30 2021 UTC



CUBE Enhanced Trunk License Usage (last 60 minutes)
\* = maximum # = average



CUBE Enhanced Trunk License Usage (last 72 hours)
\* = maximum # = average



CUBE Enhanced Trunk License Usage (last 72 days)
\* = maximum # = average

Router 07:37:54 AM Friday Apr 30 2021 UTC



0 5 0 5 0 5 0 5 0 5 0  
CUBE Aggregate Trunk License Usage (last 60 seconds)

10  
9  
8  
7  
6  
5  
4  
3  
2  
1

0...5...1...1...2...2...3...3...4...4...5...5...6  
0 5 0 5 0 5 0 5 0 5 0 5 0  
CUBE Aggregate Trunk License Usage (last 60 minutes)  
\* = maximum # = average

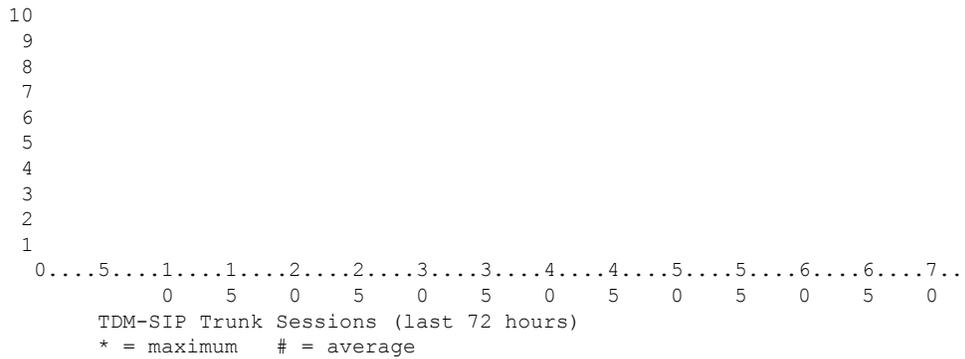
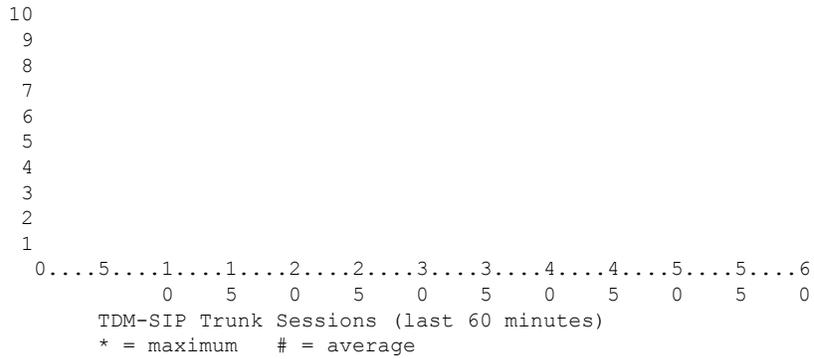
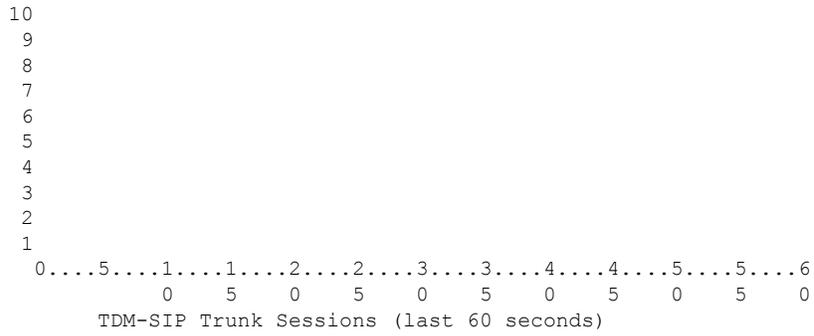
1  
0  
20  
19  
18  
17  
16  
15  
14  
13  
12  
11  
10 \*

0...5...1...1...2...2...3...3...4...4...5...5...6...6...7..  
0 5 0 5 0 5 0 5 0 5 0 5 0 5 0  
CUBE Aggregate Trunk License Usage (last 72 hours)  
\* = maximum # = average

10  
9  
8  
7  
6  
5  
4  
3  
2  
1

0...5...1...1...2...2...3...3...4...4...5...5...6...6...7..  
0 5 0 5 0 5 0 5 0 5 0 5 0 5 0  
CUBE Aggregate Trunk License Usage (last 72 days)  
\* = maximum # = average

Router 07:37:56 AM Friday Apr 30 2021 UTC



```

10
 9
 8
 7
 6
 5
 4
 3
 2
 1
 0....5....1....1....2....2....3....3....4....4....5....5....6....6....7..
      0   5   0   5   0   5   0   5   0   5   0   5   0   5   0
TDM-SIP Trunk Sessions (last 72 days)
* = maximum # = average

```

=====

STANDBY:

```

Router#sh voice sip license status
Host Name: Router
Current Time: Apr 30 2021 07:37:26 UTC
SIP service: Up
License use recorded every: 7 Day(s)
Next record at: Timer not started
Recent use of license(s) for CUBE Enhanced Trunk

```

```

-----
Timestamp                Count
-----

```

Apr 30 2021 05:55:11 UTC 1

Router#sh log | sec LICENSE\_INFO

Router#

Router#

Router#sh voice sip license stats

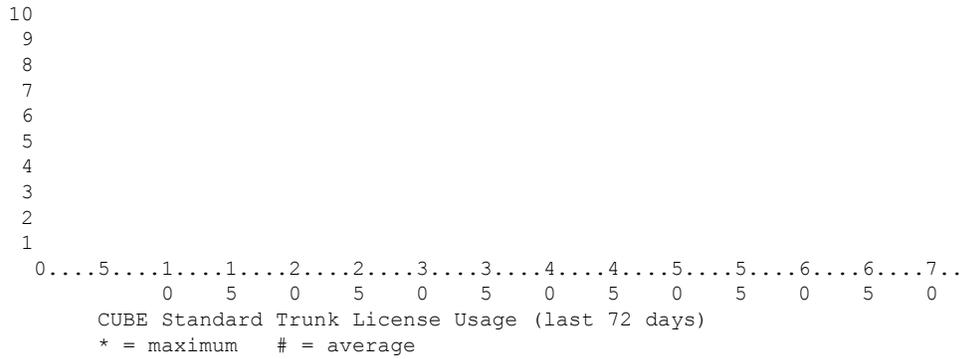
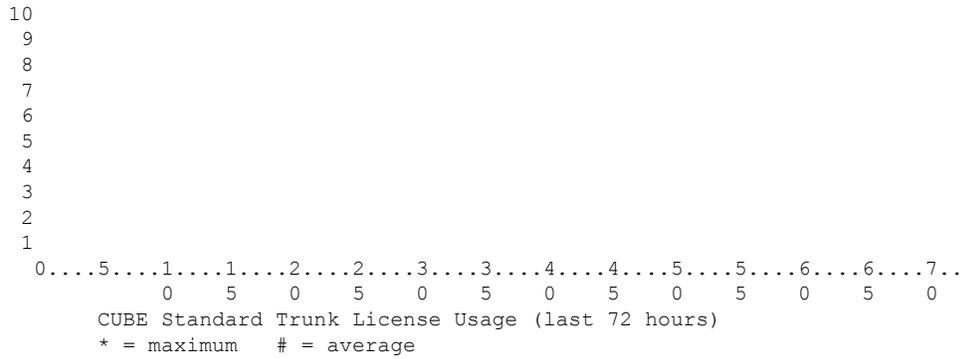
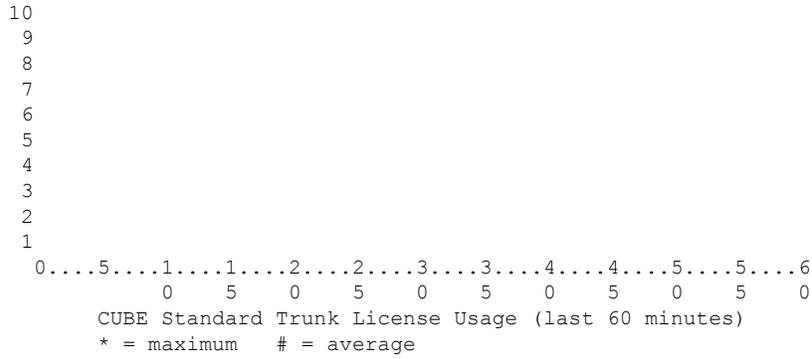
Router 07:38:52 AM Friday Apr 30 2021 UTC

```

10
 9
 8
 7
 6
 5
 4
 3
 2
 1
 0....5....1....1....2....2....3....3....4....4....5....5....6
      0   5   0   5   0   5   0   5   0   5   0   5   0
CUBE Standard Trunk License Usage (last 60 seconds)

```

show voice sip license



Router 07:38:52 AM Friday Apr 30 2021 UTC

```
10
 9
 8
 7
 6
 5
 4
 3
 2
 1
0....5....1....1....2....2....3....3....4....4....5....5....6
   0   5   0   5   0   5   0   5   0   5   0   5   0
CUBE Enhanced Trunk License Usage (last 60 seconds)
```

```
10
 9
 8
 7
 6
 5
 4
 3
 2
 1
0....5....1....1....2....2....3....3....4....4....5....5....6
   0   5   0   5   0   5   0   5   0   5   0   5   0
CUBE Enhanced Trunk License Usage (last 60 minutes)
* = maximum # = average
```

```
1
0
20
19
18
17
16
15
14
13
12
11
10 *
0....5....1....1....2....2....3....3....4....4....5....5....6....6....7..
   0   5   0   5   0   5   0   5   0   5   0   5   0   5   0
CUBE Enhanced Trunk License Usage (last 72 hours)
* = maximum # = average\
```

show voice sip license

```

10
9
8
7
6
5
4
3
2
1
0.....5.....1.....1.....2.....2.....3.....3.....4.....4.....5.....5.....6.....6.....7..
   0    5    0    5    0    5    0    5    0    5    0    5    0    5    0
CUBE Enhanced Trunk License Usage (last 72 days)
* = maximum # = average

```

Router 07:38:57 AM Friday Apr 30 2021 UTC

```

10
9
8
7
6
5
4
3
2
1
0.....5.....1.....1.....2.....2.....3.....3.....4.....4.....5.....5.....6
   0    5    0    5    0    5    0    5    0    5    0    5    0
CUBE Aggregate Trunk License Usage (last 60 seconds)

```

```

10
9
8
7
6
5
4
3
2
1
0.....5.....1.....1.....2.....2.....3.....3.....4.....4.....5.....5.....6
   0    5    0    5    0    5    0    5    0    5    0    5    0
CUBE Aggregate Trunk License Usage (last 60 minutes)
* = maximum # = average

```

1

```

0
20
19
18
17
16
15
14
13
12
11
10 *
0...5...1...1...2...2...3...3...4...4...5...5...6...6...7..
   0  5  0  5  0  5  0  5  0  5  0  5  0  5  0  5  0
CUBE Aggregate Trunk License Usage (last 72 hours)
* = maximum # = average

```

```

10
9
8
7
6
5
4
3
2
1
0...5...1...1...2...2...3...3...4...4...5...5...6...6...7..
   0  5  0  5  0  5  0  5  0  5  0  5  0  5  0  5  0
CUBE Aggregate Trunk License Usage (last 72 days)
* = maximum # = average

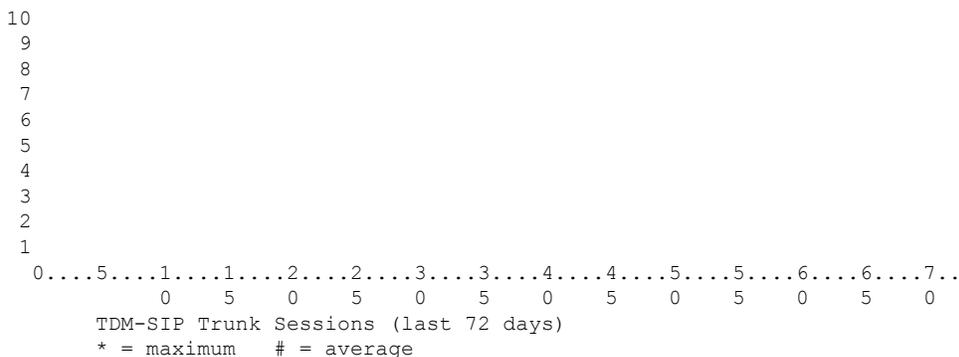
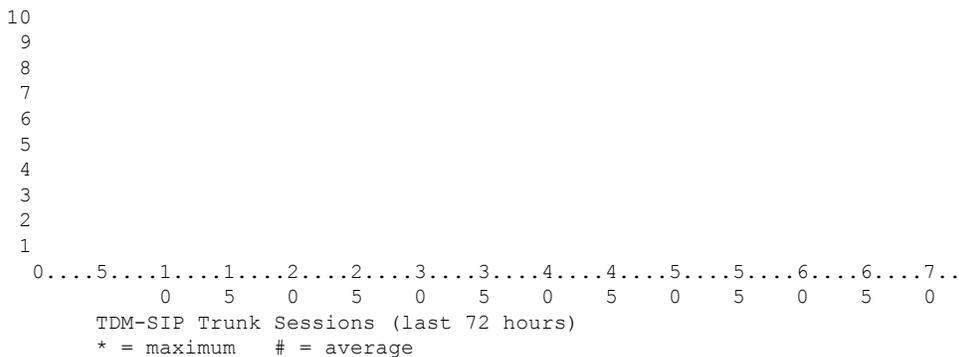
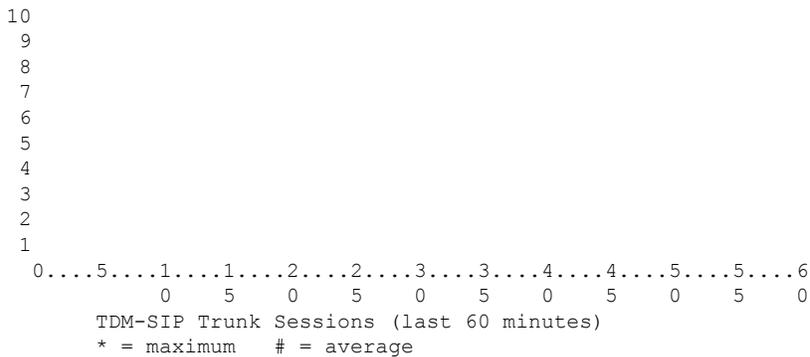
```

Router 07:38:58 AM Friday Apr 30 2021 UTC

```

10
9
8
7
6
5
4
3
2
1
0...5...1...1...2...2...3...3...4...4...5...5...6
   0  5  0  5  0  5  0  5  0  5  0  5  0
TDM-SIP Trunk Sessions (last 60 seconds)

```



CUBE の WebSocket のライセンス使用状況レポートには、最新の 10 件の使用状況レポートの概要が含まれています。次に、スタンドアロンモードの CUBE ルータに対する **show voice sip license** の出力例を示します。

```
Router#show voice sip license status
Host Name: Router
```

```

Current Time: Mar 30 2021 00:32:35 UTC
SIP service: Up
License use recorded every: 8 Hour(s)
Next record at: Mar 30 2021 07:00:00 UTC
Recent use of license(s) for CUBE Standard Trunk

```

```

-----
Timestamp                Count
-----
Mar 29 2021 23:00:00 UTC    0
Mar 29 2021 22:00:00 UTC    9
Mar 29 2021 21:00:00 UTC   24
Mar 29 2021 20:00:00 UTC   13
Mar 29 2021 11:00:00 UTC    0
Mar 29 2021 09:00:00 UTC    2

```

```
Recent use of license(s) for CUBE Enhanced Trunk
```

```

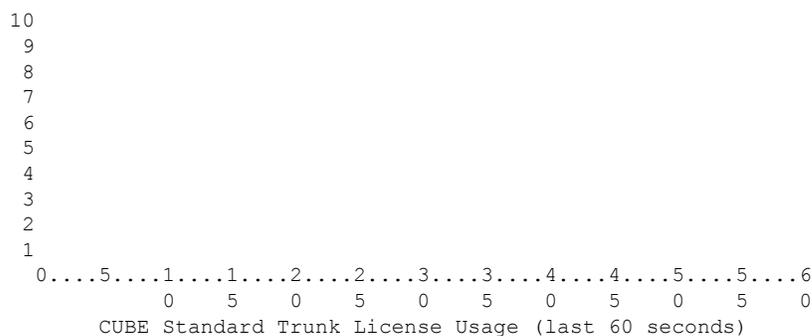
-----
Timestamp                Count
-----
Mar 29 2021 21:00:00 UTC    0
Mar 29 2021 20:00:00 UTC    2
Mar 29 2021 11:00:00 UTC    0
Mar 29 2021 09:00:00 UTC    8

```

```
=====
```

```
Router#sh voice sip license stats
```

```
Router 12:34:22 AM Tuesday Mar 30 2021 UTC
```

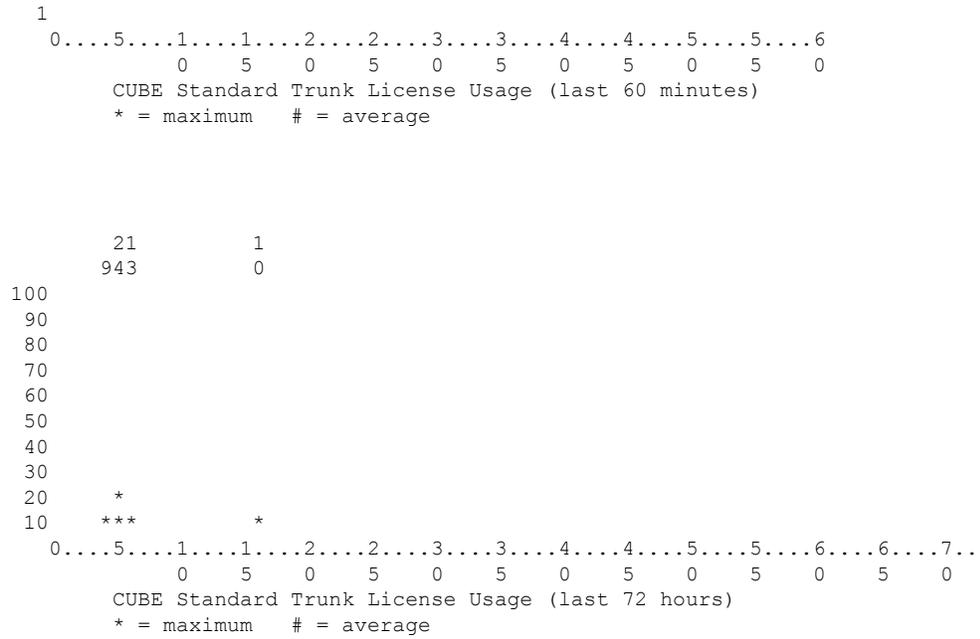


```

10
9
8
7
6
5
4
3
2

```

show voice sip license



Router 12:34:23 AM Tuesday Mar 30 2021 UTC

10  
9  
8  
7  
6  
5  
4  
3  
2

```

1
0...5...1...1...2...2...3...3...4...4...5...5...6
  0  5  0  5  0  5  0  5  0  5  0  5  0
CUBE Enhanced Trunk License Usage (last 60 seconds)

```

```

10
9
8
7
6
5
4
3
2
1
0...5...1...1...2...2...3...3...4...4...5...5...6
  0  5  0  5  0  5  0  5  0  5  0  5  0
CUBE Enhanced Trunk License Usage (last 60 minutes)
* = maximum # = average

```

```

          2          8
10
9
8          *
7          *
6          *
5          *
4          *
3          *
2          *
1          *
0...5...1...1...2...2...3...3...4...4...5...5...6...6...7..
  0  5  0  5  0  5  0  5  0  5  0  5  0  5  0
CUBE Enhanced Trunk License Usage (last 72 hours)
* = maximum # = average

```

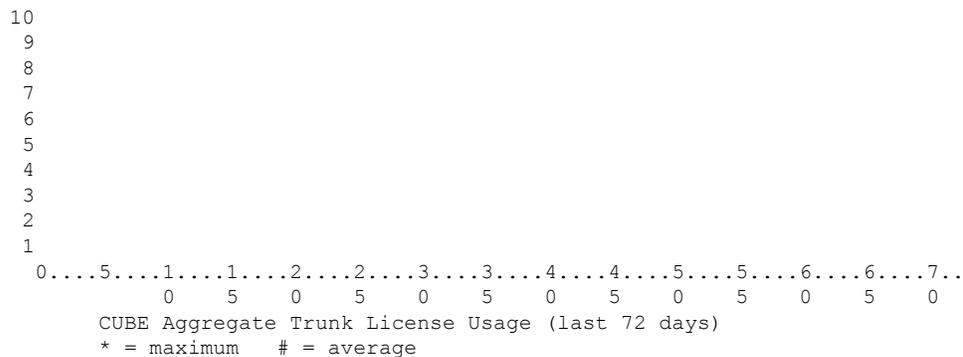
```

10
9
8
7
6
5
4
3
2
1
0...5...1...1...2...2...3...3...4...4...5...5...6...6...7..
  0  5  0  5  0  5  0  5  0  5  0  5  0  5  0
CUBE Enhanced Trunk License Usage (last 72 days)

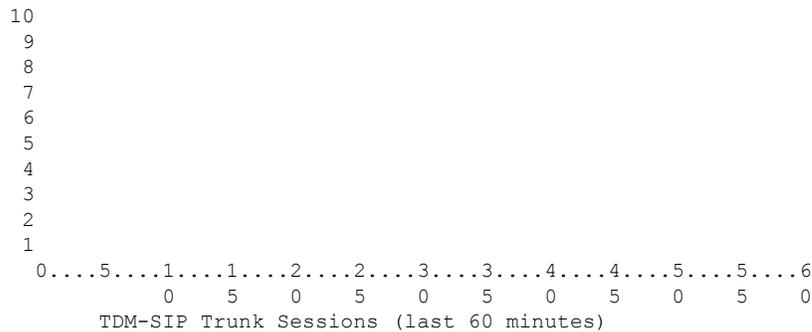
```



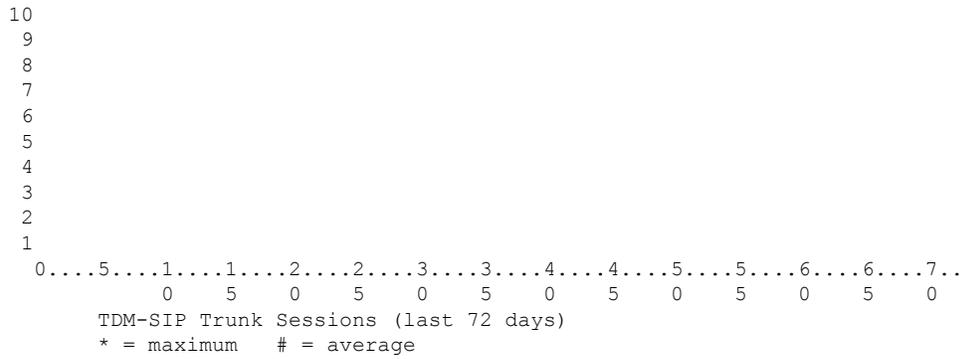
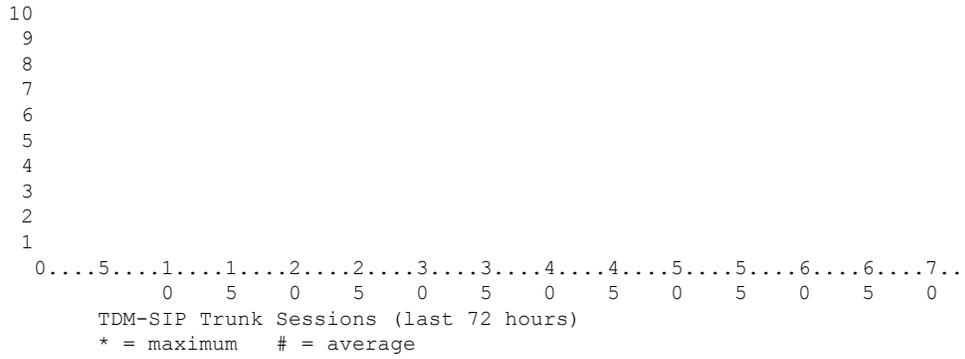
\* = maximum # = average



Router 12:34:25 AM Tuesday Mar 30 2021 UTC



\* = maximum # = average



## show voice source-group

1つまたは複数の音声送信元 IP グループに関する詳細を表示するには、特権 EXEC モードで **show voice source-group** コマンドを使用します。

**show voice source-group** [{*name* | **sort** [{**ascending** | **descending**}]}]

構文の説明	<i>name</i>	(任意) 表示したい送信元 IP グループ名。
	<b>sort</b> [ <b>ascending</b>   <b>descending</b> ]	(任意) 送信元 IP グループを英数字昇順または英数字降順で表示します。

コマンドデフォルト 昇順

コマンドモード 特権 EXEC (#)

リリース	変更内容
12.2(11)T	このコマンドが導入されました。

### 例

次の出力例では、無効な設定が表示されています。

```
Router# show voice source-group abc
Source Group: abc
  description="",
  carrier-id source="sj_area",
  carrier-id target="",
  trunk-group-label source="",
  trunk-group-label target="ny_main",
  h323zone-id="",
  access-list=,
  disconnect-cause="no-service",
  translation-profile="",
```

次の出力例では、キャリア ID ルーティングの有効な設定が表示されています。

```
Router# show voice source-group abc
Source Group: abc
  description="",
  carrier-id source="",
  carrier-id target="",
  trunk-group-label source="texas_backup",
  trunk-group-label target="ny_main",
  h323zone-id="",
  access-list=,
  disconnect-cause="no-service",
  translation-profile="",
```

キャリア ID ルーティングを使用している場合は、2つの **carrier-ID** フィールド両方に出力が表示され、「**trunk-group-label**」フィールドが空白の状態になります。

次の出力例では、送信元グループが昇順で表示されています。両方の送信元 IP グループで、キャリア ID ルーティングが使用されています。

```
Router# show voice source-group sort ascending
Source Group:1
  description="routec calls from 1311 to 1411",
  carrier-id source="1311",
  carrier-id target="1411",
  trunk-group-label source="",
  trunk-group-label target="",
  h323zone-id="fr1311",
  access-list= ,
  disconnect-cause="user-busy",
  destination-pattern="",
  incoming called-number="",
  translation-profile="10",
Source Group:2
  description="",
  carrier-id source="abcd",
  carrier-id target="xyz",
  trunk-group-label source="",
  trunk-group-label target="",
  h323zone-id="",
  access-list= ,
  disconnect-cause="no-service",
  destination-pattern="",
  incoming called-number="",
  translation-profile="",
```

下の表に、このコマンド出力で表示される重要なフィールドの説明を示します。

表 25: show voice source-group のフィールドの説明

フィールド	説明
<b>Source Group</b>	音声送信元 IP グループの名前。
<b>description</b>	音声送信元 IP グループの説明。
<b>carrier-id source</b>	終端ゲートウェイがターゲットキャリアの選択に使用する送信元キャリア ID の名前。
<b>carrier-id target</b>	終端ゲートウェイが、当該コールを POTS 回線経由でルーティングするためのダイヤルピアを選択するために使用するターゲットキャリア ID の名前。
<b>trunk-group-label source</b>	発信ゲートウェイが、当該コールを着信ダイヤルピア経由でルーティングするために使用する送信元トランクグループの名前。
<b>trunk-group-label target</b>	終端ゲートウェイが、発信コールを POTS 回線経由でルーティングするためのダイヤルピアを選択するために使用するターゲットトランクグループの名前。
<b>h323zone-id</b>	当該音声送信元 IP グループに対する着信 H.323 コールに関連付けられているゾーン名。

フィールド	説明
<b>access-list</b>	当該音声送信元 IP グループがコールのブロックに使用するアクセスリストの番号。
<b>disconnect-cause</b>	コールがブロックされたときに音声送信元 IP グループが返すフレーズ。
<b>translation-profile</b>	音声送信元 IP グループがコールの変換に使用するトランスレーションプロファイルの名前。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>voice source-group</b>	音声送信元 IP グループの定義を開始します。

## show voice statistics csr interval accounting

設定された間隔に基づくアカウントリング統計を表示するには、特権 EXEC モードで **show voice statistics csr interval accounting** コマンドを使用します。

```
show voice statistics csr interval tag-number accounting {all | method-list method-list-name}
[push {all | ftp | syslog}]
```

構文の説明	tag-number	指定された時間範囲を表す間隔。有効な範囲は 1 ~ 36655 です。  (注) まず最初に <b>show voice statistics interval-tag</b> コマンドを入力して、このコマンドに入力するための有効なタグ番号を取得する必要があります。
	all	すべての音声アカウントリング統計を表示します。
	method-list method-list-name	メソッドリスト別のアカウントリング統計を表示します。メソッドリスト名を指定する必要があります。
	push	(任意) 統計を、FTP サーバーまたは syslog サーバー、あるいは両方のサーバーにダウンロードします。キーワードは次のとおりです。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• all -- 統計を FTP サーバーと syslog サーバーの両方にプッシュします。</li> <li>• ftp -- 統計を FTP サーバーにプッシュします。</li> <li>• syslog -- 統計を syslog サーバーにプッシュします。</li> </ul>

### コマンドモード

特権 EXEC (#)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.3(4)T	このコマンドが導入されました。

### 例

次の出力例は、メソッドリスト h323-1 および間隔タグ 102 に関して収集されたすべての統計を表示したものです。

```
Router# show voice statistics csr interval 102 accounting method-list h323-1
Client Type: Voice ACCT Stats
      Start Time: 2002-05-01T19:35:17Z      End Time: 2002-05-01T19:36:29Z
methodlist=h323-1,acc_pass_criteria=1,pstn_in_pass=0,pstn_in_fail=0,pstn_out_pass=0,
pstn_out_fail=0,ip_in_pass=0,ip_in_fail=0,ip_out_pass=0,ip_out_fail=0
```

下の表に、重要な出力フィールドの一覧とその説明を示します。

表 26 : show voice statistics csr interval accounting のフィールドの説明

フィールド	説明
Client Type	収集された統計のタイプ。
Start Time	統計収集の開始時刻。
End Time	統計収集の終了時刻。
method-list	メソッドリスト名。
acc_pass_criteria	<p>アカウントティングの成功基準 :</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 : すべての開始/中間/停止メッセージが通過した。</li> <li>• 2 : すべての開始/停止メッセージが通過した。</li> <li>• 3 : stop-only (停止のみ) メッセージが通過した。</li> </ul>
pstn_in_pass	acc_pass_criteria に合格した PSTN レッグの着信コール数。
pstn_in_fail	acc_pass_criteria に不合格だった PSTN レッグの着信コール数。
pstn_out_pass	acc_pass_criteria に合格した PSTN レッグの発信コール数。
pstn_out_fail	acc_pass_criteria に不合格だった PSTN レッグの発信コール数。
ip_in_pass	acc_pass_criteria に合格した IP レッグの着信コール数。
ip_in_fail	acc_pass_criteria に不合格だった IP レッグの着信コール数。
ip_out_pass	acc_pass_criteria に合格した IP レッグの発信コール数。
ip_out_fail	acc_pass_criteria に不合格だった IP レッグの発信コール数。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show event-manager consumers</b>	イベントマネージャの統計情報を表示します。
<b>show voice statistics csr interval aggregation</b>	シグナリング統計に設定された間隔で統計情報を表示します。
<b>show voice statistics csr since-reset accounting</b>	最後のリセット以降のすべてのアカウントティング CSR を表示します。
<b>show voice statistics csr since-reset aggregation-level</b>	最後のリセット以降のすべてのシグナリング CSR を表示します。
<b>show voice statistics csr since-reset all</b>	最後のリセット以降のすべての CSR を表示します。

コマンド	説明
<b>show voice statistics interval-tag</b>	設定済みの間隔番号を表示します。
<b>show voice statistics memory-usage</b>	現在のメモリ使用率を表示します。

## show voice statistics csr interval aggregation

設定された間隔に基づくシグナリング統計を表示するには、特権 EXEC モードで **show voice statistics csr interval aggregation** コマンドを使用します。

```
show voice statistics csr interval tag-number aggregation {all | gateway | ip | pstn | trunk-group


```

### 構文の説明

<b>tag-number</b>	指定された時間範囲を表す間隔。有効な範囲は 1 ~ 36655 です。  (注) まず最初に <b>show voice statistics interval-tag</b> コマンドを入力して、このコマンドに入力するための有効なタグ番号を取得する必要があります。
<b>all</b>	すべてのレベルのシグナリング統計情報を表示します。
<b>gateway</b>	ゲートウェイ全体レベルの統計を表示します。
<b>ip</b>	VoIP インターフェイス別の統計を表示します。
<b>pstn</b>	電話インターフェイス別の統計を表示します。
<b>trunk-group</b>	トランクグループ別の統計を表示します。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>trunk-group-label</b> -- 特定のトランクグループの統計を表示します</li> <li>• <b>all</b> -- すべてのトランクグループの統計を表示します。</li> </ul>
<b>voice-port</b>	次のいずれかで音声ポート別の統計を表示します。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>voice-port-label</b> -- 特定の音声ポートの統計を表示します</li> <li>• <b>all</b> -- すべての音声ポートの統計を表示します。</li> </ul>
<b>mode</b>	(任意) 指定したモードで統計を表示します。キーワードは次のとおりです。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>concise</b> -- 合計コール数、応答されたコール数、および応答されたコールの継続時間を含む出力内容を表示します。</li> <li>• <b>verbose</b> -- コール統計レコード (CSR) に含まれているフィールドをすべて表示します。これがデフォルトの設定です。</li> </ul>

push	<p>(任意) 統計を、FTPサーバーまたはsyslogサーバー、あるいは両方のサーバーにダウンロードします。キーワードは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• all -- 統計を FTP サーバーと syslog サーバーの両方にプッシュします。</li> <li>• ftp -- 統計を FTP サーバーにプッシュします。</li> <li>• syslog -- 統計を syslog サーバーにプッシュします。</li> </ul>
------	--

## コマンドモード

特権 EXEC (#)

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.3(4)T	このコマンドが導入されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドは、**voice statistics time-range** コマンドが **periodic** または **start-stop** のいずれかの値に設定されている場合にのみ有効です。**show voice statistics csr interval aggregation** コマンドを入力済みであるものの、ゲートウェイで前回リセット以降の統計のみを収集するように設定されている場合、ゲートウェイはエラーメッセージを表示します。

まず最初に **show voice statistics interval-tag** を入力して、このコマンドに入力するための有効なタグ番号を取得する必要があります。

## 例

次の出力例は、間隔タグ 200 のすべてのレベルで集約されたシグナリング統計を表示したものです。

```
Router# show voice statistics csr interval 200 aggregation all
Client Type: VCSR
      Start Time: 2002-04-28T01:48:24Z      End Time: 2002-04-28T01:50:01Z
record_type=gw,trunk_group_id=,voice_port_id=,in_call=0,in_ans=0,in_fail=0,out_call=0,
out_ans=0,out_fail=0,in_szre_d=0,out_szre_d=0,in_conn_d=0,out_conn_d=0,orig_disconn=0,
in_ans_abnorm=0,out_ans_abnorm=0,in_mcd=0,out_mcd=0,in_pdd=0,out_pdd=0,in_setup_delay=0,
out_setup_delay=0,lost_pkt=0,latency=0,jitter=0,in_disc_cc_16=0,out_disc_cc_16=0
!
record_type=ip,trunk_group_id=,voice_port_id=,in_call=0,in_ans=0,in_fail=0,out_call=0,
out_ans=0,out_fail=0,in_szre_d=0,out_szre_d=0,in_conn_d=0,out_conn_d=0,orig_disconn=0,
in_ans_abnorm=0,out_ans_abnorm=0,in_mcd=0,out_mcd=0,in_pdd=0,out_pdd=0,in_setup_delay=0,
out_setup_delay=0,lost_pkt=0,latency=0,jitter=0,in_disc_cc_16=0,out_disc_cc_16=0
!
record_type=pstn,trunk_group_id=,voice_port_id=,in_call=0,in_ans=0,in_fail=0,out_call=0,
out_ans=0,out_fail=0,in_szre_d=0,out_szre_d=0,in_conn_d=0,out_conn_d=0,orig_disconn=0,
in_ans_abnorm=0,out_ans_abnorm=0,in_mcd=0,out_mcd=0,in_pdd=0,out_pdd=0,in_setup_delay=0,
out_setup_delay=0,in_disc_cc_16=0,out_disc_cc_16=0
!
record_type=vp,trunk_group_id=,voice_port_id=4/0/0,in_call=0,in_ans=0,in_fail=0,
out_call=0,out_ans=0,out_fail=0,in_szre_d=0,out_szre_d=0,in_conn_d=0,out_conn_d=0,
orig_disconn=0,in_ans_abnorm=0,out_ans_abnorm=0,in_mcd=0,out_mcd=0,in_pdd=0,out_pdd=0,
in_setup_delay=0,out_setup_delay=0,in_disc_cc_16=0,out_disc_cc_16=0
!
record_type=vp,trunk_group_id=,voice_port_id=4/0/1,in_call=0,in_ans=0,in_fail=0,
out_call=0,out_ans=0,out_fail=0,in_szre_d=0,out_szre_d=0,in_conn_d=0,out_conn_d=0,
orig_disconn=0,in_ans_abnorm=0,out_ans_abnorm=0,in_mcd=0,out_mcd=0,in_pdd=0,out_pdd=0,
in_setup_delay=0,out_setup_delay=0,in_disc_cc_16=0,out_disc_cc_16=0
!
```

```

record_type=vp,trunk_group_id=,voice_port_id=4/1/0,in_call=0,in_ans=0,in_fail=0,
out_call=0,out_ans=0,out_fail=0,in_szre_d=0,out_szre_d=0,in_conn_d=0,out_conn_d=0,
orig_disconn=0,in_ans_abnorm=0,out_ans_abnorm=0,in_mcd=0,out_mcd=0,in_pdd=0,out_pdd=0,
in_setup_delay=0,out_setup_delay=0,in_disc_cc_16=0,out_disc_cc_16=0
!
record_type=vp,trunk_group_id=,voice_port_id=4/1/1,in_call=0,in_ans=0,in_fail=0,
out_call=0,out_ans=0,out_fail=0,in_szre_d=0,out_szre_d=0,in_conn_d=0,out_conn_d=0,
orig_disconn=0,in_ans_abnorm=0,out_ans_abnorm=0,in_mcd=0,out_mcd=0,in_pdd=0,out_pdd=0,
in_setup_delay=0,out_setup_delay=0,in_disc_cc_16=0,out_disc_cc_16=0
!
record_type=vp,trunk_group_id=,voice_port_id=2/0:23,in_call=0,in_ans=0,in_fail=0
,out_call=0,out_ans=0,out_fail=0,in_szre_d=0,out_szre_d=0,in_conn_d=0,out_conn_d=0,
orig_disconn=0,in_ans_abnorm=0,out_ans_abnorm=0,in_mcd=0,out_mcd=0,in_pdd=0,out_pdd=0,
in_setup_delay=0,out_setup_delay=0,in_disc_cc_16=0,out_disc_cc_16=0
!
record_type=vp,trunk_group_id=,voice_port_id=2/1:23,in_call=0,in_ans=0,in_fail=0
out_call=0,out_ans=0,out_fail=0,in_szre_d=0,out_szre_d=0,in_conn_d=0,out_conn_d=0,
orig_disconn=0,in_ans_abnorm=0,out_ans_abnorm=0,in_mcd=0,out_mcd=0,in_pdd=0,out_pdd=0,
in_setup_delay=0,out_setup_delay=0,in_disc_cc_16=0,out_disc_cc_16=0

```

下の表に、重要な出力フィールドの一覧とその説明を示します。

表 27: show voice statistics csr interval aggregation のフィールドの説明

フィールド	説明
Client Type	収集された統計のタイプ。
Start Time	統計収集の開始時刻。
End Time	統計収集の終了時刻。
record_type	コール統計レコードのタイプ。シンボルは、gw、ip、pstn、tg、および vp です。
trunk_group_id	トランクグループの ID。 (注) シンボル gw、ip、pstn で表されるレコード、および一部の vp レコードでは、このフィールドには何も表示されません。
voice_port_id	音声ポートの ID。 (注) シンボル gw、ip、pstn で表されるレコード、および一部の vp レコードでは、このフィールドには何も表示されません。
in_call	着信コール数。
in_ans	ゲートウェイが応答した着信コールの数。
in_fail	失敗した着信コールの数。
out_call	試行された発信コールの数。
out_ans	応答を受信した発信コール数。
out_fail	失敗した発信コールの数。

フィールド	説明
in_szre_d	着信捕捉の持続時間（秒単位）。
out_szre_d	発信捕捉の持続時間（秒単位）。
in_conn_d	着信接続時間（秒単位）。
out_conn_d	発信接続時間（秒単位）。
orig_disconn	発信コールが接続される前に発信側が切断されたコールの数。
in_ans_abnorm	応答があった着信コールのうち、「通常」以外の原因コードで終了したコールの数。
out_ans_abnorm	応答があった発信コールのうち、「通常」以外の原因コードで終了したコールの数。
in_mcd	持続時間が設定された最小コール時間（MCD）未満だった着信コールの数。
out_mcd	持続時間が設定された MCD 未満だった発信コールの数。
in_pdd	着信コールにおけるダイヤル後の遅延時間（ミリ秒単位）。
out_pdd	発信コールにおけるダイヤル後の遅延時間（ミリ秒単位）。
in_setup_delay	インバウンドの合計セットアップ遅延時間（ミリ秒単位）。
out_setup_delay	アウトバウンドの合計セットアップ遅延時間（ミリ秒単位）。
lost_pkt	設定数を超えるパケット損失が生じたコールの数。  (注) このフィールドは、IPレコードにのみ表示されます。他のタイプのレコードでは、このフィールドは空になり、余分なコンマが表示されます。
latency	設定値を超える遅延時間が発生したコール数。  (注) このフィールドは、IPレコードにのみ表示されます。他のタイプのレコードでは、このフィールドは空になり、余分なコンマが表示されます。
jitter	設定量を超えるジッターが発生したコールの数。  (注) このフィールドは、IPレコードにのみ表示されます。他のタイプのレコードでは、このフィールドは空になり、余分なコンマが表示されます。
in_cc_no	着信コールごとにおける後続の接続解除原因コードのカウント数（5 未満であると想定されます）。

フィールド	説明
in_disc_cc	着信の接続解除原因コード。たとえば in_disc_cc_16=3 と表示されている場合、3つのコールが切断原因コード16（正常）で切断または終了したことを示します。
out_disc_cc	着信の接続解除原因コード。
out_cc_no	発信コールごとにおける後続の接続解除原因コードのカウント数（5未満であると想定されます）。
in_cc_id	着信コールにおける後続フィールドの接続解除原因コード ID。
in_cc_cntr	着信コールにおける接続解除原因コードのカウント（任意の組の着信原因コードカウント）。
out_cc_id	発信コールにおける後続のフィールドの接続解除原因コード ID。
out_cc_cntr	発信コールにおける接続解除原因コードのカウント（任意の組の発信原因コードカウント）。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show event-manager consumers</b>	イベント統計情報を表示します。
<b>show voice statistics csr interval accounting</b>	アカウンティング統計に設定された間隔で統計情報を表示します。
<b>show voice statistics csr since-reset accounting</b>	最後のリセット以降のすべてのアカウンティング CSR を表示します。
<b>show voice statistics csr since-reset aggregation-level</b>	最後のリセット以降のすべてのシグナリング CSR を表示します。
<b>show voice statistics csr since-reset all</b>	最後のリセット以降のすべての CSR を表示します。
<b>show voice statistics interval-tag</b>	設定済みの間隔番号を表示します。
<b>show voice statistics memory-usage</b>	現在のメモリ使用率を表示します。
<b>voice statistics time-range</b>	CSR を収集する時間範囲を指定します。

## show voice statistics csr since-reset accounting

前回のリセット以降の VoIP AAA アカウンティング統計を表示するには、特権 EXEC モードで **show voice statistics csr since-reset accounting** コマンドを使用します。

**show voice statistics csr since-reset accounting** {all|method-list *method-list-name*} [push {all|ftp|syslog}]

構文の説明		
all		前回のリセット以降に収集されたすべての統計が表示されます。
method-list <i>method-list-name</i>		前回のリセット以降に収集された、メソッドリスト別の統計が表示されます。method-list-name 引数で、表示するメソッドリストの名前を指定します。
push		(任意) 統計を、FTP サーバーまたは syslog サーバー、あるいは両方のサーバーにダウンロードします。キーワードは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• all -- 統計を FTP サーバーと syslog サーバーの両方にプッシュします。</li> <li>• ftp -- 統計を FTP サーバーにプッシュします。</li> <li>• syslog -- 統計を syslog サーバーにプッシュします。</li> </ul>

### コマンドモード

特権 EXEC (#)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.3(4)T	このコマンドが導入されました。

### 使用上のガイドライン

このコマンドは、**voice statistics time-range** コマンドが **since-reset** 値に設定されている場合のみ適用されます。ゲートウェイでの音声統計収集は、**clear voice statistics csr** コマンドを使用してリセットされます。

**show voice statistics csr since-reset accounting** コマンドを入力しても、ゲートウェイで定期的な統計収集または特定の間隔が設定されている場合は、ゲートウェイからエラーメッセージが表示されます。

### 例

次の出力例は、メソッドリスト h323-1 における前回のリセット以降のアカウンティング統計を示しています。

```
Router# show voice statistics csr since-reset accounting method-list h323-1
Client Type: Voice ACCT Stats
      Start Time: 2002-05-05T17:39:17Z           End Time: 2002-05-09T19:00:16Z
methodlist=h323-1,acc_pass_criteria=1,pstn_in_pass=0,pstn_in_fail=1,pstn_out_pass=0,
pstn_out_fail=0,ip_in_pass=0,ip_in_fail=0,ip_out_pass=0,ip_out_fail=1
```

下の表に、重要な出力フィールドの一覧とその説明を示します。

表 28 : *show voice statistics csr since-reset accounting* のフィールドの説明

フィールド	説明
Client Type	収集された統計のタイプ。
Start Time	統計収集の開始時刻。
End Time	統計収集の終了時刻。
method-list	メソッドリスト名。
acc_pass_criteria	<p>アカウントティングの成功基準：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 : すべての開始/中間/停止メッセージが通過した。</li> <li>• 2 : すべての開始/停止メッセージが通過した。</li> <li>• 3 : stop-only (停止のみ) メッセージが通過した。</li> </ul>
pstn_in_pass	acc_pass_criteria に合格した PSTN レッグの着信コール数。
pstn_in_fail	acc_pass_criteria に不合格だった PSTN レッグの着信コール数。
pstn_out_pass	acc_pass_criteria に合格した PSTN レッグの発信コール数。
pstn_out_fail	acc_pass_criteria に不合格だった PSTN レッグの発信コール数。
ip_in_pass	acc_pass_criteria に合格した IP レッグの着信コール数。
ip_in_fail	acc_pass_criteria に不合格だった IP レッグの着信コール数。
ip_out_pass	acc_pass_criteria に合格した IP レッグの発信コール数。
ip_out_fail	acc_pass_criteria に不合格だった IP レッグの発信コール数。

#### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>clear voice statistics</b>	音声統計をクリアし、統計収集をリセットします。
<b>show event-manager consumers</b>	イベント統計情報を表示します。
<b>show voice statistics csr interval accounting</b>	アカウントティング統計に設定された間隔で統計情報を表示します。
<b>show voice statistics csr interval aggregation</b>	シグナリング統計に設定された間隔で統計情報を表示します。

コマンド	説明
<b>show voice statistics csr since-reset aggregation-level</b>	最後のリセット以降のすべてのシグナリングCSRを表示します。
<b>show voice statistics interval-tag</b>	設定済みの間隔番号を表示します
<b>show voice statistics memory-usage</b>	現在のメモリ使用率を表示します。
<b>voice statistics time-range</b>	前回のリセット以降、または特定の期間において、ゲートウェイから統計を定期的に収集する時間範囲を指定します。

## show voice statistics csr since-reset aggregation-level

前回のリセット以降のシグナリング統計を表示するには、特権 EXEC モードで `show voice statistics csr since-reset aggregation-level` コマンドを使用します。

```
show voice statistics csr since-reset aggregation-level {all | gateway | ip | pstn | trunk-group
{alltrunk-group-label} | voice-port {allvoice-port-label}} [mode {concise | verbose}] [push {all |
ftp | syslog}]
```

### 構文の説明

<b>all</b>	すべてのシグナリング統計。
<b>gateway</b>	ゲートウェイ全体レベルの統計。
<b>ip</b>	VoIP インターフェイス別の統計。
<b>pstn</b>	PSTN 別の統計。
<b>trunk-group</b>	トランクグループ別の統計。キーワードと引数は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>all</b> -- すべてのトランクグループの統計。</li> <li>• <b>trunk-group-label</b> -- 特定のトランクグループの統計。</li> </ul>
<b>voice-port</b>	音声ポート別の統計。キーワードと引数は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>all</b> -- すべての音声ポートの統計。</li> <li>• <b>voice-port-label</b> -- 特定の音声ポートの統計。</li> </ul>
<b>mode</b>	(任意) 指定したモードの統計。キーワードは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>concise</b> -- 合計コール数、応答されたコール数、および応答されたコールの継続時間を含む出力内容を表示します。</li> <li>• <b>verbose</b> -- コール統計レコード (CSR) に含まれるすべてのフィールド。これはデフォルトです。</li> </ul>
<b>push</b>	(任意) 統計を、FTP サーバーまたは syslog サーバー、あるいは両方のサーバーにダウンロードします。キーワードは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>all</b> -- 統計を FTP サーバーと syslog サーバーの両方にプッシュします。</li> <li>• <b>ftp</b> -- 統計を FTP サーバーにプッシュします。</li> <li>• <b>syslog</b> -- 統計を syslog サーバーにプッシュします。</li> </ul>

### コマンドモード

特権 EXEC (#)

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.3(4)T	このコマンドが導入されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドは、**voice statistics time-range** コマンドが **since-reset** 値に設定されている場合にのみ適用されます。ゲートウェイでの音声統計収集は、**clear voice statistics csr** コマンドを使用してリセットされます。

**show voice statistics csr since-reset aggregation-level** コマンドを入力しても、ゲートウェイで定期的な統計収集または特定の間隔が設定されている場合は、ゲートウェイからエラーメッセージが表示されます。

## 例

次の出力例は、前回のリセット以降のすべての集約レベルのシグナリング統計を示しています。

```
Router# show voice statistics csr since-reset aggregation-level all
Client Type: VCSR
      Start Time: 2002-04-25T01:48:12Z      End Time: 2002-04-25T01:50:01Z
record_type=gw,trunk_group_id=,voice_port_id=,in_call=0,in_ans=0,in_fail=0,out_call=0,
out_ans=0,out_fail=0,in_szre_d=0,out_szre_d=0,in_conn_d=0,out_conn_d=0,orig_disconn=0,
in_ans_abnorm=0,out_ans_abnorm=0,in_mcd=0,out_mcd=0,in_pdd=0,out_pdd=0,in_setup_delay=0,
out_setup_delay=0,lost_pkt=0,latency=0,jitter=0,in_disc_cc_16=0,out_disc_cc_16=0
!
record_type=ip,trunk_group_id=,voice_port_id=,in_call=0,in_ans=0,in_fail=0,out_call=0,
out_ans=0,out_fail=0,in_szre_d=0,out_szre_d=0,in_conn_d=0,out_conn_d=0,orig_disconn=0,
in_ans_abnorm=0,out_ans_abnorm=0,in_mcd=0,out_mcd=0,in_pdd=0,out_pdd=0,in_setup_delay=0,
out_setup_delay=0,lost_pkt=0,latency=0,jitter=0,in_disc_cc_16=0,out_disc_cc_16=0
!
record_type=pstn,trunk_group_id=,voice_port_id=,in_call=0,in_ans=0,in_fail=0,out_call=0,
out_ans=0,out_fail=0,in_szre_d=0,out_szre_d=0,in_conn_d=0,out_conn_d=0,orig_disconn=0,
in_ans_abnorm=0,out_ans_abnorm=0,in_mcd=0,out_mcd=0,in_pdd=0,out_pdd=0,in_setup_delay=0,
out_setup_delay=0,in_disc_cc_16=0,out_disc_cc_16=0
!
record_type=vp,trunk_group_id=,voice_port_id=4/0/0,in_call=0,in_ans=0,in_fail=0,
out_call=0,out_ans=0,out_fail=0,in_szre_d=0,out_szre_d=0,in_conn_d=0,out_conn_d=0,
orig_disconn=0,in_ans_abnorm=0,out_ans_abnorm=0,in_mcd=0,out_mcd=0,in_pdd=0,out_pdd=0,
in_setup_delay=0,out_setup_delay=0,in_disc_cc_16=0,out_disc_cc_16=0
!
record_type=vp,trunk_group_id=,voice_port_id=4/0/1,in_call=0,in_ans=0,in_fail=0,
out_call=0,out_ans=0,out_fail=0,in_szre_d=0,out_szre_d=0,in_conn_d=0,out_conn_d=0,
orig_disconn=0,in_ans_abnorm=0,out_ans_abnorm=0,in_mcd=0,out_mcd=0,in_pdd=0,out_pdd=0,
in_setup_delay=0,out_setup_delay=0,in_disc_cc_16=0,out_disc_cc_16=0
!
record_type=vp,trunk_group_id=,voice_port_id=4/1/0,in_call=0,in_ans=0,in_fail=0,
out_call=0,out_ans=0,out_fail=0,in_szre_d=0,out_szre_d=0,in_conn_d=0,out_conn_d=0,
orig_disconn=0,in_ans_abnorm=0,out_ans_abnorm=0,in_mcd=0,out_mcd=0,in_pdd=0,out_pdd=0,
in_setup_delay=0,out_setup_delay=0,in_disc_cc_16=0,out_disc_cc_16=0
!
record_type=vp,trunk_group_id=,voice_port_id=4/1/1,in_call=0,in_ans=0,in_fail=0,
out_call=0,out_ans=0,out_fail=0,in_szre_d=0,out_szre_d=0,in_conn_d=0,out_conn_d=0,
orig_disconn=0,in_ans_abnorm=0,out_ans_abnorm=0,in_mcd=0,out_mcd=0,in_pdd=0,out_pdd=0,
in_setup_delay=0,out_setup_delay=0,in_disc_cc_16=0,out_disc_cc_16=0
!
record_type=vp,trunk_group_id=,voice_port_id=2/0:23,in_call=0,in_ans=0,in_fail=0,
out_call=0,out_ans=0,out_fail=0,in_szre_d=0,out_szre_d=0,in_conn_d=0,out_conn_d=0,
orig_disconn=0,in_ans_abnorm=0,out_ans_abnorm=0,in_mcd=0,out_mcd=0,in_pdd=0,out_pdd=0,
in_setup_delay=0,out_setup_delay=0,in_disc_cc_16=0,out_disc_cc_16=0
!
```

```
record_type=vp,trunk_group_id=,voice_port_id=2/1:23,in_call=0,in_ans=0,in_fail=0
out_call=0,out_ans=0,out_fail=0,in_szre_d=0,out_szre_d=0,in_conn_d=0,out_conn_d=0,
orig_disconn=0,in_ans_abnorm=0,out_ans_abnorm=0,in_mcd=0,out_mcd=0,in_pdd=0,out_pdd=0,
in_setup_delay=0,out_setup_delay=0,in_disc_cc_16=0,out_disc_cc_16=0
```

次の出力例は、前回のリセット以降のIP集約レベルのシグナリング統計を示しています。

```
Router# show voice statistics csr since-reset aggregation-level ip
Client Type: VCSR
Start Time: 2002-04-25T01:48:12Z End Time: 2002-05-02T21:21:27Z
record_type=ip,trunk_group_id=,voice_port_id=2,in_call=5,in_ans=5,in_fail=0,out_call=0,out_ans=0,out_fail=0,in_szre_d=0,out_szre_d=0,in_conn_d=0,out_conn_d=0,
in_ans_abnorm=0,out_ans_abnorm=0,in_mcd=0,out_mcd=0,in_pdd=0,out_pdd=0,in_setup_delay=0,
out_setup_delay=0,lost_pkt=0,latency=0,jitter=0,in_disc_cc_16=0,out_disc_cc_16=0
```

次の出力例は、最後のリセット以降のPSTN集約レベルのシグナリング統計を示しています。

```
Router# show voice statistics csr since-reset aggregation-level pstn
Client Type: VCSR
Start Time: 2002-04-25T01:48:12Z End Time: 2002-05-02T21:21:42Z
record_type=pstn,trunk_group_id=25,voice_port_id=2,in_call=100,in_ans=10,in_fail=90,
out_call=0,out_ans=0,out_fail=0,in_szre_d=100,out_szre_d=0,in_conn_d=0,out_conn_d=0,
orig_disconn=0,in_ans_abnorm=0,out_ans_abnorm=0,in_mcd=0,out_mcd=0,in_pdd=0,out_pdd=0,
in_setup_delay=0,out_setup_delay=0,in_disc_cc_16=0,out_disc_cc_16=0
```

下の表に、重要な出力フィールドの一覧とその説明を示します。

表 29 : show voice statistics csr since-reset aggregation-level のフィールドの説明

フィールド	説明
Client Type	収集された統計のタイプ。
Start Time	統計収集の開始時刻。
End Time	統計収集の終了時刻。
record_type	コール統計レコードのタイプ。シンボルは、gw、ip、pstn、tg、およびvpです。
trunk_group_id	トランクグループのID。 (注) シンボル gw、ip、pstn で表されるレコード、および一部の vp レコードでは、このフィールドには何も表示されません。
voice_port_id	音声ポートのID。 (注) シンボル gw、ip、pstn で表されるレコード、および一部の vp レコードでは、このフィールドには何も表示されません。
in_call	着信コール数。
in_ans	ゲートウェイが応答した着信コールの数。

フィールド	説明
in_fail	失敗した着信コールの数。
out_call	試行された発信コールの数。
out_ans	応答を受信した発信コール数。
out_fail	失敗した発信コールの数。
in_szre_d	着信捕捉の持続時間（秒単位）。
out_szre_d	発信捕捉の持続時間（秒単位）。
in_conn_d	着信接続時間（秒単位）。
out_conn_d	発信接続時間（秒単位）。
orig_disconn	発信コールが接続される前に発信側が切断されたコールの数。
in_ans_abnorm	応答があった着信コールのうち、「通常」以外の原因コードで終了したコールの数。
out_ans_abnorm	応答があった発信コールのうち、「通常」以外の原因コードで終了したコールの数。
in_mcd	持続時間が設定された最小コール時間（MCD）未満だった着信コールの数。
out_mcd	持続時間が設定された MCD 未満だった発信コールの数。
in_pdd	着信コールにおけるダイヤル後の遅延時間（ミリ秒単位）。
out_pdd	発信コールにおけるダイヤル後の遅延時間（ミリ秒単位）。
in_setup_delay	インバウンドの合計セットアップ遅延時間（ミリ秒単位）。
out_setup_delay	アウトバウンドの合計セットアップ遅延時間（ミリ秒単位）。
lost_pkt	設定数を超えるパケット損失が生じたコールの数。  (注) このフィールドは、IPレコードにのみ表示されます。他のタイプのレコードでは、このフィールドは空になり、余分なコンマが表示されます。
latency	設定値を超える遅延時間が発生したコール数。  (注) このフィールドは「IP」レコードにのみ表示されます。他のタイプのレコードでは、このフィールドは空になり、余分なコンマが表示されます。

フィールド	説明
jitter	設定量を超えるジッターが発生したコールの数。 (注) このフィールドは、IP レコードにのみ表示されます。他のタイプのレコードでは、このフィールドは空になり、余分なコンマが表示されます。
in_disc_cc	着信の接続解除原因コード。たとえば in_disc_cc_16=3 と表示されている場合、3 つのコールが切断原因コード 16 (正常) で切断または終了したことを示します。
out_disc_cc	着信の接続解除原因コード。
in_cc_no	着信コールごとにおける後続の接続解除原因コードのカウンタ数 (5 未満であると想定されます)。
out_cc_no	発信コールごとにおける後続の接続解除原因コードのカウンタ数 (5 未満であると想定されます)。
in_cc_id	着信コールにおける後続フィールドの接続解除原因コード ID。
in_cc_cntr	着信コールにおける接続解除原因コードのカウンタ (任意の組の着信原因コードカウンタ)。
out_cc_id	発信コールにおける後続のフィールドの接続解除原因コード ID。
out_cc_cntr	発信コールにおける接続解除原因コードのカウンタ (任意の組の発信原因コードカウンタ)。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>clear voice statistics</b>	音声統計をクリアし、統計収集をリセットします。
<b>clear voice statistics csr</b>	ゲートウェイの音声統計収集設定をクリアします。
<b>show event-manager consumers</b>	イベント統計情報を表示します。
<b>show voice statistics csr interval accounting</b>	アカウンティング統計に設定された間隔で統計情報を表示します。
<b>show voice statistics csr interval aggregation</b>	シグナリング統計に設定された間隔で統計情報を表示します。
<b>show voice statistics csr since-reset accounting</b>	最後のリセット以降のすべてのアカウンティング CSR を表示します。
<b>show voice statistics interval-tag</b>	指定した間隔内の音声統計を表示します。

コマンド	説明
<b>show voice statistics memory-usage</b>	現在のメモリ使用率を表示します。
<b>voice statistics time-range</b>	CSR を収集する時間範囲を指定します。

## show voice statistics csr since-reset all

リセット発生以降の音声コール統計情報をすべて表示するには、特権 EXEC モードで **show voice statistics csr since-reset all** コマンドを使用します。

**show voice statistics csr since-reset all** [**mode** {**concise**|**verbose**}] [**push** {**all**|**ftp**|**syslog**}]

### 構文の説明

<b>mode</b>	(任意) 指定したモードで統計を表示します。キーワードは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>concise</b>-- 合計コール数、応答されたコール数、および応答されたコールの継続時間を含む出力内容を表示します。</li> <li>• <b>verbose</b>-- コール統計レコード (CSR) に含まれているフィールドをすべて表示します。これがデフォルトの設定です。</li> </ul>
<b>push</b>	(任意) 統計を、FTP サーバーまたは <b>syslog</b> サーバー、あるいは両方のサーバーにダウンロードします。キーワードは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>all</b> -- 統計を FTP サーバーと <b>syslog</b> サーバーの両方にプッシュします。</li> <li>• <b>ftp</b> -- 統計を FTP サーバーにプッシュします。</li> <li>• <b>syslog</b> -- 統計を <b>syslog</b> サーバーにプッシュします。</li> </ul>

### コマンドモード

特権 EXEC (#)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.3(4)T	このコマンドが導入されました。

### 使用上のガイドライン

このコマンドは、VoIP 内部エラーコード (IEC) を表示およびプッシュする用途にも使用できます。

### 例

次の例は、前回リセット以降に収集されたすべての統計を表示したものです。

```
Router# show voice statistics csr since-reset all
Client Type: VCSR
      Start Time: 2002-05-01T19:35:17Z          End Time: 2002-05-01T19:36:26Z
record_type=gw,trunk_group_id=,voice_port_id=,in_call=0,in_ans=0,in_fail=0,out_call=0,
out_ans=0,out_fail=0,in_szre_d=0,out_szre_d=0,in_conn_d=0,out_conn_d=0,orig_disconn=0,
in_ans_abnorm=0,out_ans_abnorm=0,in_mcd=0,out_mcd=0,in_pdd=0,out_pdd=0,in_setup_delay=0,
out_setup_delay=0,lost_pkt=0,latency=0,jitter=0,in_disc_cc_16=0,out_disc_cc_16=0
!
record_type=ip,trunk_group_id=,voice_port_id=,in_call=0,in_ans=0,in_fail=0,out_call=0,
out_ans=0,out_fail=0,in_szre_d=0,out_szre_d=0,in_conn_d=0,out_conn_d=0,orig_disconn=0,
in_ans_abnorm=0,out_ans_abnorm=0,in_mcd=0,out_mcd=0,in_pdd=0,out_pdd=0,in_setup_delay=0,
out_setup_delay=0,lost_pkt=0,latency=0,jitter=0,in_disc_cc_16=0,out_disc_cc_16=0
!
record_type=pstn,trunk_group_id=,voice_port_id=,in_call=0,in_ans=0,in_fail=0,out_call=0,
```

```

out_ans=0,out_fail=0,in_szre_d=0,out_szre_d=0,in_conn_d=0,out_conn_d=0,orig_disconn=0,
in_ans_abnorm=0,out_ans_abnorm=0,in_mcd=0,out_mcd=0,in_pdd=0,out_pdd=0,in_setup_delay=0,
out_setup_delay=0,in_disc_cc_16=0,out_disc_cc_16=0
!
record_type=vp,trunk_group_id=,voice_port_id=4/0/0,in_call=0,in_ans=0,in_fail=0,
out_call=0,out_ans=0,out_fail=0,in_szre_d=0,out_szre_d=0,in_conn_d=0,out_conn_d=0,
orig_disconn=0,in_ans_abnorm=0,out_ans_abnorm=0,in_mcd=0,out_mcd=0,in_pdd=0,out_pdd=0,
in_setup_delay=0,out_setup_delay=0,in_disc_cc_16=0,out_disc_cc_16=0
!
record_type=vp,trunk_group_id=,voice_port_id=4/0/1,in_call=0,in_ans=0,in_fail=0,
out_call=0,out_ans=0,out_fail=0,in_szre_d=0,out_szre_d=0,in_conn_d=0,out_conn_d=0,
orig_disconn=0,in_ans_abnorm=0,out_ans_abnorm=0,in_mcd=0,out_mcd=0,in_pdd=0,out_pdd=0,
in_setup_delay=0,out_setup_delay=0,in_disc_cc_16=0,out_disc_cc_16=0
!
record_type=vp,trunk_group_id=,voice_port_id=4/1/0,in_call=0,in_ans=0,in_fail=0,
out_call=0,out_ans=0,out_fail=0,in_szre_d=0,out_szre_d=0,in_conn_d=0,out_conn_d=0,
orig_disconn=0,in_ans_abnorm=0,out_ans_abnorm=0,in_mcd=0,out_mcd=0,in_pdd=0,out_pdd=0,
in_setup_delay=0,out_setup_delay=0,in_disc_cc_16=0,out_disc_cc_16=0
!
record_type=vp,trunk_group_id=,voice_port_id=4/1/1,in_call=0,in_ans=0,in_fail=0,
out_call=0,out_ans=0,out_fail=0,in_szre_d=0,out_szre_d=0,in_conn_d=0,out_conn_d=0,
orig_disconn=0,in_ans_abnorm=0,out_ans_abnorm=0,in_mcd=0,out_mcd=0,in_pdd=0,out_pdd=0,
in_setup_delay=0,out_setup_delay=0,in_disc_cc_16=0,out_disc_cc_16=0
!
record_type=vp,trunk_group_id=,voice_port_id=2/0:23,in_call=0,in_ans=0,in_fail=0
out_call=0,out_ans=0,out_fail=0,in_szre_d=0,out_szre_d=0,in_conn_d=0,out_conn_d=0,
orig_disconn=0,in_ans_abnorm=0,out_ans_abnorm=0,in_mcd=0,out_mcd=0,in_pdd=0,out_pdd=0,
in_setup_delay=0,out_setup_delay=0,in_disc_cc_16=0,out_disc_cc_16=0
!
record_type=vp,trunk_group_id=,voice_port_id=2/1:23,in_call=0,in_ans=0,in_fail=0
out_call=0,out_ans=0,out_fail=0,in_szre_d=0,out_szre_d=0,in_conn_d=0,out_conn_d=0,
orig_disconn=0,in_ans_abnorm=0,out_ans_abnorm=0,in_mcd=0,out_mcd=0,in_pdd=0,out_pdd=0,
in_setup_delay=0,out_setup_delay=0,in_disc_cc_16=0,out_disc_cc_16=0
Client Type: Voice ACCT Stats
      Start Time: 2002-05-01T19:35:17Z      End Time: 2002-05-01T19:36:29Z
methodlist=h323-1,acc_pass_criteria=1,pstn_in_pass=0,pstn_in_fail=0,pstn_out_pass=0,
pstn_out_fail=0,ip_in_pass=0,ip_in_fail=0,ip_out_pass=0,ip_out_fail=0

```

下の表に、重要な出力フィールドの一覧とその説明を示します。

表 30 : show voice statistics csr since-reset all のフィールドの説明

フィールド	説明
Client Type	収集された統計のタイプ。
Start Time	統計収集の開始時刻。
End Time	統計収集の終了時刻。
record_type	コール統計レコードのタイプ。シンボルは、gw、ip、pstn、tg、および vp です。
trunk_group_id	トランクグループの ID。  (注) シンボル gw、ip、pstn で表されるレコード、および一部の vp レコードでは、このフィールドには何も表示されません。

フィールド	説明
voice_port_id	音声ポートの ID。 (注) シンボル gw、ip、pstn で表されるレコード、および一部の vp レコードでは、このフィールドには何も表示されません。
in_call	着信コール数。
in_ans	ゲートウェイが応答した着信コールの数。
in_fail	失敗した着信コールの数。
out_call	試行された発信コールの数。
out_ans	応答を受信した発信コール数。
out_fail	失敗した発信コールの数。
in_szre_d	着信捕捉の持続時間 (秒単位)。
out_szre_d	発信捕捉の持続時間 (秒単位)。
in_conn_d	着信接続時間 (秒単位)。
out_conn_d	発信接続時間 (秒単位)。
orig_disconn	発信コールが接続される前に発信側が切断されたコールの数。
in_ans_abnorm	応答があった着信コールのうち、「通常」以外の原因コードで終了したコールの数。
out_ans_abnorm	応答があった発信コールのうち、「通常」以外の原因コードで終了したコールの数。
in_mcd	持続時間が設定された最小コール時間 (MCD) 未満だった着信コールの数。
out_mcd	持続時間が設定された MCD 未満だった発信コールの数。
in_pdd	着信コールにおけるダイヤル後の遅延時間 (ミリ秒単位)。
out_pdd	発信コールにおけるダイヤル後の遅延時間 (ミリ秒単位)。
in_setup_delay	インバウンドの合計セットアップ遅延時間 (ミリ秒単位)。
out_setup_delay	アウトバウンドの合計セットアップ遅延時間 (ミリ秒単位)。
lost_pkt	設定数を超えるパケット損失が生じたコールの数。 (注) このフィールドは、IP レコードにのみ表示されます。他のタイプのレコードでは、このフィールドは空になり、余分なコンマが表示されます。

フィールド	説明
latency	設定値を超える遅延時間が発生したコール数。 (注) このフィールドは、IPレコードにのみ表示されます。他のタイプのレコードでは、このフィールドは空になり、余分なコンマが表示されます。
jitter	設定量を超えるジッターが発生したコールの数。 (注) このフィールドは、IPレコードにのみ表示されます。他のタイプのレコードでは、このフィールドは空になり、余分なコンマが表示されます。
in_disc_cc	着信の接続解除原因コード。たとえば in_disc_cc_16=3 と表示されている場合、3つのコールが切断原因コード16（正常）で切断または終了したことを示します。
out_disc_cc	着信の接続解除原因コード。
in_cc_no	着信コールごとにおける後続の接続解除原因コードのカウント数（5未満であると想定されます）。
out_cc_no	発信コールごとにおける後続の接続解除原因コードのカウント数（5未満であると想定されます）。
in_cc_id	着信コールにおける後続フィールドの接続解除原因コードID。
in_cc_cntr	着信コールにおける接続解除原因コードのカウント（任意の組の着信原因コードカウント）。
out_cc_id	発信コールにおける後続のフィールドの接続解除原因コードID。
out_cc_cntr	発信コールにおける接続解除原因コードのカウント（任意の組の発信原因コードカウント）。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>clear voice statistics</b>	音声統計をクリアし、統計収集をリセットします。
<b>show event-manager consumers</b>	イベント統計情報を表示します。
<b>show voice statistics csr interval accounting</b>	アカウント統計に設定された間隔で統計情報を表示します。
<b>show voice statistics csr interval aggregation</b>	シグナリング統計に設定された間隔で統計情報を表示します。

コマンド	説明
<b>show voice statistics csr since-reset accounting</b>	最後のリセット以降のすべてのアカウントリング CSR を表示します。
<b>show voice statistics csr since-reset aggregation-level</b>	最後のリセット以降のすべてのシグナリング CSR を表示します。
<b>show voice statistics interval-tag</b>	指定した間隔内の音声統計を表示します。
<b>show voice statistics memory-usage</b>	現在のメモリ使用率を表示します。

## show voice statistics iec

内部エラーコード (IEC) の統計情報を表示するには、ユーザー EXEC モードまたは特権 EXEC モードで **show voice statistics iec** コマンドを使用します。

**show voice statistics iec** {*interval number* | *since-reboot* | *since-reset*} [*push* [{*all* | *ftp* | *syslog*}] ]

構文の説明		
	<b>interval</b>	指定した間隔の統計情報を表示します。
	<i>number</i>	間隔タグ番号。範囲は 1 ~ 36655 です。
	<b>since-reboot</b>	前回の再起動以降の IEC 統計を表示します。
	<b>since-reset</b>	前回リセット以降の IEC 統計を表示します。
	<b>push</b>	オフロード先のプッシュインターフェイスを指定します。
	<b>all</b>	IEC 統計がすべてのプッシュインターフェイスにオフロードされることを示します。
	<b>ftp</b>	IEC 統計が FTP サーバーにオフロードされることを示します。
	<b>syslog</b>	IEC 統計が syslog サーバーにオフロードされることを示します。

コマンドモード ユーザー EXEC (#) 特権 EXEC (#)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.3(4)T	このコマンドが導入されました。
	12.4(24)T	Cisco IOS リリース 12.4(24)T よりも前のリリースにおいて、このコマンドが変更されました。キーワード <b>push all</b> 、 <b>ftp</b> および <b>syslog</b> が追加されました。

**使用上のガイドライン** 特定の間隔を指定して IEC 統計を表示するには、まず事前に **show voice statistics interval-tag** コマンドで使用可能な間隔オプションを表示する必要があります。前回の再起動以降の IEC 統計を表示するには、まず事前に **voice statistics type iec** コマンドを設定しておく必要があります。前回リセット以降の IEC 統計を表示するには、まず事前に **voice statistics type iec** コマンドおよび **voice statistics time-range since-reset** コマンドを設定しておく必要があります。

**例** 次の出力例は、**show voice statistics iec since-reset** コマンドで前回 IEC カウンタがクリアされた時点以降の統計を表示したものです。

```
Router# show voice statistics iec since-reset
Internal Error Code counters
-----
Counters since last reset (2002-11-28T01:55:31Z):
  SUBSYSTEM CCAPI [subsystem code 1]
```

```

[errcode 6] No DSP resource 5
SUBSYSTEM SSAPP [subsystem code 4]
[errcode 5] No dial peer match 2
[errcode 3] CPU high 96
SUBSYSTEM H323 [subsystem code 5]
[errcode 22] No Usr Responding, H225 timeout 1
[errcode 27] H225 invalid msg 1
[errcode 79] H225 chn, sock fail 27
SUBSYSTEM VTSP [subsystem code 9]
[errcode 6] No DSP resource 83

```

次の表で、この出力に表示される重要なフィールドを説明します。

表 31 : *show voice statistics iec* のフィールドの説明

フィールド	説明
SUBSYSTEM	IEC が生成された物理エンティティ内の特定のサブシステムを示します。
errcode	当該サブシステム内のエラーコードを識別します。

次の出力例は、**show voice statistics iec since-reset push all** コマンドで前回 IEC カウンタがクリアされた時点以降の統計を表示し、すべてのプッシュインターフェイスにオフロードしたものです。

```

Router# show voice statistics iec since-reset push all
Internal Error Code counters
-----
Counters since last reset (2009-07-16T01:40:59Z):
No errors.
Router#
*Jul 16 01:43:39.530: %VSTATS-6-IEC: SEQ=1:
stats_type,version,entity_id,start_time,end_time,record_count
IEC,1,7206-2,2009-07-16T01:40:59Z,2009-07-16T01:43:39Z,0

```

#### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>clear voice statistics</b>	音声統計をクリアし、統計収集をリセットします。
<b>show voice statistics</b>	音声統計を表示します。
<b>show voice statistics interval-tag</b>	IEC 統計に使用できる間隔オプションを表示します。
<b>voice statistics time-range since-reset</b>	前回の IEC カウンタリセット以降に蓄積されたコール統計の収集を有効にします。
<b>voice statistics type iec</b>	IEC 統計情報の収集を有効にします。

## show voice statistics interval-tag

ゲートウェイによって割り当てられた間隔番号を表示するには、特権 EXEC モードで **show voice statistics interval-tag** コマンドを使用します。

### show voice statistics interval-tag

#### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

#### コマンドモード

特権 EXEC (#)

#### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.3(4)T	このコマンドが導入されました。

#### 使用上のガイドライン

このコマンドを使用すると、**show voice statistics csr interval accounting** コマンドおよび **show voice statistics csr interval aggregation** コマンドに必要な間隔タグ番号を取得できます。

#### 例

次の例には、特定の間隔タグの開始時刻と終了時刻が表示されています。

```
Router# show voice statistics interval-tag
Current System Time is: 2002-4-1T010:10:00Z
Interval-Tag   Intervals Start Time      End Time
101            2002-3-31T010:00:00Z      2002-3-31T010:55:00Z
105            2002-3-31T012:15:00Z      2002-3-31T012:30:00Z
```

下の表に、重要な出力フィールドの一覧とその説明を示します。

表 32: show voice statistics interval-tag のフィールドの説明

フィールド	説明
Current System Time	ゲートウェイの現在のシステム時刻。
Interval-Tag	間隔番号。
Intervals Start Time	間隔の開始時刻。
End Time	間隔の終了時刻。

#### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show event-manager consumers</b>	イベント統計情報を表示します。
<b>show voice statistics csr interval accounting</b>	アカウンティング統計に設定された間隔で統計情報を表示します。

コマンド	説明
<b>show voice statistics csr interval aggregation</b>	シグナリング統計に設定された間隔で統計情報を表示します。
<b>show voice statistics csr since-reset accounting</b>	最後のリセット以降のすべてのアカウントイング CSR を表示します。
<b>show voice statistics csr since-reset aggregation-level</b>	最後のリセット以降のすべてのシグナリング CSR を表示します。
<b>show voice statistics csr since-reset all</b>	最後のリセット以降のすべての CSR を表示します。
<b>show voice statistics memory-usage</b>	現在のメモリ使用率を表示します。

## show voice statistics memory-usage

コール統計の収集に使用されるメモリ量を表示し、今後のメモリ使用量を推定するには、特権 EXEC モードで **show voice statistics memory-usage** コマンドを使用します。

**show voice statistics memory-usage {all | csr | iec}**

構文の説明	all	シグナリングとアカウントングの両方のコール統計レコード (CSR) の収集に使用されるメモリ量。
	csr	シグナリング CSR の収集のみに使用されるメモリ量。
	iec	Cisco 内部エラーコード (IEC) の収集のみに使用されるメモリ量。

コマンドモード 特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.3(4)T	このコマンドが導入されました。

例

次の例は、最終リセット以降および一定間隔中に、シグナリングとアカウントングに使用されたメモリ使用量をすべて表示したものです。また、今後の推定メモリ使用量も表示されています。

```
Router# show voice statistics memory-usage all
*** Voice Call Statistics Record Memory Usage ***
  Fixed Interval Option -
    CSR size: 136 bytes
    Number of CSR per interval: 9
    Used memory size (proximate): 0
    Estimated future claimed memory size (proximate): 0
  Since Reset Option -
    CSR size: 136 bytes
    Total count of CSR: 9
    Used memory size (proximate): 1224
*** Voice Call Statistics Accounting Record Memory Usage ***
  Fixed Interval Option -
    ACCT REC size: 80 bytes
    Number of ACCT REC per interval: 1
    Used memory size (proximate): 0
    Estimated future claimed memory size (proximate): 0
  Since Reset Option -
    ACCT REC size: 80 bytes
    Total count of ACCT REC: 1
    Used memory size (proximate): 80
```

下の表に、重要な出力フィールドの一覧とその説明を示します。

表 33 : show voice statistics memory-usage のフィールドの説明

フィールド	説明
<b>Voice Call Statistics Record Memory Usage</b>	
Fixed Interval Option:	一定間隔中に収集された統計。
CSR size	一定間隔中の CSR サイズ。
Number of CSR per interval	一定間隔中に収集された CSR の数。
Used memory size (proximate)	統計の保存に現在使用されているメモリ量。
Estimated future claimed memory size (proximate)	統計の保存に使用できるメモリ残量。
Since Reset Option:	ゲートウェイの最終リセットまたは再起動以降に収集された統計。
CSR size	最終リセット以降の CSR サイズ。
Total count of CSR	最終リセット以降に収集された合計 CSR 数。
Used memory size (proximate)	統計の保存に現在使用されているメモリ量。
<b>Voice Call Statistics Accounting Record Memory Usage</b>	
Fixed Interval Option:	一定間隔中に収集された統計。
ACCT REC size	アカウントングレコードのサイズ。
Number of ACCT REC per interval	間隔あたりのアカウントングレコード数。
Used memory size (proximate)	統計の保存に現在使用されているメモリ量。
Estimated future claimed memory size (proximate)	統計の保存に使用できるメモリ残量。
Since Reset Option:	ゲートウェイの最終リセットまたは再起動以降に収集された統計。
ACCT REC size	アカウントングレコードのサイズ。
Total count of ACCT REC	ゲートウェイの最終リセットまたは再起動以降の合計アカウントングレコード数。
Used memory size (proximate)	統計の保存に現在使用されているメモリ量。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show event-manager consumers</b>	イベント統計情報を表示します。
<b>show voice statistics csr interval accounting</b>	アカウントリング統計に設定された間隔で統計情報を表示します。
<b>show voice statistics csr interval aggregation</b>	シグナリング統計に設定された間隔で統計情報を表示します。
<b>show voice statistics csr since-reset accounting</b>	最後のリセット以降のすべてのアカウントリング CSR を表示します。
<b>show voice statistics csr since-reset aggregation-level</b>	最後のリセット以降のすべてのシグナリング CSR を表示します。
<b>show voice statistics csr since-reset all</b>	最後のリセット以降のすべての CSR を表示します。
<b>show voice statistics interval-tag</b>	設定済みの間隔番号を表示します。

## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。